

公益財団法人
東洋文庫年報

2021 年度

公益財団法人 東洋文庫

目次

I	2021年度の東洋文庫	1
II	図書事業	5
	1. 資料の収集	5
	2. 資料の整理	8
	3. 資料の利用と複写サービス	9
	4. 書庫資料の見学と研修	12
	5. 資料の保存整理	12
	6. 書誌情報の公開	13
	7. 書庫内資料と書架スペース	16
	8. 電子図書館情報システム	16
III	研究事業	25
	1. アジア基礎資料研究	32
	A. 資料調査・研究テーマごとの研究体制	35
	B. アジア基礎資料研究における重点活動方針	41
	(1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる 現地研究機関との共同研究の新展開	41
	(2) 総合的アジア研究データベースの推進（発展期）	50
	(3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による 国際発信と国際交流の推進	64
	(4) 研究成果の刊行・発信の強化	66
	(5) 若手研究者の育成	67
	C. 日本学術振興会科学研究費による調査研究	72
	D. 三菱財団研究助成による調査研究	85
	E. 東洋文庫研究員・研究課題一覧	86
	2. 資料研究成果発信	95
	3. 研究情報普及	97
	A. 講演会	97

B. データベース公開	104
C. 研究者の交流および便宜供与のサービス	104
D. 国際交流	107
4. 研究員等の研究業績	107
IV 普及・展示事業	157
1. 展示	157
2. 広報普及	159
V 業務報告	162
1. 総務報告	162
2. 人事報告	164
3. 会計報告	167
VI 役職員名簿	183
1. 役員	183
2. 評議員	184
3. 東洋学連絡委員会委員	185
4. ミュージアム諮問委員会委員	185
5. 名誉研究員	186
6. 職員・研究員	186
7. 客員研究員	192

I 2021年度の東洋文庫

2021年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、および内容の要旨は次のとおりである。

まず本年度内に生じた役職員の異動について述べる。

6月の評議員会にて、理事においては、計9名のうち3名が再任、1名が退任し、新たに3名の選任が行われた。任期満了となった理事のうち、濱下武志、平野健一郎、L.グローブの各氏が再任された。なお、福澤武理事は、ご本人より任期満了をもって辞任との申し出があり、退任となった。新任理事には、佐々木幹夫、榊屋友子、宮永俊一の各氏が選ばれた。

評議員においては、計11名のうち4名が再任、6名が退任し、新たに7名の選任が行われた。任期満了となった評議員のうち、荒蒔康一郎、梅村坦、草原克豪、羽田正の各氏が再任された。なお、久保正彰、瀬谷博道、高見澤磨、東條和彦、増田信行、山家浩樹の各氏は、ご本人より任期満了をもって辞任との申し出があり、退任となった。新任評議員には、稲葉穰、大宮英明、木村恵司、島村琢哉、高橋昭雄、林佳世子、本郷恵子の各氏が選ばれた。

監事においては、任期満了となった森安孝夫氏が再任された。

10月に中根千枝理事が逝去されたこと（後述）により、評議員12名、理事10名、監事2名の体制となった。

また、評議員会に引き続き開催された臨時理事会において、2020年12月に楨原稔前理事長が逝去されて以来空席であった理事長の選出を行い、畔柳信雄理事が理事長に就任した。併せて、業務執行理事（常務理事）に、濱下武志理事、平野健一郎理事が選出された。

畔柳氏は現株式会社三菱UFJ銀行特別顧問で、1941年、東京都に生まれ、1965年、三菱銀行に入行、1996年に東京三菱銀行常務取締役、2006年には三菱東京UFJ銀行初代頭取に就任し、その後会長・相談役を歴任した。同氏は2018年6月より東洋文庫の理事を務め、1924年の創設以来、第13代理事長となる。

本年度は長年にわたり役員を務められた方々が他界された。

29年もの間、東洋文庫の理事を務めた中根千枝氏が2021年10月12日、94歳

で逝去された。同氏は社会人類学者で、女性初の東京大学教授、日本学士院会員等を歴任され、学術系としては女性初の文化勲章受章者となった。東洋文庫においては、1980年より財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター（2003年に終結）の運営委員に就任され、1992年より理事に、2003年には東洋学連絡委員に就任された。同氏のご尽力に深く感謝し、2022年には追悼展示を企画する。

また、11月1日には、東洋文庫の理事・監事を務めた原實氏が91歳で逝去された。同氏はインド古典学者で、元東洋文庫理事長の故辻直四郎氏に師事し、東京大学教授、国際仏教学大学院大学理事長・学長、日本学士院会員等を歴任された。東洋文庫においては、2003年6月から2011年6月までの8年間に理事を、2011年6月から2017年6月までの6年間に監事を務められ、計14年間にわたり東洋文庫に数々のご提言をいただいた。

職員の異動について、図書部においては6月に瀧下彩子図書部課長が退職し、會谷佳光研究部部長代理が図書部課長を兼務することとなった。9月には橘伸子参事が定年退職し、2022年2月に清水信子研究員を職員として採用した。研究部においては7月に相原佳之研究員が研究部課長に就任した。

次に、東洋文庫での新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策について述べる。本年度は、講演会・シンポジウムについてはオンラインでの開催を進めたほか、7階研究室・2階講演室等の施設利用については「東洋文庫研究員のための施設利用ガイドライン」に基づき、感染状況に応じた管理・運営を行った。6月の理事会・評議員会については対面開催としたが、2022年2月の2021年度第2回通常理事会については感染拡大状況を考慮して書面決議とした。

資金運用では、2021年度中に満期となった債券はなかった。債券（約24億1千万円運用）の平均利回りは前年度に引き続き0.76%であった。株式（約4億3千万円運用）の平均利回りは3.85%（前年度比0.2%減）となった。総合的な結果として、2021年度の全体利回りは1.23%（前年度比0.03%増）となった。

本年度は、榎原稔前理事長のご遺族より2000万円、個人の方より1000万円のご寄付をいただいた。榎原前理事長のご遺族からの寄付金は基金化して特

定資産「榎原研究奨励基金」を設立し、給付型奨励金制度を開始した。

設備関連では、故障した空調・電気設備等の修繕を行った。

当文庫のデータベースのアクセス数（訪問数）は、平均して月間約90万件となっている。本年度の図書の増加は、購入2,332冊、受贈2,011冊、合計4,343冊であった。

東洋学講座は、東南アジア研究班、日本研究班が担当し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催した。同様に、東洋文庫アカデミアについてもオンラインで開講した。

研究資料の出版では、本年度は定期出版物8冊に加え、オンラインジャーナル1件、論叢類4冊を刊行・公開した。

ミュージアムでは、本年度も感染防止対策を行ったうえで、開館時間を短縮する対応を続けている。

①『大清帝国展 完全版』

会期：2021年1月27日～4月25日

※当初の1月27日～5月16日の日程から変更

②『江戸から東京へ：地図にみる都市の歴史』

会期：2021年6月2日～9月26日

※当初の5月26日～9月26日の日程から変更

③『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展：「東洋学」の世界へようこそ』

会期：2021年10月6日～2022年1月16日

④『シルクロードの旅』展

会期：2022年1月26日～5月15日

を開催し、年間計32,169名にご来場いただいた。それぞれの図録を「時空をこえる本の旅」シリーズとして刊行した。

シーボルト・ガルテンには、前年度に引き続き東京藝術大学大学院、永井遼太郎氏の卒業作品「具現」を展示している。また、成蹊大学図書館への出張展示は本年度も継続して行った。

株主優待（東洋文庫ミュージアム無料招待券）の利用状況については、三菱重工業、三菱商事、三菱総合研究所から合わせて11,824名にご来場いただいた。

前年度に引き続き本年度も、月刊のメールニュースの発行、機関誌である『東洋見聞録』の刊行を行ったほか、校外学習・博物館実習の生徒・学生を受け入れた。また、スクールパートナーシップの提携先を拡充し、新たに広尾学園小石川中学校・高等学校と提携した。国際交流の面では、本年度新たに英オックスフォード大学セント・アンズ・カレッジとの間に学術交流協定を締結した。

Ⅱ 図 書 事 業

1. 資料の収集

A. 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は29,651,152円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

区 分	決算額	和漢書	洋書	アジア諸語	その他	計
総合アジア圏域研究	3,410,050	25	8	0	0	33
超域・現代中国研究	605,612	62	0	0	0	62
超域・現代イスラーム研究	1,757,567	0	38	316 (104)	0	354 (104)
東アジア研究	2,811,023	144	1	0	0	145
内陸アジア研究	1,476,030	28	61	0	0	89
インド・東南アジア研究	568,093	0	19	0	0	19
西アジア研究	644,894	0	15	146	0	161
共通（継続・大型資料）	18,377,883	1,292 (939)	170 (138)	0	7	1,469 (1,077)
合 計	29,651,152	1,551 (939)	312 (138)	462 (104)	7	2,332 (1,181)

※単位：決算額＝円

「和漢書」・「洋書」・「アジア諸語」・「その他」・「計」＝冊

（「その他」はマイクロフィルム1リール、CD1枚を1冊に換算して記載）

※（ ）内の数字は、上記の冊数のうち雑誌の冊数

主な購入図書・資料としては以下のものがある。

青本 千本さくら	5冊
本朝書籍目録（正徳二年賀茂義顕写本）	1冊
詩経嗜鳳詳解	6冊
近代史所蔵清代名人稿本抄本 第2輯	172冊
海関総署檔案館蔵未刊中国旧海関出版物（1860-1949）	50冊

Wilhelm Heine & Eliphalet Brown Jr., *To Commodore M. C. Perry, Officers & men of the Japan Expedition* (ハイネ／ブラウン『日本遠征画集』)

全6作品のうち2枚

Landing of Commodore Perry, Officers & Men of the Squadron, to Meet the Imperial Commissioners at Yoku-hama, Japan, March 8th 1854 (「1854年3月8日、ペリー提督と艦隊士官が(日本)帝国委員との面会のために横浜に上陸する図(ペリーの横浜上陸図)」)

Landing of Commodore Perry, Officers & Men of the Squadron, to Meet the Imperial Commissioners at Simoda, Japan, June 8th 1854 (「1854年6月8日、ペリー提督と艦隊士官が(日本)帝国委員との面会のために下田に上陸する図(ペリーの下田上陸図)」)

François Caron/Joost Schouten/Johann Jakob Merklein/Christoph Arnold ed., *Wahrhaftige Beschreibungen zweyer mächtigen Königreiche Jappan und Siam* (カロン(著)／スハウテン(著)／メルクライン(訳注・著)／アーノルド(編)『日本大王国志』「シャム王国志」「ゼーランディア城陥落記」「メルクラインの東洋遍歴記」ほか収録) 1冊

Antonio Pigafetta, *Premier Voyage Autour du Monde sur l'Escadre de Magellan, pendant les Années 1519, 20, 21 et 22* (ピガフェッタ『マゼラン世界周航記』) 1冊

B. 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈*					寄 贈		
	和漢書 (冊)	洋書 (冊)	アジア諸語 図書(冊)	その他	計(冊)	国内(冊)	海外(冊)	計(冊)
単行本	884	248	4	47	1,183	719	603	1,322
定期刊行物	691	106	22	9	828	3,222	1,737	4,959
計	1,575	354	26	56	2,011	3,941	2,340	6,281

※単位：冊(「その他」はマイクロフィルム1リール、CD1枚を1冊に換算して記載)

*科学研究費による購入はここに含む。

主な受贈資料としては、以下のものがある。

伊犁河流域厄魯特人民間所蔵托忒文文献匯集	38冊
鉄木爾布和氏・斯琴氏寄贈 内蒙古民間文化研究書	25部29冊

C. 蔵書数

収蔵する蔵書総数は1,055,487冊で、和漢書606,635冊、洋書・アジア諸語448,852冊である。

2. 資料の整理

A. 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	1,330冊
欧米語図書	207冊
アジア諸言語図書	530冊

B. 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文92タイトル（改題含む）、欧文2タイトル、アジア諸語2タイトルである。

	タイトル数			冊数		
	和・中・韓	欧文	アジア諸語	和・中・韓	欧文	アジア諸語
受贈	149	38	9	691	106	22
購入	151	41	1	911	111	29
小計	300	79	10	1,602	217	51
合計	389			1,870		

C. 新聞

本年度は和・中・韓文26種を受け入れた。

3. 資料の利用と複写サービス

A. 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は17名で、内訳は教職員9名（うち外国人2名）、大学生2名、大学院生5名（うち外国人2名）、その他1名であった。

閲覧開館日は240日、利用者数は577名（うち新規利用者145名）、利用資料数は7,758冊で、詳細は後掲の表のとおりである。

なお、東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ372名、2,714冊であった。

(1) 開館日数および閲覧者数

年月	開館日数	書庫 利用者数	閲覧者数	利用者数 小計	日平均	昨年同月比 (△印は減)
2021年 4月	21	23	39	62	3	62
5月	20	20	31	51	3	51
6月	21	34	52	86	4	86
7月	21	43	58	101	5	78
8月	20	46	56	102	5	1
9月	20	29	53	82	4	△ 2
10月	22	43	58	101	5	17
11月	20	29	57	86	4	23
12月	18	26	51	77	4	18
2022年 1月	18	16	46	62	3	12
2月	18	25	39	64	4	△ 9
3月	21	38	37	75	4	△ 8
計	240	372	577	949	4	329

(2) 閲覧カウンター出納冊数

年月	和書		漢籍		洋書		アジア諸語		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
2021年												
4月	46	252	70	259	4	22	27	31	147	564	27	564
5月	48	106	65	332	14	21	24	51	151	510	26	510
6月	70	168	107	371	4	4	30	47	211	590	29	590
7月	75	113	94	587	21	39	36	62	226	801	39	682
8月	68	112	122	567	21	37	11	32	222	748	38	△ 324
9月	64	116	102	407	28	41	12	13	206	577	29	△ 236
10月	94	192	123	576	19	38	25	54	261	860	40	250
11月	63	142	106	505	16	49	2	9	187	705	36	190
12月	79	154	98	469	57	23	15	33	249	679	38	100
2022年												
1月	77	149	83	381	32	38	9	29	201	597	34	133
2月	38	116	71	413	11	26	14	33	134	588	33	△ 45
3月	82	167	50	275	17	27	8	70	157	539	26	△ 132
計	804	1,787	1,091	5,142	244	365	213	464	2,352	7,758	33	2,282
比率	23.03%		66.28%		4.71%		5.98%		100.00%			

(3) 貴重書閲覧予約申請受理件数

申請受理件数は、133件であった。

B. 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりである。

(1) マイクロフィルム

申込件数	紙焼用撮影齣数	紙焼提供枚数	フィルム提供齣数
104	329	424	85

(2) 電子複写

申込件数	提供枚数
464	16,469

C. レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて800件であった。

D. 資料の貸出

博物館・美術館などが主催して行う展覧会への資料の貸出は3件で、詳細は次のとおりである。

	展覧会名	主催者(会場)	展覧会会期	主な資料と数量
1	特別展「武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界」	神奈川県立金沢文庫(同)	2021. 3. 26 ～ 5. 23	『塚本文書』(平安朝至江戸初期)寫本第一軸(四-E-1)全1点1軸
2	漢字ミュージアム「本物の甲骨文字を見てみよう」(東洋文庫コーナー)	公益財団法人日本漢字能力検定協会(漢検 漢字博物館・図書館 漢字ミュージアム)	2021. 5. 19 ～ 11. 5	『甲骨文字片』31, 157, 159, 210, 272 全5片
3	漢字ミュージアム「本物の甲骨文字を見てみよう」(東洋文庫コーナー)	公益財団法人日本漢字能力検定協会(漢検 漢字博物館・図書館 漢字ミュージアム)	2021. 11. 12 ～ 2022. 5. 8	『甲骨文字片』158, 162, 193, 211, 261 全5片

4. 書庫資料の見学と研修

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、見学は実施しなかった。

5. 資料の保存整理

保存整理作業として、保存環境の整備、虫菌害の対策に努めるとともに、破損資料の修理・修復、洋書革装本の保全処置、保存容器の作製などを行った。本年度も昨年度に引き続き、ミュージアムでの展示資料をはじめとする和・漢・洋古典籍（モリソン文庫・岩崎文庫ほか）を中心に作業を行った。その他、2020年度に永青文庫から受託した貴重洋書群コルディエ文庫約5,500冊のクリーニング作業を引き続き行った。

また、2022年4月下旬より2024年にかけて全国5ヶ所で開催予定の特別展「知の大冒険：東洋文庫 名品の煌めき」における出陳資料の状態点検・調査、並びにそれに伴う補修、展示治具の製作・確認などの作業を行った。

以上の保存整理作業は、若手人材育成プロジェクトの一環として、保存修復の専門家による指導のもと実践的に行った。

作業の内容は下記のとおりである。

保存修復措置	点数・冊数
修理・修復（破損による再製本を含む）	洋書 50点 和漢書 299点
革装本の保全処置（HPC 塗布など）	23点
保存容器作製（外注含む）	202点
状態点検・調査のみ（処置なし）	170点
カビ等のクリーニング処置	78点
寄託資料：永青文庫所蔵コルディエ文庫クリーニング作業	76冊

6. 書誌情報の公開

2021年度末現在、当文庫ホームページで提供している所蔵資料の目録データベース (http://124.33.215.236/db_select.html) は下記のとおり。各データベース名の後の数字は収録件数である。なお、「件」の後に「*」があるものについては、件数に変動がないため、『東洋文庫年報 2020年度』（2021年3月発行）の数字を用いた。

I. 書誌

A. 凡アジア〔図書部〕

（逐刊）

A 1	中文逐次刊行物	5,225件
A 2	日本文逐次刊行物	3,113件
A 3	欧文逐次刊行物	3,982件
	うちアジア諸語刊行物	732件
A 4	朝鮮韓国語逐次刊行物	849件

（洋書総合）

A 5	洋書（ラテン文字）	101,844件
A 6	洋書分類検索	106,464件
A 7	モリソン文庫図書	17,337件
A 8	モリソン文庫分類検索	16,556件
A 9	モリソンパンフレット	8,327件*
A10	大正時代購入図書（洋書）	5,593件*
A11	洋書（キリル文字）	13,292件*

（個人文庫）

A12	藤井文庫（医学書）	1,432件*
A13	山本達郎博士寄贈書	9,073件*
A14	榎文庫	14,776件
A15	榎文庫分類検索	14,776件

B. 東アジア [図書部：研究部；前近代中国・近代中国・現代中国・東北アジア・日本各研究班]

(日本)

B 1	岩崎文庫 (和漢貴重書)	7,966件 *
B 2	和書 (古典籍・日本漢詩文を含む)	73,545件
B 3	和書分類検索	53,917件

(中国)

B 4	漢籍	80,738件
B 5	続修四庫全書	6,113件 *
B 6	大正時代購入書籍 (漢籍)	1,767件 *
B 7	漢籍統合 (B 4・B13・B15の横断検索のため、件数は省略)	
B 8	中国語図書 (近現代中国等)	66,861件
B 9	中国語図書分類検索	66,863件
B10	中国碑刻拓本	3,105件 *
B11	近代中国関係図書分類検索	20,331件
B12	近代中国関係洋書	7,916件 *

(ベトナム)

B13	越南本漢籍	442件 *
B14	ベトナム語図書	389件 *

(朝鮮韓国)

B15	朝鮮本漢籍	3,975件 *
B16	韓国朝鮮語図書	4,145件 *

C. 中央アジア [図書部：研究部；内陸アジア研究班]

C 1	モンゴル語図書	2,114件 *
C 2	キルギス語図書リスト (PDF)	25件
C 3	ウイグル語図書リスト (PDF)	136件
C 4	カザフ語図書リスト (PDF)	57件

C 5	スインディ語図書リスト	188件
C 6	チベット語文献（河口慧海）	9,208件
C 7	チベット語文献（米国議会収集 PL480）	3,630件

D. 南アジア [図書部：研究部；南アジア研究班]

D 1	辻文庫（サンスクリット）	7,826件
D 2	ビルマ語（ミャンマー語）図書	665件 *
D 3	タイ語図書	934件 *
D 4	インドネシア語・マレーシア語図書	373件
D 5	南アジア諸語（アラビア文字）	3,693件 *

E. 西アジア [図書部：研究部；西アジア・現代イスラーム各研究班]

E 1	アラビア語図書	17,405件
E 2	ペルシア語図書	15,637件
E 3	現代トルコ語図書	12,359件
E 4	オスマントルコ語図書	1,899件
E 5	西アジア図書分類検索	55,859件

F. (電子資料) CD-ROM 等：語彙検索付のものを含む [図書部]

F11	検索	107件
-----	----	------

7. 書庫内資料と書架スペース

書庫内資料の排架一覧

階	排架内容		
6	Old Book, MS (モリソン文庫を除く), モリソンパンフレット, 漢籍稀観書, 漢籍: 経部・子部・集部・叢書部 (各部線装本), 岩崎文庫, 銅版画, 古地図, 梅原考古資料, 自筆稿本, 檔案 (満洲語檔案など)		
5	欧文図書 (モリソン文庫を除く), アジア諸語図書 (アラビア語・ペルシア語・トルコ語ほか), 個人文庫 (辻文庫・梅原文庫・榎文庫・岩見文庫・モリソンⅡ世文庫・ベラルデ文庫・山本文庫)		
4	和書, 漢籍: 子部・集部・叢書部 (各部普通本), 漢籍大型本, 中・朝雑誌, 近代中国研究委員会収集資料 (和・中・欧文図書, 雑誌)		
3	ミュージアム	書庫 1	書庫 2
	モリソン書庫 (大型本の一部・モリソンパンフレットを除く)	漢籍: 経部 (普通本)・史部 (線装本, 普通本)	朝鮮本, 越南本, 満洲語・蒙古 (モンゴル) 語・チベット語・サンスクリット語図書, 拓本資料, 電子資料
2			
B1	逐次刊行物 (和・中・朝・欧文新聞, 和・欧文雑誌)		マイクロ保管庫
			マイクロ資料

8. 電子図書館情報システム

2021年度末現在、当文庫ホームページで提供している「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」は下記のとおりである。

2021年度新規公開は、**V. 動画**: 中国祭祀演劇資料9種、日本祭祀芸能資料1種である (※印)。

詳細はホームページ参照。

http://124.33.215.236/db_select.html

II. 基礎研究データベース

F. (歴史文献語彙) [研究部；東アジア研究部門・内陸アジア研究部門]

F 1	中国経済史用語データベース	5,984件
F 2	宋会要輯稿 食貨編 社会経済用語データベース	33,332件
F 3	梅原郁編『唐宋編年語彙索引』データベース	33,850件
F 4	新版唐代墓誌所在総合目録(増補版)データベース	8,737件
F 5	梅原郁編『元明時代社会経済史用語索引資料』データベース	公開準備中
F 6	満族関係図像資料データベース	公開準備中
F 7	土肥義和模写敦煌・吐魯番等発見主要漢文文書集録データベース	公開準備中

III. 全頁画像テキスト

G. 凡アジア [図書部]

G 1	善本洋書 宣教師文書	22件	(11,868頁)
G 2	善本洋書 旅行記	20件	(10,351頁)
G 3	モリソンパンフレット	3,043件	(49,295頁)

H. 東アジア [図書部：研究部；前近代中国・日本各研究班]

H 1	岩崎善本(モノクロ画像、解題付)		
	善本分類リスト	54件	(7,539頁)
	善本書名リスト	54件	(7,478頁)
	時代順・刻本／抄本別・書名排列	489件	(29,891頁)
H 2	岩崎善本(彩色画像、索引付)	180件	(7,194頁)
H 3	日本古典籍(彩色画像、索引付)	204件	(7,629頁)
H 4	中国古典籍(彩色画像)	4件	(190頁)
H 6	雑誌『北支』(昭和14年6月～昭和18年8月)	51冊	(2,760頁)
H 7	壇廟祭祀節次	6冊	(586頁)
H 8	亜東印画輯	12冊	(2,598頁)

IV. 単独画像

J. 凡アジア [図書部：研究部；東アジア資料研究班]

J 1 古地図 世界地図 (図書部) 7件 (227コマ)

K. 東アジア [図書部：研究部；東アジア資料研究班]

K 1 古地図 中華帝国図 6件 (80コマ)
K 2 古地図 日本地図 38件 (577コマ)
K 3 古地図 江戸図 20件 (298コマ)
K 4 香港銅版画 水彩画 392件 (392コマ)
K 5 浮世絵 美人画 32件 (226コマ)
K 6 風景画 37件 (1,354コマ)
K 7 名品画像80選 80件 (80コマ)
K 8 中国祭祀演劇写真資料庫 (database) 57,529コマ
K 9 中国木偶戯写真資料庫 (database) 7,848コマ
K10 同上附録 物語資料庫 (database) 1,188コマ
K11 梅原考古写真資料庫 (database) (朝鮮之部) 13,837件
K11 梅原考古資料 日本 (VI. 登録制データベースにて公開)
K12 韓国祭祀演劇関係写真資料庫 (database) 公開準備中
K13 日本祭祀芸能写真資料庫 (database) 公開準備中

V. 動画

L. 東アジア [図書部：研究部；東アジア資料研究班]

L 1 中国祭祀演劇資料 内容総覧
I 郷民儀礼
A. 巡遊 5件 (約51分)
B. 歌台 2件 (約20分)
C. 搶炮儀式 2件 (約11分)
D. 竜舟 3件 (約19分)

II	司祭儀礼		
	A. 広東正一派	4 件	(約120分)
	B. 海陸豊正一派	2 件	(約13分)
	※海陸豊道士晩朝科儀礼		
		2021年 9 月 6 日 新規公開	(約10分)
	C. 福州正一派	2 件	(約28分)
	※鳳嶺北壇三相公祭祀		
		2021年 9 月 6 日 新規公開	(約13分)
	※莫律福州中元儀礼	2021年 9 月 6 日 新規公開	(約16分)
	D. 海南正一派	1 件	(約10分)
	※梁太爺廟中元祭祀	2021年 9 月 6 日 新規公開	(約 9 分)
	E. 仏教儀礼	2 件	(約111分)
	F. 巫師儀礼	2 件	(約11分)
III	儺舞	5 件	(約227分)
		1 件	公開準備中
IV	儺戯		
	A. 貴池儺戯	2 件	(約25分)
	B. 安順地戯	17件	(約160分)
		2 件	公開準備中
	C. 関索戯	1 件	(約58分)
		1 件	公開準備中
	D. 師公儺戯	2 件	(約45分)
		3 件	公開準備中
	E. 儺堂戯	2 件	(約273分)
		1 件	公開準備中
V	目連戯	7 件	(約445分)
VI	広東戯	7 件	(約222分)
		2 件	公開準備中
VII	海陸豊戯		
	A. 正字戯、西秦戯	10件	(約255分)
	B. 白字戯	6 件	(約110分)
		1 件	公開準備中
VIII	潮州戯	16件	(約649分)
		8 件	公開準備中

IX	莆田戲	1 件	(約22分)
		1 件	公開準備中
X	廣東漢劇	2 件	(約34分)
		1 件	公開準備中
XI	北方系地方戲	8 件	(約143分)
	※紅梅記	2021年 7 月16日 新規公開	(約35分)
	※百花記	2021年 7 月16日 新規公開	(約35分)
	※天官賜福	2021年 8 月14日 新規公開	(約 5 分)
	※趙子龍救主	2021年 8 月14日 新規公開	(約12分)
XII	南方系地方戲	3 件	(約106分)
		3 件	公開準備中
	※羅帕記	2021年 8 月14日 新規公開	(約60分)
L 2	中国浙江省木偶戲資料	内容総覧	
I	天官賜福 (猪羊戲)	3 件	(約55分)
		1 件	公開準備中
II	打八仙	1 件	公開準備中
III	白兔記	1 件	(約300分)
IV	粉妝楼	1 件	(約30分)
		1 件	公開準備中
V	月唐演義	1 件	(約85分)
		2 件	公開準備中
VI	娘娘伝「揚州府収紅毛猴」	1 件	(約51分)
VII	薛丁山与樊梨花 三擒三放	1 件	(約67分)
L 3	中国江蘇省祭祀芸能資料		公開準備中
M	韓国祭祀演劇資料	1 件	(約62分)
		3 件	公開準備中
N	日本祭祀芸能資料		
I	大陸渡来芸能	3 件	(約23分)
		12件	公開準備中
II	田楽系芸能	3 件	公開準備中

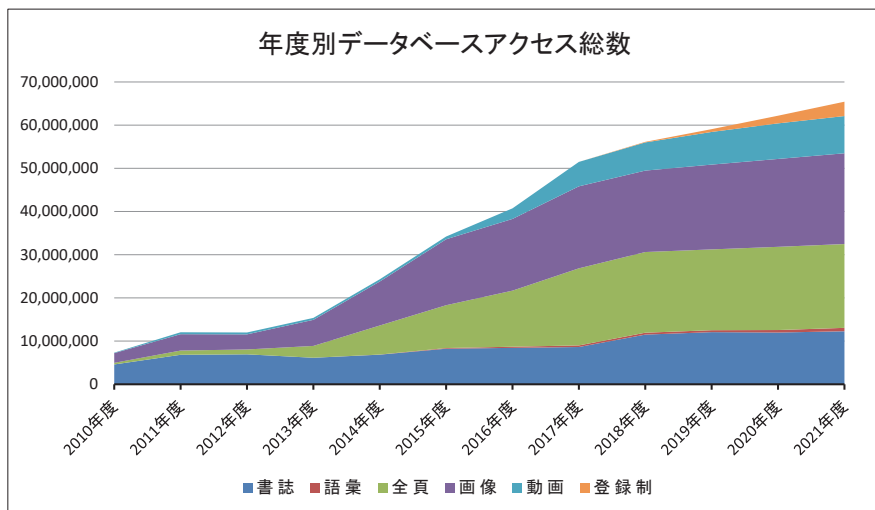
III	追儺系芸能	3件	公開準備中
IV	神代神楽系芸能	1件	(約117分)
	※高千穂柚木野神楽「岩戸七番」		
	2021年9月3日 新規公開		(約117分)
		4件	公開準備中
V	湯立神楽系芸能	6件	公開準備中
VI	猿楽系芸能	1件	公開準備中
VII	能楽系芸能	1件	(約23分)
		10件	公開準備中
P	東アジア人類学資料 内容総覧		
I	日本	3件	(約45分)
II	台湾	7件	(約245分)
III	中国 梅県客家	2件	(約38分)
IV	ベトナム	5件	(約193分)

VI. 登録制データベース

Q1	【中国地方劇】録音カセットテープ		
一	相声	2件	公開準備中
二	呂劇	1件	公開済
三	黄梅戲	2件	公開済
		3件	公開準備中
四	錫劇	1件	公開準備中
五	揚劇	1件	公開準備中
六	越劇	1件	公開済
		8件	公開準備中
七	紹興劇	2件	公開準備中
八	滬劇	1件	公開済
		1件	公開準備中
九	曲劇	1件	公開準備中
十	崑劇	1件	公開準備中
十一	閩劇	9件	公開済
		4件	公開準備中

十二	福建梨園戲	2件	公開済
		2件	公開準備中
十三	福建高甲戲	3件	公開済
		6件	公開準備中
十四	福建漳州薙劇	1件	公開済
		4件	公開準備中
十五	広東漢劇	2件	公開準備中
十六	広東梅県山歌劇	1件	公開準備中
十七	台湾歌仔戲	4件	公開準備中
十八	福建音楽	1件	公開準備中
十九	福建南曲	1件	公開済
		8件	公開準備中
二十	閩南民謡	1件	公開済
		1件	公開準備中
廿一	客家山歌	2件	公開済
		4件	公開準備中
廿二	粵劇	5件	公開済
		22件	公開準備中
廿三	海陸豊劇（白字戲）	19件	公開済
		8件	公開準備中
廿四	海陸豊劇（正字戲）	1件	公開済
廿五	潮劇	21件	公開済
		19件	公開準備中
廿六	潮州音楽	8件	公開済
		5件	公開準備中
廿七	瓊劇	1件	公開済
		4件	公開準備中
廿八	蘇州評彈	24件	公開済
		4件	公開準備中
廿九	蘇州評話	4件	公開済
三十	福州評話	8件	公開済
		3件	公開準備中
その他		29件	公開済

Q 2	【中国地方劇】 DVD データベース	236枚約700曲
R 1	梅原考古資料 日本 縄文時代	1,955件
R 2	梅原考古資料 日本 弥生時代	2,744件
R 3	梅原考古資料 日本 銅鐸	3,955件



年度	書誌	語彙	全頁	画像	動画	登録制	年度別集計
2010年度	4,587,782	0	378,093	2,243,663	101,256	0	7,310,794
2011年度	6,818,275	0	987,014	3,789,239	446,622	0	12,041,150
2012年度	6,936,180	0	1,115,281	3,498,686	440,862	0	11,991,009
2013年度	6,141,459	0	2,729,369	6,037,174	452,583	0	15,360,585
2014年度	6,853,681	28,367	6,717,590	10,184,293	521,202	0	24,305,133
2015年度	8,228,300	157,533	9,921,639	15,255,533	642,858	0	34,205,863
2016年度	8,430,672	256,811	12,989,228	16,609,397	2,439,112	0	40,725,220
2017年度	8,620,392	373,635	17,851,175	18,989,012	5,648,742	0	51,482,956
2018年度	11,496,662	431,571	18,693,445	18,849,800	6,525,177	134,112	56,130,767
2019年度	12,068,721	446,399	18,707,911	19,635,063	7,564,443	643,506	59,066,043
2020年度	11,977,712	577,375	19,263,948	20,350,388	8,238,504	1,766,945	62,174,872
2021年度	12,275,988	785,186	19,405,122	21,016,265	8,620,254	3,333,168	65,435,983

Ⅲ 研究事業

研究事業の全体構想

東洋文庫は、1924年、欧文貴重書1,100点余を含む欧文図書資料からなるモリソン（G. E. Morrison）コレクション、ならびに和漢の貴重古典籍からなる岩崎文庫を中核として、岩崎久彌氏によって、アジアの貴重図書資料に関する民間の研究図書館として創設された。その後90年以上にわたり、一貫してこれらの貴重図書資料を中核とする100万冊に及ぶアジア諸地域の現地語資料を継続的・系統的に収集し、それらのすべてを散逸させることなく保存・管理し、同時に広く世界の研究者ならびに市民に公開することを目的とした事業を進めてきた。

研究事業の長期的な目的は、これらのアジア研究に関する貴重図書資料を保存・管理・公開し、なおかつアジア現地語資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料に基づく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。このような研究事業を286名に及ぶ研究員を擁して推進する類似の民間の研究図書館は国内には存在せず、世界的に見ても稀有な存在であり、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫が世界的に高く評価される理由であると同時に、長年にわたって蓄積されてきた特色ある研究を継続的に推進することは、世界のアジア研究者が切望するところでもある。

研究事業の目的

東洋文庫は、この全体構想をさらに効果的に実現するために、これらの基本的な課題を推進するなかで、2012年度以来、以下の点に一層重点を置いて、研究事業を推進してきた。

- (1) 2011年3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえ、貴重資料に関する書誌的資料研究をより一層強化し、併せて貴重資料の修復・保管・複製化・電子化という連続した資料保存とその公開をより系統的かつ持続的に推進する。
- (2) 大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究として、東洋文庫のすべての研究班の連携によって構成される「総合アジア圏域研究班」を設置し、主題研究・地域研究・資料研究を連結した「総合アジア圏域研究」を全アジア的視野から推進する研究体制を構築する。

- (3) 「総合アジア圏域研究」に伴う資料交流・人的交流・国際交流を一層推進し、電子化などによって研究成果を広く発信し、国際的な発信力を強化する。
- (4) 東洋文庫における資料研究・総合アジア圏域研究・国際交流・国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材を育成する。

特に2016年度より、①アジア資料研究データベースの構築（試行期）、②資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進、③国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進、④研究成果の刊行・発信の強化、⑤若手研究者の育成、という5点の重点事業目標を設定して、研究班によるアジア現地研究・資料調査と収集を基礎に、研究データの保存・管理・公開を一体化した総合的アジア研究データベースの構築を推進するとともに、東洋文庫の刊行物や各種講演会・講習会ならびにミュージアムによる経常的な公開展示などの取り組みを通して、広く内外にその研究成果を発信している。

資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進についていえば、系統的かつ継続的にアジアの各地域に関する現地の原語資料を収集し、それを現地の研究者・研究機関と共同で整理・編集して目録を作成し、世界の研究者の用に供している。特徴的な活動としては、中央アジア研究において、ロシア・サンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー東洋写本研究（IOM RAS）との協力関係・信頼関係のもと、中央アジア出土のウイグル文書の目録の編集を共同で行い、20年以上にわたり目録の編集を継続して行い、現在はこれをデータベース化してデータの充実に取り組みつつ内部公開し、外部公開のための協議を行っている。同様に、協力協定機関であるアメリカのハーバード・エンチン研究所や、台湾の中央研究院などとの間で長年にわたって調査協力・国際共同研究・資料交換・人材交流等を行っている。このような研究機関相互の信頼関係に基づいて長期間にわたって継続的に行われる研究活動は、個人や研究グループが短期的に実現できるものではなく、東洋文庫が研究図書館として実施するにふさわしい事業であるといえる。

アジア資料研究データベースの構築についていえば、①資料、②研究（分類・目録・索引など）、③成果、の三者を一体化した総合的アジア研究データベースの作成と、それによる研究データの保存管理、成果の公開発信を目的とするものである。具体的には、アジア各地域の原資料のデジタル化と分析・解読を基礎とし、これに関連する研究情報をメタデータとして付加し、多分

野にわたる研究を横断的かつ通時的に検索することが可能な汎用性の高い総合的研究データベース・システムを構築するべく取り組んでいる。これはアジアに関する基礎資料研究の長い伝統と蓄積を有する東洋文庫であるからこそ可能であると同時に、学術団体としての東洋文庫の特徴を十分に体現しうるものと考えらる。

2021～2023年度の重点事業目標

東洋文庫の基本的な事業を継続的に推進するなかで、2021～2023年度において重点的に取り組む主要な事業項目は下記のとおりである。

- (1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる現地研究機関との共同研究の新展開
- (2) 総合的アジア研究データベースの推進（発展期）
- (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進
- (4) 研究成果の刊行・発信の強化
- (5) 若手研究者の育成

これらの研究事業は、個人や複数の研究者が競争的資金等を活用して行うような短期集中的な研究ではなく、東洋文庫所蔵の貴重アジア資料を対象とした日常的・継続的な基礎資料研究の伝統に根ざすものである。

東洋文庫の蔵書は広くアジア全域に及び、その維持・継承と研究成果の発信に対する国内外の研究者・関連学界の期待は大きい。そこで東洋文庫では、蔵書の保存・管理・修復、および関連資料の収集に日常的・継続的に取り組み広く公開するとともに、若手・現職の大学教員および大学等を退職した名誉教授相当の研究者等、世代的にも多様な研究員がそれぞれの専門分野を活かして、これら蔵書を研究対象とした基礎資料研究に共同して取り組み、その成果を国内外に発信してきた。

これに加えて、新進気鋭の情報学の専門家の協力を得て、画像データの国際規格化や、人文系テキストデータベースの国際的ガイドライン等の導入を通して、国際的に汎用性が高く、かつ継続性・発展性のあるデータベースの構築を進めている。このデータベースに、長年にわたって研究員・研究班が蓄積した学術上の専門知識等をデジタル化して保存管理・公開するとともに、蔵書（書誌・画像）とその保存修復記録、および展示記録等のデータベースと連動させることで、蔵書を散逸させることなく継承し、国内外の学術研究の進展と一般への普及に貢献することを目指す。

これらの活動のなかで若手研究者を支援・指導することで、東洋文庫の特色ある研究を中断させることなく、新たな学術的な知識を蓄積しつつ、継承・発展させていくことが可能となると考える。データベースの構築・維持には、人文学の研究者と情報学の専門家の協働はもとより、情報学を専門としながらも人文学の素養を持つ人材の育成が喫緊の課題であり、奨励研究員制度を活用するなどして若手研究者の育成に取り組んでいく。一例として、情報工学研究室と共同で情報学を専門とする大学院生に対して、東洋文庫のデータベース化事業に関する講習会や検討会を開催し、共通の関心を高める活動を行う。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、新たに下記緊急重点化項目を設定した。

(6) オンライン事業の重点化と、データベース化による資料情報の発信の強化

新型コロナウイルス感染症が拡大している現況にあっては、国内外へ出張しての資料調査や研究会・シンポジウム・ワークショップの開催・参加が制限されている。先行きが不透明ななか、オンライン会議システムを活用して国際シンポジウム・ワークショップ等を開催することで、移動にかかる時間と距離を超えて国内外の研究者が交流を行うなど、コロナ禍に屈することなく、新しい研究の形を模索していく。

上記の研究事業を推進するにあたっては、審査結果の所見を受けて、これまで以上に調査・研究対象となる史資料に関わるプライバシー権・肖像権等「人権の保護・法令の遵守」に対する多面的な配慮が必要となる。そこで、2021年2月に全研究員に対して「人権の保護・法令の遵守」に関するアンケートを実施した。これをもとに想定される問題点を洗い出し、研究倫理委員会等をチェック機構として機能させるなどして、権利に抵触しないための方策を継続的に検討していく。具体的には、多様な映像・写真資料データベースを東洋文庫全体として総合的に管理することによって、人権・肖像権の保護に関わる映像・写真資料を全体的に掌握する取り組みを行う。

研究事業の効果

本研究の関連研究分野に対する貢献度および期待される成果等について、これまで蓄積されてきたデータベースの一体化とその総合的運用に向けた取り組みを軸に、研究項目に分けて説明する。

a. アジア基礎資料研究

総合アジア圏域研究班の研究データベース共同研究担当者のもとで、研究部・図書部・普及展示部より担当者を加えたチームを結成し、蔵書・保存修復記録・展示記録・研究の各データベースの連携に向けた取り組みを進める。東洋文庫で行われる研究・図書・普及の諸活動のすべてをこのデータベースに集積していくことで、研究資源データの保存・管理・公開・利活用が効率的・効果的に行えるようになる。

担 当	担当者（所属・職名）
研究データベース共同研究・総括	會谷 佳光（東洋文庫研究部・主幹研究員）
研究データベース共同研究・副総括	相原 佳之（東洋文庫研究部・研究員）
データベース・連携システム構築、技術支援（Linked Data、IIIF、TEI）	中村 覚（研究協力者、東京大学史料編纂所・助教）
N-gramを活用した人文情報学の推進	中塚 亮（東洋文庫図書部・奨励研究員）
蔵書データベース連携協力	瀧下 彩子（東洋文庫図書部・主幹研究員）
保存修復記録データベース連携協力	篠崎 陽子（東洋文庫図書部・研究員）
	水口 友紀（東洋文庫図書部・保存担当臨時職員）
	田村 彩子（東洋文庫図書部・保存担当臨時職員）
展示記録データベース連携協力	岡崎 礼奈（東洋文庫普及展示部・主幹研究員）
研究データベース紙質分析担当	徐 小潔（東洋文庫研究部・研究員）
	多々良 圭介（東洋文庫研究部・奨励研究員）
研究データベース古地図担当	相原 佳之

b. 資料収集・整理

東洋文庫の蔵書をクオリティーアップしうる貴重資料を積極的に収集し、書誌データを登録し、保存修復措置を施してデータベースに記録し、さらにデジタル撮影・IIIF（International Image Interoperability Framework）化を行った上で、書誌データと連携した形で公開する。これによって東洋文庫研究員による研究活動の活発化を促すとともに、研究データの蓄積をスピードアップすることができる。対外的には、これまで東洋文庫に来館しなければ資料

を閲覧できなかった遠方や海外在住者の利用を促すことができる。

c. 資料研究成果発信

東洋文庫では、2018年度よりすべての刊行物を電子化して東洋文庫リポジトリ「ERNEST」(<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>) 上にてデジタル発信している。今後は刊行物の研究情報をデータベース上で書誌データ・IIIF 画像・TEI (Text Encoding Initiative) テキスト等と連携させることで、蔵書から研究、研究から蔵書といった双方向での学術的な研究成果の発信を可能とする。

d. 普及活動

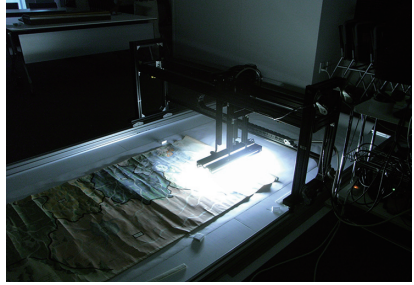
新型コロナウイルス感染症の拡大を一つの契機として、従来の対面での講演会・シンポジウム等の開催に加えて、オンライン開催を実施していく。これによって遠方や海外在住者の参加が容易となり、より広範囲に研究成果を発信・普及することが可能となる。

東洋文庫はパーソナルコンピュータの草創期に書誌情報の電子化を開始したため書誌データが特殊化して、これまで CiNii など他の OPAC (Online Public Access Catalog) システムと連携可能な OPAC システムへの登録が一部の資料 (近現代中国、イスラーム関係) でしか進んでいなかった。データベースの一体的運用に当たり、従来の書誌データベースはリンクトデータ化の障碍となるため、書誌情報の OPAC 登録を推進する。これによって研究者・一般の利用者は東洋文庫の所蔵情報により一層容易にアクセス可能となる。

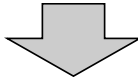
最後に、東洋文庫における資料の収集・保存修復、研究データベース構築・国際発信、一般への普及が一連の流れで行われ、また他のデータベースでも経験が応用された事例として、次頁に『大明地理之図』4軸 (細谷良夫研究員寄贈、江戸時代書写) を取り上げる (紙質調査の成果は、参考までに国宝『文選集注』の展示パネルを例に挙げる)。



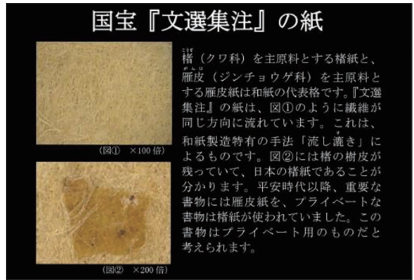
保存修復技術者による修復



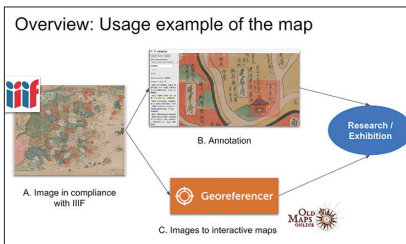
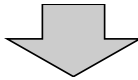
専門業者による撮影



ミュージアムでの展示



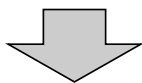
ミュージアムでの紙質調査成果の展示紹介



情報学の専門家 中村覚氏による研究データベースの試作



国際シンポジウムでのプレゼンテーション



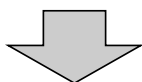
【2021年度】

The screenshot displays the search results for '長安' (Chang'an) in the '東洋文庫水経注図データベース'. The search bar at the top shows '長安' and a search icon. Below the search bar, the results are displayed in a table-like format with columns for '地名' (Location Name), '記号' (Symbol/Code), and '拡大図' (Zoomed Image). The results include:

- 地名: 長安, 記号: 行政: 都名, 拡大図: 本図
- 地名: 長安城置別詳, 記号: 記述: 別図参照, 拡大図: 本図
- 地名: 長安, 記号: 行政: 省名, 拡大図: 本図

On the left side, there are filters for '冊 (3件)' (Volumes) and '図 (3件)' (Maps). The '冊' filter shows options for 4, 5, and 8 volumes. The '図' filter shows options for '長安城置' (88 items), '本図' (7 items), and '越南' (1 item).

大明地理之図 DB プロトタイプ版作成の経験を活用した水経注図 DB の構築



【2022年度】

水経注図 DB の構築経験をフィードバックして、大明地理之図 DB に地名等データ約3,800件を登録して地図画像と連携させ、一般公開を目指す。

1. アジア基礎資料研究

2018年度より、従来のアジア各地域の特徴に沿った研究班・研究グループ主体の調査研究を、研究部執行部の主導のもとに統括され、資料の収集・保存・公開・研究が一体化した、東洋文庫の学問的伝統と蓄積、および国内外の研究ネットワークを継承・発展させる研究体制に改編し、「紙料」調査を中心としてアジア諸地域を横断的に比較総合する「アジア基礎資料研究」に重

点を置くこととした。具体的には、研究部執行部が統括する5つの重点事業目標（p. 27「2021～2023年度の重点事業目標」を参照）に基づき、西は北アフリカから東は日本までをカバーする全6研究部門13研究班が、20の基礎資料研究テーマ（p. 34「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」を参照）を設定して相互に連絡・連携を保ちながら、東洋文庫が収集・所蔵する一次資料の文献学的分析（解題・目録・訳注等の作成）と、それに基づく「紙料」研究を持続的に推進した。これらの研究班・研究グループの諸活動は「総合アジア圏域研究」のもとに連結することで、アジア諸地域の歴史と文化の地域連関と相互影響について、アジア全体を視野に入れた学際的共同研究を推進し、現代アジアの複合的・動態的な把握に努め、その研究成果を、講演会・刊行物・オンラインジャーナル・研究データベース・ミュージアム展示など多様な方法で発信・公開・普及するべく取り組んだ。



本図は、次頁にあげる「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」の「略号」によって、各研究テーマが分担する資料調査地域を示したものの。

アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ

部門	研究班	アジア基礎資料研究テーマ	略号	
超域アジア	総合アジア圏域	アジア資料学の深化—保存・研究・普及のための文理融合型アジア資料学の展開と研究データベースの構築	—	
	現代中国	現代中国の総合的研究(4)	—	
	現代イスラーム	近現代イスラーム地域の構造変動	—	
歴史文化研究	前近代中国	中国古代地域史研究	東ア-1	
		東アジアの古代・中世遺跡出土の遺構・遺物の考古学的研究	東ア-2	
		中国社会経済・基層社会用語のデータベース化	東ア-3	
		宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明	東ア-4	
	近代中国	20世紀前半日本の中国調査研究機関に関する総合的研究	東ア-5	
	東北アジア	近世の朝鮮で作製された各種記録類についての基礎的・総合的研究 清代満洲語文書資料及び画像資料等のデータベース化に関する研究	東ア-6	
			東ア-7	
			清代中国諸地域の構造分析：政治・社会経済・民族文化の史的展開	東ア-8
	日本	岩崎文庫貴重書の書誌的研究(4)	東ア-9	
	内陸アジア	中央アジア	非漢字諸語出土古文書の研究	内陸-1
			近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動	内陸-2
			日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究	内陸-3
	チベット	チベット語資料の活用とチベット文化の複合的研究	内陸-4	
インド・東南アジア	インド	インド中世・近世における文書史料研究	南ア	
	東南アジア	近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究	東南	
西アジア	西アジア	文書資料による比較制度研究	西ア	
資料	東アジア資料	東アジア現地資料の研究	—	

5つの重点事業目標のうち、研究部執行部では、特に研究データベースの構築と若手研究者の育成に力を入れており、他の3項目（アジア基礎資料研究の構築と現地研究機関との共同研究、国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流、研究成果の刊行・発信）の実施においても常にこの2項目と密接に関連するよう留意した。

A. 資料調査・研究テーマごとの研究体制

○超域アジア研究

〈超域アジア研究部門〉

総合アジア圏域研究班

「アジア資料学の深化—保存・研究・普及のための文理融合型アジア資料学の展開と研究データベースの構築」

総括	斯波義信◎
副総括	濱下武志◎、平野健一郎◎、會谷佳光◎
現代中国	青山瑠妙、中兼和津次、村田雄二郎、斯波義信◎*
現代イスラーム	粕谷 元、池田美佐子、吉村慎太郎、湯浅 剛
前近代中国	太田幸男、高久健二、斯波義信◎*、山本英史
近代中国	久保 亨
東北アジア	六反田豊、石橋崇雄、加藤直人、小沼孝博、小長谷有紀
日 本	深沢眞二
中央アジア	梅村 坦、小松久男、氣賀澤保規
チベット	吉水千鶴子
インド	小名康之
東南アジア	弘末雅士
西アジア	三浦 徹
東アジア資料	斯波義信◎*、塚原東吾
紙料分析	江南和幸、徐 小潔
歴史地図	大澤顯浩、高橋公明、杉本史子
比較研究	L. グローブ

研究データベース共同研究

會谷佳光◎*、相原佳之◎

(◎は専従者、*は重複を示す。以下同じ)

現代中国研究班

「現代中国の総合的研究(4)」

総括	村田雄二郎*
副総括	青山瑠妙*
資料	斯波義信◎*、貴志俊彦、新村容子、城山智子、村上衛、岡本隆司
政治・外交	青山瑠妙*、毛里和子、天兒慧、唐亮、徐顯芬、森川裕二、松村史紀、平川幸子、神田豊隆、堀内賢志、林戴桓
経済	丸川知雄、中兼和津次*、巖善平、唐成、峰毅、伊藤博、松村史穂、河野正、木越義則、加島潤
国際関係・文化	中村元哉、村田雄二郎*、平野健一郎◎*、濱下武志◎*、川島真、砂山幸雄、高田幸男、古田和子、土田哲夫、尾形洋一、大澤肇、小浜正子、田中仁、相原佳之◎*、青山治世、小野寺史郎、関智英、家永真幸

現代イスラーム研究班

「近現代イスラーム地域の構造変動」

総括	粕谷元*
副総括	三浦徹*
アラブ	池田美佐子*、小杉泰、鈴木恵美、堀井聡江
トルコ	粕谷元*、大河原知樹、設樂國廣、秋葉淳、佐々木紳
イラン	鈴木均、吉村慎太郎*、松永泰行、黒田卓、阿部尚史
中央アジア	湯浅剛*、小松久男*、宇山智彦、長縄宣博、地田徹朗
日本・比較	三谷博

○歴史文化研究

〈東アジア研究部門〉

前近代中国研究班

「中国古代地域史研究」

総括 太田幸男 *

副総括 窪添慶文

飯尾秀幸、多田狷介、松丸道雄、藤田 忠、靱山 明、
塩沢裕仁、池田雄一、金子修一、川合 安、小嶋茂稔、
小寺 敦

「東アジアの古代・中世遺跡出土の遺構・遺物の考古学的研究」

総括 高久健二 *

副総括 妹尾達彦

清水信行、早乙女雅博、飯島武次、井上和人、小嶋芳孝、
金沢 陽、菅頭明日香

「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」

総括 斯波義信◎*

副総括 渡辺紘良

大澤正昭、徳永洋介、青木 敦、廣瀬紳一、大川裕子、
石川重雄、土肥祐子、濱島敦俊

「宋以後の法令分析を通じた中国前近代社会の構造解明」

総括 山本英史 *

副総括 鈴木立子

宋代 大澤正昭 *、青木 敦 *、小川快之

元代 鈴木立子 *

明代 鶴見尚弘、岸本美緒、濱島敦俊 *、奥山憲夫

清代 山本英史 *、寺田浩明、高遠拓児

民国 西 英昭

近代中国研究班

「20世紀前半日本の中国調査研究機関に関する総合的研究」

総括 久保 亨 *

副総括 田中比呂志

政治 本庄比佐子、松重充浩
経済 久保 亨*、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、
吉澤誠一郎、吉田建一郎
社会 高田幸男*、佐藤仁史、浅田進史、山本 真、
瀧下彩子、相原佳之◎*、古泉達矢

東北アジア研究班

「近世の朝鮮で作製された各種記録類についての基礎的・総合的研究」

総括 六反田豊*
副総括 吉田光男
糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、森平雅彦、山内弘一、
山内民博

「清代満洲語文書資料及び画像資料等のデータベース化に関する研究」

総括 加藤直人*
副総括 中見立夫
満洲語・漢語文献
加藤直人*、楠木賢道、杉山清彦
満洲語・モンゴル語文献
中見立夫*、柳澤 明

「清代中国諸地域の構造分析：政治・社会経済・民族文化の史的展開」

総括 石橋崇雄*
副総括 C. A. ダニエルス
岸本美緒*、柳澤 明*、武内房司、鶴間和幸

日本研究班

「岩崎文庫貴重書の書誌的研究(4)」

総括 深沢眞二*
副総括 齋藤真麻理
石塚晴通、今西祐一郎、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、
宮崎修多、柳田征司、和田恭幸

〈内陸アジア研究部門〉

中央アジア研究班

「非漢字諸語出土古文献の研究」

総括 梅村 坦*

副総括 松井 太

P. ツィーム、林 俊雄、妹尾達彦*、小田壽典、橘堂晃一、
熊本 裕、森安孝夫、吉田 豊、片山章雄

「近現代中央ユーラシアにおける出版メディアと政治・社会運動」

総括 小松久男*

副総括 長縄宣博*

新免 康、堀川 徹、濱本真実、野田 仁、塩谷哲史

「日本所在の敦煌・吐魯番文書の整理と研究」

総括 氣賀澤保規*

副総括 片山章雄*

妹尾達彦*、岡野 誠、関尾史郎、荒川正晴、石塚晴通*、
町田隆吉

チベット研究班

「チベット語資料の活用とチベット文化の複合的研究」

総括 吉水千鶴子*

副総括 星 泉

言語・チベット文学 星 泉*

近現代チベット社会 大川謙作

仏教・ボン教 御牧克己

チベット大蔵経 宮崎展昌

密教・仏教美術 立川武蔵

仏教思想 川崎信定

〈インド・東南アジア研究部門〉

インド研究班

「インド中世・近世における文書史料研究」

総括 小名康之*

副総括 石川 寛
吉水清孝、水野善文、三田昌彦、太田信宏、萩田 博、
栗山保之

東南アジア研究班

「近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究」

総 括 弘末雅士 *
副総括 嶋尾 稔
牧野元紀、坪井祐司、北川香子、飯島明子、山口元樹、
青山 亨、島田竜登、工藤裕子

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班

「文書資料による比較制度研究」

総 括 三浦 徹 *
副総括 近藤信彰
ヴェラム文書 佐藤健太郎、吉村武典、亀谷 学、原山隆広◎、
三浦 徹 *
オスマン帝国資料
林佳世子、永田雄三、秋葉 淳 *、大河原知樹 *、
高松洋一
イラン資料 近藤信彰 *、守川知子
中央アジア文書
堀川 徹 *、磯貝健一、矢島洋一

○資料研究

〈資料研究部門〉

東アジア資料研究班

「東アジア現地資料の研究」

総 括 斯波義信◎*
副総括 相原佳之◎*

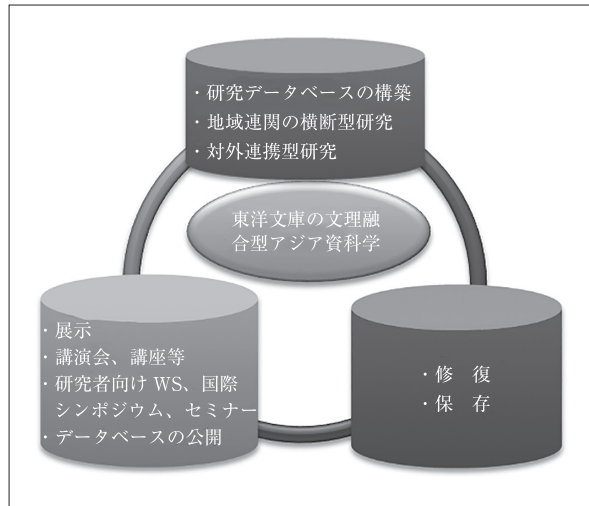
	田仲一成
日 本	浅野秀剛、片桐一男、吉田伸之
中 国	上田 望、尾崎文昭、片山 剛、佐藤慎一、戸倉英美、濱下武志◎*、馬場英子、末成道男、藤井省三、邵 迎建、會谷佳光◎*
朝 鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫*
梅原考古資料	山村義照◎
情 報	廣瀬紳一*

B. アジア基礎資料研究における重点活動方針

(1) アジア基礎資料研究の構築と、それによる現地研究機関との共同研究の新展開

担当：會谷佳光、相原佳之、片倉鎮郎、清水信子

東洋文庫には、若手・現職の大学教員および大学等を退職した名誉教授相当の研究者等、世代的にも多様な研究員が286名在籍し、それぞれの専門分野を活かして共同研究を行ってきた。一方、東洋文庫の伝統的なアジア基礎資料学を継承・発展させるため、貴重洋書と古典籍の保管・修復・公開、ならびにアジア各地域に関する一次資料の継続的かつ系統的な収集・保存・公開、さらにそれらを活用した基礎的かつ長期的なアジア基礎資料研究に取り組んできた。そこで、2021～2023年



度は「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」(p. 34を参照)を設定して、東洋文庫所蔵の貴重アジア資料を対象とした伝統的かつ組織的研究を継続している。

アジア基礎資料研究については、特に2018～2020年度の重点課題であった所蔵資料の紙質調査に重点を置いた研究活動に継続して取り組んでいる。東洋文庫所蔵資料からアジア各地域の紙質情報を系統的に調査収集し、その結果を比較分析することで、古今東西のアジア関連資料の紙質について総合的な国際的分析標準の作成を行う。これによって、研究者個人の経験と熟練に依拠し、国・地域・言語で分断された従来の書誌学の限界を克服するとともに、地域文化の表象である紙をめぐる「知識」の交流史研究に貢献することを目指す。

また、東洋文庫における研究活動・閲覧公開・ミュージアム展示等のすべての局面において、日常的に所蔵資料の紙質調査を実施し、その成果を蓄積して保存修復への活用に取り組んでいる。これによって、東洋文庫が収集した古今東西の貴重資料を永く後世に伝承するとともに、その成果をミュージアムで展示し、研究データベース化して広く発信することで、国内外のアジア関係資料の継承・伝承に貢献する。すなわち、所蔵資料の紙質調査と研究データベースによる成果発信は一体不可分であり、東洋文庫が研究図書館として取り組む特色ある研究活動の中心をなす課題であるといえる。

現地研究機関との共同研究については、東洋文庫は長年にわたる現地研究機関との学术交流によって築き上げてきた信頼関係のもとで共同研究を行ってきた。特徴的な活動としては、中央アジア研究において、ロシア・サンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー東洋写本研究所(IOM RAS)との協力関係・信頼関係のもと、中央アジア出土のウイグル文書の編集を共同で行い、20年以上にわたり継続的に目録の編集に取り組み、現在はこれをデータベース化してデータの充実に取り組みつつ内部公開するとともに、IOM RASとの共同編集によるカタログの編集刊行を進めている。同様に、協力協定機関であるアメリカのハーバード・エンチン研究所や、台湾の中央研究院等との間で長年にわたって調査協力・国際共同研究・資料交換・人材交流等を行っている。このような研究機関相互の信頼関係に基づいて長期間にわたって継続的に行われる研究活動は、個人や研究グループが短期的に実現できるものではなく、東洋文庫が研究図書館として実施するのにふさわしい事業であるといえる。2021～2023年度もアジア基礎資料研究推進のため、様々な現地研究機関と国際共同研究に取り組んでいく。

以下、各研究班が取り組んだアジア基礎資料研究について報告する。

[研究実施概要]

資料のデジタル公開等による図書館の電子化が進むなか、資料の現物（書籍・地図・絵画・考古遺物・陶器等）からしか読み取れない情報（紙・墨等の素材や生産された時代・地域等）を分析・研究・蓄積・公開していくことは、アジア・ヨーロッパの様々な時代・地域の資料を所蔵する東洋文庫であるからこそ実現可能な研究課題である。

総合アジア圏域研究では、「アジア資料学における Digital Humanities の探求と活用—研究・蔵書・保存修復・展示のための連携データベースの構築」をテーマに、東洋文庫の伝統である時代縦断的・地域横断的な人文学的研究手法に、情報学の専門家によるデジタル技術を組み合わせることで、文理融合型アジア資料学の道を探求しつつ、これを活用し、アジア基礎資料研究の継承・発展に取り組んだ。

2021年度は、精密顕微鏡を用いて、紙の見本帖『中国古籍修復紙譜』上・下（浙江図書館編、国家図書館出版社、2017年）等からのサンプル収集や、中国の地方志・族譜からの地域別・時代別の中国紙データの収集・分析を日常的・継続的に進めた。『中国古籍修復紙譜』からは、計15,000余枚の画像データを撮影した。さらに、単独の資料群の紙質データとして『永楽大典』12冊を調査し、1,174枚の画像データを蓄積し、その成果として、徐小潔「『永楽大典』紙質の初歩的分析：非破壊調査の試み」を『東洋文庫書報』第53号（東洋文庫、2022年3月）に掲載した。また、紙の表面からの不要な反射光や照明のホットスポットを除去し、より鮮明に紙の繊維を観察するため、精密顕微鏡専用の同軸偏光フィルタを導入した。

2021年10月6日～2022年1月16日開催の『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展：「東洋学」の世界へようこそ』に協力し、国宝『文選集注』、『永楽大典』、『ターヘル・アナトミア』、『解体新書』、『世界の鏡』（ミュテフェリカ版）などの紙質の調査データを提供した。

東洋文庫は、2024年に創立100周年を迎える。そこで、「東洋文庫創立100周年記念事業」を立ち上げ、総合アジア圏域研究班のもとに記念事業連絡委員会を設置して、各研究班・研究グループと共同して、①学問・研究、②書誌・目録、③展示・ミュージアムを柱に、データベースの構築、出版物の編集・刊行、記念講演・国際シンポジウムの開催に取り組んでいる。2021年度は、ミュージアム開館以前に発行された展示目録について、目録内に記載される

書誌のリストアップとデータ入力を実施した。

2020年度にフランスの東洋学者アンリ・コルディエ (Henri Cordier; 1849～1925) の旧蔵書「コルディエ文庫」が永青文庫より寄託された。これを受け、2021年9月に東洋文庫研究員を中心にコルディエ文庫研究会を結成した。研究会では、コルディエ文庫に含まれる書籍の中から担当者が輪番で解題を作成し、それを検討する形で研究を進めている。東洋文庫創立100年(2024年)～コルディエ没後100年(2025年)を目途に文献解題の完成を目指す。

現代中国研究における今期の調査・研究の対象は、「戦後日本人中国旅行記」、「汪精衛政権駐日本大使館文書」、「入江貫一満洲国宮内府関係資料」、「片倉衷関係文書」等、戦前から戦後にかけての日中関係史に関する史資料群である。国際関係・文化グループは、これらの史資料の目録づくりや基礎的整理を進めるとともに、数年後のデータベース化を目指した作業に取り組んでいる。とりわけ「戦後日本人中国旅行記」については、2020年度に東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に成果の一部を公開した後、関連する資料を継続して収集しており、関係者へのインタビュー記録等も作成している。また、それらの研究成果は、国立国会図書館関西館との合同企画「新たな現代中国研究の推進：国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって」(2021年4月17日、オンライン開催)で社会に向けて積極的に発信した。経済グループでは、2021年9月27日(発表者：加島潤研究員、松村史穂研究員)、11月22日(発表者：峰毅研究員、木越義則研究員)にオンライン研究会を開催した。

現代イスラーム研究では、中東・中央アジアの歴史的に重要な諸法令を翻訳して順次データベース化し、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開していく作業の一環として、トルコグループでは、粕谷元編『トルコにおける議会制の展開：オスマン帝国からトルコ共和国へ』(東洋文庫、2007年)所収のオスマン帝国憲法(1876年)およびトルコ共和国憲法(1924年)を改訳するとともに、これらに注釈と解題を付す作業を進め、『[全訳]オスマン帝国憲法』を完成し、イラングループでは、1906～1907年イラン憲法とイラン・イスラーム共和国憲法を翻訳し注釈を付す作業を進め、『[全訳]1906-07年イラン憲法』を完成した(詳細は [p. 57](#)参照)。アラブグループでは、エジプト憲法(1923年)とチュニジア憲法(1861年)を翻訳し注釈を付す作業を行った。前者については全条の下訳を終えたが、後者については新型コロナウイルス感染症の拡大によって海外調査が困難であったため、関係資料の収集等に影響があった。これらの作業のために、イラングループとアラブグループでは訳文検討会をオンラインで重ねた。「シャリーアと近代：オスマン民法典研究

会」(代表：大河原知樹研究員)では、研究成果公開を最終目的に、オスマン民法典(メジェッレ)のアラビア語訳の講読と翻訳作成のためのオンライン研究会を全10回開催した。イラングループでは、2月15日にオンライン研究集会を開催し、鈴木均研究員、黒田卓研究員、研究協力者の徳永佳晃氏、佐藤秀信氏、山崎和美氏、中村菜穂氏、梶山卓哉氏が報告を行った。

東アジア研究では、前近代中国・近代中国・東北アジア・日本の4研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

前近代中国研究班では、文献史料の精密な理解と新出史料を利用した研究を両軸とした中国古代史研究の深化を目的に、原則、月2回オンライン形式で研究会を開催して、東洋文庫所蔵の豊富な中国地方志資料および東洋文庫のインターネット機能を活用し、前年度に引き続き『水経注疏』巻10漳水篇の精読を進めた。しかし、平野部を流れて流路が変更する難解な箇所であるため、当初の予定よりもかなり遅れている。研究員が『水経注』に関わる問題について、国外の研究者と積極的な意見交換を行い、研究成果の寄贈を受けた。また、新出史料を利用した研究として、『嶽麓秦簡(参)』研究会をオンライン形式で月1～2回開催し、『嶽麓書院藏秦簡』所収の律令・律令関係文書について講読・研究方法の検討などを行った(【東ア-1】。なお、【 】括弧内の略号については、[p. 34](#)「アジア基礎資料研究のための6部門13研究班20テーマ」を参照。以下同)。

前近代中国の社会のうち、表層については豊かな記録が残され、総体として〈秩序〉と〈階層〉を特色とする様相が長期に持続したことが知られている。一方、基層社会は発展と転変、分化を遂げながらも記録の伝存が少数かつ散漫なため、統合的な分析を妨げてきた。そこで、表層と基層両面の接合、交渉の動態に目を向け、看過されてきた史料に即して事実を解明し、研究の新生面を開くことを目指した。具体的には、①近年における法制史研究の充実に沿い、地方官の裁判機構、同判決文を手がかりとして、地域、地方社会の紛争解決、利害調整の実態に克明な分析を加える作業を第一の支柱とする。②基層社会側で生活知識、実用知識の手引き「百科知識」として求められた「日用類書」、その項目をなす商人・算数・医薬・道釈・法制、また農業などの著述について、訓読と詳注を①と合わせて推進することにより、表層と基層社会の接合面の総合的、具体的な究明に従事した。明代の「日用類書」『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻21〈商旅門〉のほぼ全体の訳注を終えた。2021年度は訳文の見直し、関連する東北大学・狩野文庫蔵『商賈指南』との校合・注釈等の整理を行った。また同書巻26〈医学門〉、巻39〈僧道門〉のほ

は3分の2の訳注を終えた。このほか新たに、巻27〈護幼門〉（小児医療と医薬）と巻38〈農桑門〉（諸種の農業）の訳注を開始した。〈商旅門〉〈医学門〉〈僧道門〉は2024年度のデータベース公開に向けて準備作業を進める。光緒2年（1876年）刊・釈頭承集・釈儀潤校『参学知津』（道光7年（1827年）頃刊の重刻本）および民国初『武林進香録』・『武林進香須知』の路程書・巡礼書については、ほぼ2分の1の訳注を終えた。今後は、月例研究会で報告を行い、データベース公開へ向けた準備作業を進める（【東ア-3】）。

唐奨研究費による研究活動として、既刊『中国社会経済史用語解』〈財政〉〈経済〉〈社会〉〈公文書〉のデータベース（東洋文庫サーバ内コピーデータ）を利用して各用語の参考文献・引用文献の追加と解説の修正作業を進め、『増補改訂 中国社会経済史用語解』刊行に向けた準備を行った。とりわけ、〈経済〉陶磁器業の項目は近年の発掘・発見の進捗に伴い大幅に旧原稿を修正した。このほか、〈社会〉宗教・俗信、〈公文書〉諸項目の修正を進める予定である（【東ア-3】）。

学部学生や大学院生が東洋文庫に収蔵されている中国法制関係の史料を用いて「法と社会」の研究を行うための便宜を与える入門書の作成準備として、計6回（対面1回、オンライン5回）の研究会を開催し、地方在住の研究者をコメンテーターとして迎え、活発な議論を展開した。その結果、所属研究員各自の予備報告がすべて終了し、来年度に向け『ゼミナール中国の法と社会』（仮題）の刊行の見通しを立てることができた（【東ア-4】）。

近代中国研究班では、研究成果をまとめた東洋文庫論叢『戦前日本の華中・華南調査』（2021年3月）に対するオンライン合評会という形でシンポジウムを開催し、充実した討論の場を設けるとともに、若手研究者を含む約50人の参加を得た。また、本書を東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開した結果、1年間に延べ2,000回以上のダウンロード数を記録した。中国・香港・台湾などの研究機関との共同研究は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、今年度も実施を見合わせざるを得なかった（【東ア-5】）。

東北アジア研究班では、戸籍関係資料と成冊帳簿類等について、日本国内の図書館・資料館等での文献調査を予定していた。新型コロナウイルス感染症が依然として猛威を振るうなか、所属研究員の多くが高齢者であり、感染リスクも高いため、積極的に調査を進めることが躊躇され、調査先各機関の閉館や利用制限の強化等もあって、ほとんど調査できずに終わった。結果として、すでに過去に調査した文献のデータ整理や予備調査的な活動を進めたにすぎなかった（【東ア-6】）。東洋文庫のみが所蔵する貴重な清朝の文書資

料である「鑲紅旗檔」（鑲紅旗滿洲都統衙門檔案）に関する研究を継続した。2019年度に吉林師範大学満学研究院と締結した学術交流協定に基づき共同研究を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、現地での交流が不可能となり、オンラインによる研究打ち合わせに留まった（【東ア-7】）。東洋文庫の所蔵資料のうち、従来その書誌学上の特徴等がほとんど知られていなかったものについて検証を加えて公開することは、関係研究分野の若手研究者に裨益するところが大きい。そこで、漢文以外の言語文字を用いて記載された清代文献史料類について、これまで各専門研究領域の分野ごとに区分されて別々に登録されている現状を検証し直し、新たに清代文献史料類として総括し、これまでの登録内容に併記する方式をも含む新たなデジタル化方式で公開するための計画を立て、その整理と分析作業を進めた。その一環として、石橋崇雄研究員が東洋文庫所蔵の清朝『壇廟祭祀節次』の解説・検証作業を進め、『壇廟祭祀節次』第1冊所収の「祈穀壇」の訳注として、『清朝『壇廟祭祀節次』訳注（一）：凡諸祭祀・祈穀壇』を公刊した（【東ア-8】）。

日本研究班では、「菱川師宣絵本」29点と「仮名草子」72点の解題・図版を収録した『岩崎文庫貴重書書誌解題X』を公刊した。新型コロナウイルス感染症の拡大による制約のため、研究員が東洋文庫に集まって作業することは困難であったが、メールやSNSを利用して編集・校正を進めた（【東ア-9】）。

内陸アジア研究では、中央アジア・チベットの2研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

中央アジア研究班では、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所（IOM RAS）図書室が所蔵する突厥碑文の拓本を資料の一つとして、ドイツ・トルコ・日本を結ぶオンライン形式で「突厥碑文研究会」を9回開催した。現在はトニクク碑文の読解を進めている（【内陸-1】）。近現代中央ユーラシア定期刊行物研究会をオンライン形式で4回開催し、20世紀初頭の雑誌『シューラー』、『フェルガナの声』などに掲載されたテュルク語の論説を講読した（【内陸-2】）。

日本はかつて敦煌・吐魯番文書やその文物の研究で世界をリードしてきたが、今日では衰退傾向にある。この現状を改めて新たに隆盛に導くには、共同研究を着実に進め、中堅・若手研究者を育成して研究成果を発表していくことに努めるより道がない。東洋文庫はこの分野で多くの文書研究の成果を上げているものの、戦前来、日本国内の諸機関や個人に所蔵されてきた多数の文書類について、その所蔵状況や内容の系統的把握と集約が十分でない点

が課題として残っていた。来日した中国側研究者が着手してはいるものの、必ずしも徹底したものではなく、また、本来これは日本側の研究者が責任を持って調査し、データ化をはかる必要があり、これが実現可能なのは東洋文庫を措いて他にないと考える。2021年度は、日本に所在する敦煌・吐魯番関係文書の所在状況の概況を把握した上で、国立国会図書館の文書を、紙質を含めて実地調査する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかった。また、敦煌・吐魯番文書の研究に生涯をかけて従事した土肥義和研究員（2020年3月14日逝去）が残された膨大な「土肥義和敦煌・吐魯番文書調査資料（通称「土肥ノート）」の整理に入った（2017年度寄託。ダンボール10箱分）。これらは、長年世界の諸機関で調べた原文書の膨大な整理ノートであり、そこには文書一点一点に対して手書きの釈文やコメントが付され、当該研究の貴重な材料となるものである。2021年度に入り、土肥氏のご遺族（夫人）で東洋文庫研究員の土肥祐子氏から、「土肥ノート」の整理と当研究班の活動進展のために資金を提供いただけることになり、整理作業が大幅に進展した。寄託資料の概容は、厚めの大学ノート・資料やメモを収めたバインダー計51冊、他に未整理資料で段ボール2箱分（当面は、関連性のあるものごとに封筒に仮保存。全体の枚数未詳）である。ノートの整理について、2020年度はわずか5冊であったが、2021年度はノート・バインダー15冊分（1,676枚）のチェックを完了した。少しでも早く資料の全容を把握し、国際敦煌プロジェクト（IDP）に掲載される実文書（写真）との対応関係を明らかにし、2021年度からの3ヶ年計画のプロジェクトとして全容を把握する予定である。また、2020年度に刊行した『濱田徳海旧蔵敦煌文書コレクション目録』について、その後、コレクションに含まれる重要文化財指定の『絶観論』と『歴代法宝記』の全体写真が発見された（目録作成時は未発見）。それに加えて、東京大学経済学部資料室での調査を通じて濱田徳海の自筆メモが見つかり、その筆跡から従来「極秘」とされた作者不明の「濱田コレクション目録」が、濱田本人の手になることをほぼ確定できた。今後こうした新発見資料を用いて、さらに補充作業を進めていく。上記の研究活動の拠点である内陸アジア古文献研究会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、オンライン形式で全6回開催した（【内陸-3】）。

チベット研究班では、チベットの歴史、言語、宗教（仏教・ボン教）、社会に関する一次資料の基礎研究として、トゥカン著『西藏仏教宗義』、『〈阿闍世王経〉蔵・漢諸本校訂対照テキスト』、中央アジア出土チベット語文献、シャン・タンサクパ著『中観明句論註釈』について調査・研究した（【内陸-4】）。

インド・東南アジア研究では、インド・東南アジアの2研究班を組織し、分担してアジア基礎資料研究に取り組んだ。

インド研究班では、12～16世紀北インドのヒンドゥー王権の刻文を中心とした史料研究、近世ムガル帝国の公文書の研究、10～16世紀南インドのヒンドゥー王権のカンナダ語を中心とする公文書の研究、10世紀以前のサンスクリットおよびプラークリットの文献資料研究、インド洋交易をめぐるアラビア語・ペルシア語・インド現地語の資料研究等を行い、その実施状況を2021年9月にオンライン形式の研究会で報告し討論した。また共同研究の成果の公表のため、欧文による出版（Toyo Bunko Research Library シリーズ）を企画した（2024年度刊行予定）（【南ア】）。

東南アジア研究班では、研究テーマ「近世東南アジアをめぐる旅行記史料の研究」を推進するため、原則、月3回の研究会を開催した。2021年度は、一昨年度から講読してきた17世紀の終わりにサファヴィー朝下のペルシアからシャムのアユタヤ朝に赴いたペルシア使節の航海記、*The Ship of Sulaiman* (tr. by John O’Kane, 1972, London) の本文 Part II の後半の、ペルシアに帰る準備を進めていた一行がシャム王からもてなしを受けた箇所と、Part III に入り、アユタヤ滞在中に話を聞いたシャムとビルマとの戦争、シャム王のもとで重用されたイラン系住民とギリシア人フォールコーンの台頭によるその変化、シャム人の宗教や来世観念を記述した箇所を輪読した。アユタヤ在住のペルシア系住民の王朝におけるプレゼンスの変化、さらにムスリムの筆者にシャム人の仏教信仰がいかに見えたかを検討した。それらを通して、近世東南アジアの港市国家として全盛期にあったアユタヤ朝が、多様な出身地の人々を抱えていたことや、その社会統合に関わる支配者や宰相の役割を考察した。輪読した箇所の本文内容の概要を、日付、トピック、概要、関連情報の諸点から整理した（Excel データ109件）。

前近代の東南アジア社会を検討するための重要な資料となる、東洋文庫所蔵の故仲田浩三氏収集の東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料の整理を進めた。その目録『東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料』を2022年度に出版するための準備を進めた。

2020年度に購入した、1930年代に中部ジャワのスラカルタで建材屋を営んでいた華人の残した帳簿やメモ、ビジネス相手とのやりとりをめぐる Qiep Hong 文書（全8箱）の整理を進めた。その結果、①帳簿（華語）、②請求書、納品書、受領書、送付状（蘭、華、マレー語）、③取引先との書簡（蘭、華、マレー語）、④社会活動関連（主に華語の中華総商会、華語学校、救国基金に

関する文書)、⑤その他(写真など)、に主に分類され、当時のインドネシアの社会経済史や日中関係史の貴重な資料となることが明らかとなった。2022年度以降、デジタル化を進めるとともに、内容の分析に取り組み、Qiep Hong 文書のような東南アジア在住の華人の未公刊資料が、関係史料と比較したとき、歴史研究にいかなる光を投げかけるのかを検討し、これと類似した史資料を題材にした国際交流や国際シンポジウム開催の可能性を構想した(【東南】)。

西アジア研究では、京都大学主催「第20回中央アジア古文書研究セミナー」(2022年3月26日～27日、於：京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念館、ハイブリッド開催)に参加し、東洋文庫西アジア研究班などの研究活動を報告した(三浦徹研究員、高松洋一研究員、大河原知樹研究員など、オンライン参加)。

東アジア資料研究では、台湾の中央研究院歴史語言研究所との間の資料交換協定(2006年締結)に基づき、同研究所から漢籍電子文献資料庫(データベース、約7億8200万字)の提供を受け、東洋文庫からは貴重洋書・漢籍約10,000コマのデジタルデータを提供し、双方とも大きな研究上の利便を得た。

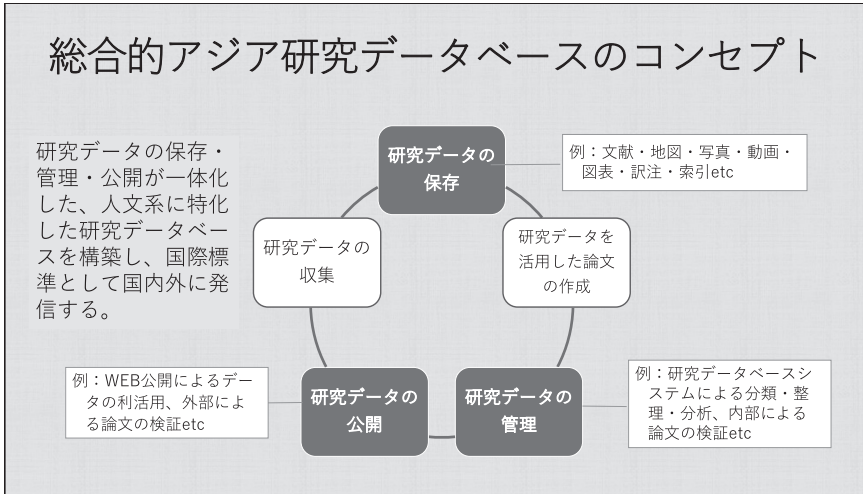
(2) 総合的アジア研究データベースの推進(発展期)

担当：會谷佳光、相原佳之

全研究班が参画する**総合アジア圏域研究**では、研究部執行部の研究データベース共同研究担当者が中心となって研究データベースの構築をより一層推進するべく取り組んだ。

研究部の取り組む研究データベースは蔵書資料のデジタル化とは異なり、東洋文庫の研究員・研究班の長年にわたる資料調査・研究活動の研究成果(論文、著作、索引、訳注、図表など)およびその副産物として収集・作成された研究データ資源を、保存・管理・公開するためのデータベース・システムであり、研究データベース会議を基盤に、研究データベース共同研究担当者が研究班・研究グループと協力して所蔵資料のデジタル撮影およびメタデータ等の作成を進めると同時に、研究協力者の中村覚氏(東京大学史料編纂所助教)と協同してシステム開発に取り組んだ。

研究データベース全体のタイムスケジュールについては、下図で示したように、2015～2017年度の試行期、2018～2020年度の開発期を経て、2021年度



からを第3段階の「発展期」に位置づけ、共通のフォーマットに基づくプラットフォームを持ち、地域横断的かつ通時代的な汎用性の高い横断検索システムを完成させ、システム開発およびデータ収集・整理に取り組み、各研究データベースのデータの拡充、国際規格化に不断に取り組んだ。

具体的には、下記の5点に重点を置いて、個々に作成を進めている研究データを、より汎用性の高く、国際規格に沿ったものに変換し、さらに各データベースを連動・連携させることで、発展期の名にふさわしいものとなるようグレードアップに取り組んだ。

- a. 全国の大学等と国立情報学研究所 (NII) が連携して進めている学術認証フェデレーション「学認 (GakuNin)」 (<https://www.gakunin.jp/>) や、学術情報リポジトリ JAIRO Cloud の「次期 JAIRO Cloud (WEKO3)」への移行の動向を見ながら、リポジトリを研究データの保管庫として活

用し、不足があればリポジトリと連動する形で東洋文庫独自の研究データ資源管理データベースを作り、これらからデータを抽出する形で様々な研究データベースを構築して利用・公開する。

- b. デジタル撮影した画像は、画像共有のための国際規格 IIIF (International Image Interoperability Framework) に加工して、専用サーバ (2020年度購入) に保存した上で、画像データや様々なメタデータと連携させた研究データベースを作成して一般公開していく。これによってデジタル画像に関する情報が標準化され、その相互運用性が格段に向上し、高精細画像のスムーズな拡大・縮小、他機関が公開する画像との比較、アノテーション (画像に対するコメントやタグ等) の付与・共有等、データベースの利用者に様々な利点を提供することが可能となる。
- c. 訳注・校訂等のテキストデータは、TEI (Text Encoding Initiative) に準拠して XML 形式で公開用システムに登録する。TEI は、人文系のテキストデータを効率的、効果的に共有し、システム変更等の影響を最小限に抑えて継承・発展させていくことを目的に作られた国際的なガイドラインであり、画像や脚注等に関連づけることも可能である。
- d. 奨励研究員の中塚亮氏の協力のもと、N-gram モデル (任意の文字列や文書を連続した N 個の文字で分割するテキスト分割方法) を活用して、計量的分析手法によって、テキストデータの語彙分析、キーワード・総索引項目の抽出を行うとともに、資料の目次や見出しにタグ付けを行い、資料の時代・地域・形式別の特徴を解析することを試みる。
- e. リンクトデータ (Linked Data) を導入して、各種データの人名や地名、時間等に識別子を与え、それらを異なるデータベース間で共有することで、異種のデータを相互に関連づける。これにより、研究・蔵書・保存修復記録・展示記録など異なる種類の内部データベースと、外部のオープンデータ (Wikidata や Japan Search 等) を横断して利用することが可能となる。さらに、提供する情報を機械可読な形式で提供することで第三者および計算機による利活用を支援する。

[研究実施概要]

本年度は、中国古代地域史研究グループの水経注研究チームと協力して、2019年度以来構築を行ってきた「東洋文庫水経注図データベース」を11月に公開した。また、チベット研究班と協力して、2019年度以来構築を行ってきた河口慧海将来チベット写本大蔵経「宝積部」全6巻のデータベース「Toyo

Bunko Manuscript Kanjur」を11月に公開した（データベースの詳細は、研究グループの研究活動部分で後述）。いずれも IIIF の画像を使用したデータベースである。

また、今後 TEI を活用したデータベースを構築していくことを念頭に、東洋文庫所蔵の碑文資料を素材として、導入に向けた課題などについて、中村覚氏（前出）と検討を行った。

文理融合型アジア資料学の主要課題として、紙質調査チーム主導のもと、サンプル資料として紙譜（紙の見本帖）の紙質データを収集して、紙質判断のため基準データを蓄積して、紙質調査に適した研究データベース・システムの構築を進めた。さらに蓄積した紙質データをもとに、機械学習により紙質の分析実験を進めるための準備を行い、そのための作業工程につき中村覚氏とともに検討した。

東洋文庫の刊行物のデジタル化公開をより一層推進するため、2018年9月、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」を新システム「JAIRO Cloud」に移行して以降、データの充実に努めてきた。その結果、登録データ件数は4,709件に達し（2022年3月末現在）、2021年4月～2022年3月のダウンロード件数は126,016件を記録した。また、登録データへの永続的なアクセスを確保するため、本年度より登録に際して DOI（Digital Object Identifier）を付与することを原則とした。今後、研究員の研究成果やその副産物を保存・管理するための受け皿としても活用していく。

東洋文庫リポジトリ「ERNEST」

<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>

2021年度東洋文庫リポジトリ「ERNEST」利用統計

年月	検索	閲覧	ダウンロード
2021年 4月	1,797	4,401	6,329
5月	1,379	5,041	9,083
6月	16,447	26,065	14,574
7月	8,192	15,197	13,273
8月	2,190	7,925	12,271
9月	1,775	10,550	13,409
10月	3,869	12,079	10,387
11月	1,873	10,233	17,041
12月	1,776	8,689	8,424
2022年 1月	1,716	7,439	8,845
2月	1,163	6,005	6,659

3月	2,292	4,381	5,721
総計	44,469	118,005	126,016

人間文化研究機構（NIHU）の現代中国研究資料室（2016年度に活動終了）・イスラーム地域研究資料室（2015年度に活動終了）が運営していた OPAC（Online Public Access Catalog）の書誌データについて、日本事務器社製の OPAC システム「ネオシリウス」を導入してデータ移行を行い、「Toyo Bunko OPAC」として公開していたが、2021年9月にサーバが故障して回復不能に陥ったため、クラウドサービスへの移行を進め、2022年1月11日に稼働を開始、同2月22日に一般公開した（<https://opac.tbopac.com/>）。

従来 Adobe Flash を用いて公開していた近代中国関係日本語資料839件を、IIIF 画像に変換して公開した。上記「Toyo Bunko OPAC」の書誌情報から画像へのリンクを設定したほか、旧・現代中国研究資料室のウェブサイト（<http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib1/>）においても一覧を公開した。一般公開以後、画像公開ページのページビュー数は3,175、ユーザー数は2,540となった。

2020年4月に国立公文書館アジア歴史資料センターとの間で締結したシステム連携に関する協定に基づき、東洋文庫が OPAC 上で公開する近代中国関係日本語資料の書誌情報・画像データを、同センターの運用する情報提供システム（<https://www.jacar.go.jp/>）で横断検索できるよう準備した。上記839件につき、2022年3月15日に東洋文庫側の準備作業を完了し、現在、センター側の公開手続きを待っている。

2022年2月24日、オンライン形式により研究データベース会議を開催し、本年度データベースの構築に携わった研究員・研究協力者による下記の報告と関連する討論を行った。後日の動画視聴も含め40名ほどの参加を得て、東洋文庫のデータベース構築方針に関わる重要な提言を受けた。

- 中村 覚「持続性と利活用性を考慮したデジタルアーカイブシステムの構築：水経注図 DB、河口慧海将来写本大蔵経 DB を例として」
- 宮崎展昌「Web アプリケーションフレームワークを利用した大乘經典諸本対照サイトの構築：今後の課題と構想も含めて」
- 會谷佳光「『大正新脩大蔵経』底本・校本データベースの活用事例：大正蔵の「宮本」収録をめぐる」
- 相原佳之「データベース構築における東洋文庫各研究班と研究部・研究協力者の協働体制構築について」

現代中国研究資料室公開・近代中国関係日本語資料

画像リンクボタン [Browse](#) をクリックすると、東洋文庫所蔵資料の全文画像が開きます。
 PDF形式のリストは、こちらをご覧ください。
 公開している書籍に問題がある場合には、ご連絡ください。適宜対応いたします。

請求記号	書名・責任事項	巻次	出版事項	形態的記述	叢書名	画像リンク
22	上海二於ケル匯金制度 / 中支那振興株式会社調査課[編].		[出版地不明] : 中支那振興株式会社調査課, 1940.	44p ; 26cm.	(振興調査資料 ; 第22号)	Browse
68	上海華商銀行の構成と戦後の動向 / 中支経済研究所[編].		上海 : 中支経済研究所, 1939.	60, [36]p : 図版, 表 ; 26cm.	(中支経済資料 ; 第81号)	Browse
93	維新学院一覽 / 維新学院[編].	昭和15年版.	上海 : 維新学院, 1940.	24p : 図版 ; 22cm.		Browse
96	支那蠶糸業と華中蠶糸股份有限公司 / 華中蠶糸股份有限公司[編].		上海 : 華中蠶糸股份有限公司, 1939.	92p : 表 ; 22cm.		Browse
166	滿洲支那の結社と匪徒 / 滿洲事情案内所[編].		新京 : 滿洲事情案内所, 1941.	228p ; 19cm.	(滿洲事情案内所報告 ; 第104号)	Browse
174	北支那開発株式会社及関係会社概要 / 北支那開発株式会社[編].	昭和15年, 18年度, 19年上半年.	[北京] : 北支那開発, [1941]-44.	3冊 ; 21cm.		Browse 昭和15年 Browse 18年 Browse 19年上半年
	一九三八年一月一日現在北支鉄道外国借款證書・長期借款及		[出版地不明] : 滿鉄			

旧・現代中国研究資料室の公開資料一覧のページ

大正蔵の宮本収録をめぐって

宮内庁書陵部蔵宋版一切経 (=宮本)
 [大蔵経] (或称一切経)1454種5733巻 附字函釈音532巻 唐 特大6264帖
 [北宋末]刊[福州東禪等覺院 開元禪寺] [南宋後期]修 京都西山法華山寺 石清水八幡宮日藏
 宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧: https://db2.sido.keio.ac.jp/kanseki/T_bib_body.php?no=007075

宮内庁書陵部蔵漢籍研究会編
 『圖書寮漢籍叢考』(汲古書院、2018年3月)
 図録編『川宋版』
 「38. [大蔵経] (或一切経) 1454種5733巻 附字函釈音532巻」(倉谷担当)

本デジタルアーカイブは、下記の研究成果の一部です。
 平成24至28年度科学研究補助金による基盤研究(A)「宮内庁書陵部収蔵漢籍の伝来に関する再検討—デジタルアーカイブの構築を目指して—」(研究代表者: 住吉明彦)
 令和2年至6年度同基盤研究(A)「江戸幕府紅葉山文庫の再構と発信—宮内庁書陵部収蔵漢籍のデジタル化に基づく古典学—」(同上) など

2021年度に宮本画像のIIIF化と目次データの作成・公開

研究データベース会議 (オンライン) の発表風景

以下、各研究班が取り組んだ研究データベースについて報告する。

現代中国研究の国際関係・文化グループでは、「戦後日本人中国旅行記」コレクションのデータベース化に取り組んだ。また、2021年度に寄贈された「入江貫一満洲国宮内府関係資料」についても目録作成の作業を終えた。いずれも2022年度以降の公開に向けて内容分析を進めた。

現代イスラーム研究では、「日本における中東・イスラーム研究文献DB」のアップデートを日本中東学会と連携して継続し、1,200件の新文献を「イスラーム地域研究資料室」のサイトに掲載し、データベース文献総件数は61,020件（2022年3月31日現在）となった（<http://search.tbias.jp/>）。また、中東・中央アジアの歴史的に重要な諸法令を翻訳して順次データベース化し、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」で公開していく作業の一環として、トルコグループでは、粕谷元編『トルコにおける議会制の展開：オスマン帝国からトルコ共和国へ』（東洋文庫、2007年）所収のオスマン帝国憲法（1876年）およびトルコ共和国憲法（1924年）を改訳するとともに、これらに注釈と解題を付した『〔全訳〕オスマン帝国憲法』を3月に公開した。イラングループでは、1906～1907年イラン憲法およびイラン・イスラーム共和国憲法の翻訳・注釈と解題を付した『〔全訳〕1906-07年イラン憲法』を3月に公開した。

『〔全訳〕オスマン帝国憲法』 <http://doi.org/10.24739/00007560>

『〔全訳〕1906-07年イラン憲法』 <http://doi.org/10.24739/00007561>

東アジア研究では、2019年度に着手した、中国古代地域史研究の基礎資料ともいべき『水経注』の研究にとって極めて有用な『水経注図』（楊守敬・熊会貞撰、光緒31年（1905年）宜都楊氏觀海堂刊本朱墨套印、全8冊）のデータベース構築を進めた。水経注研究チームがデータベースのアイデアの提供とデータの点検を担当し、中村覚氏（前出）との協同のもと、1枚に繋げたデジタル画像に地名等のデータを付与する作業を進め、地名や記述、図中の区画などから検索できるシステムを開発し、2021年11月10日に一般公開した。一般公開以降のページビュー数は32,078、ユーザー数は2,314となった。非常に鮮明な画像で利用しやすく、国内外の研究者から好反応を得ており、今後さらに現在の地形と重ね合わせるなど改善を予定している（【東ア-1】）。

東洋文庫水経注図データベース

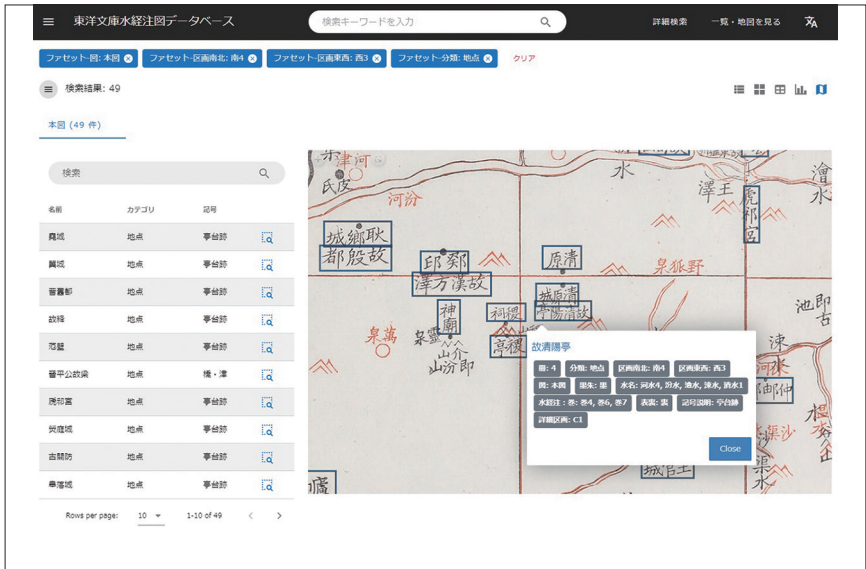
<https://static.toyobunko-lab.jp/suikeichuzu/>

「東アジアの古代・中世遺跡出土の遺構・遺物の考古学的研究」グループでは、前年度に引き続き、朝鮮半島における原三国時代～三国時代遺跡のうち、



東洋文庫所蔵の水経注図データベースです。

メニュー



水経注図データベースのトップ画面と地名詳細画面

特に墳墓のデータベースの作成を行った（Microsoft 社 Access を使用）。また、これらのデータベースと東洋文庫所蔵の梅原考古資料との対応関係について検討を行った（【東ア-2】）。

「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループでは、『中国社会経済史用語解』〈法制篇〉の約12,000語にわたる用語解説データの Excel 入力、および第1レイヤ～第3レイヤの項目分類をほぼ完了した。今年度も研究データベース公開に向けての分類、解説文の補訂等の追加作業を継続中であり、これらのデータは既存の「中国経済史用語 DB」に別途「中国法制史用語 DB」として追加する予定である。このデータから抽出した約3,000～4,000項目の法制用語について形式を整え、唐奨研究費で刊行予定の『増補改訂中国社会経済史用語解』に加えるべく準備を進めている。また『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻21〈商旅門〉および東北大学・狩野文庫蔵『商賈指南』の語釈1,219項目を整理し、研究データベース公開に向けての補訂作業を継続中である（【東ア-3】）。

東北アジア研究班では、所属研究員が1980年代以降に実施した、中国東北部、モンゴル、ロシア極東、同ザバイカル地方をはじめとする地域調査の画像・映像資料、各種パンフレット、地図等の資料の整理・研究を行った。故細谷良夫研究員収集の資料については、すでにその大部分を Excel ファイルにて整理した（【東ア-7】）。C. A. ダニエルズ研究員が中国雲南省で収集して東洋文庫に寄贈した碑文資料162件について目録整理、碑文の翻字を継続するとともに、研究データベース構築（IIF による画像公開とアノテーション機能による釈文の付加など）について検討した（【東ア-8】）。

日本研究班では、「菱川師宣絵本」全冊のデジタル画像を撮影し、「仮名草子」については『岩崎文庫貴重書書誌解題X』掲載の箇所を中心にデジタル画像を撮影した。今後、東洋文庫のデータベースに順次公開する予定である（【東ア-9】）。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班では、2020年度に刊行した *Catalogue of the Old Uyghur Manuscripts and Blockprints in the Serindia Collection of the Institute of Oriental Manuscripts, RAS, Volume 1.* の基礎の1つとなったマイクロフィルムのデータベースについて、すでに東洋文庫にて Excel データを基盤として専用のシステムを構築済みであるが、上記カタログの出版によって明確となったロシア科学アカデミー東洋写本研究所（IOM RAS）のデータをシステムに取り入れるための準備を行った（【内陸-1】）。20世紀初頭の雑誌『シューラー』、『フェルガナの声』等に掲載されたテュルク語の論説を講読

し、その成果を日本語訳注の形で東洋文庫のウェブサイトにて公開する準備を進めた（【内陸-2】）。「土肥義和敦煌・吐魯番文書調査資料（通称「土肥ノート」）」の整理を進め、国際敦煌プロジェクト（IDP）に掲載されている実文書（写真）との対応関係を明らかにし、実文書（写真）と土肥氏の録文・コメントを並べた形でデータベース化し、東洋文庫で公開する計画である（【内陸-3】）。

チベット研究班では、2020年10月にライデン大学シルク教授の研究チーム（Open Philosophy; <https://openphilology.eu/>）、ウィーン大学タウシャー教授の研究グループ（チベット大蔵経プロジェクト、Buddhist Kanjur Collections; <https://cirdis.univie.ac.at/research/buddhist-kanjur-collections-in-tibet-s-southern-and-western-borderlands/>）と締結した覚書に基づき、河口慧海将来チベット写本大蔵経の「宝積部」全6巻（第51～56巻）について画像の共同利用を行いながら国際共同研究を進めていたが、2021年度はその成果である書誌情報と解説、参考文献を付した形で「宝積部」全6巻の画像を閲覧できるデータベースを構築し、2021年11月24日に一般公開した。一般公開以降のページビュー数は1,808、ユーザー数は1,019である。また同様な公開を目指して撮影済みの「華嚴部」全6巻（第45～50巻）の書誌データ作成と、「般若部」二万五千頌般若経4巻（第39～41・44巻）のデジタル撮影を行った。

Toyo Bunko Manuscript Kanjur

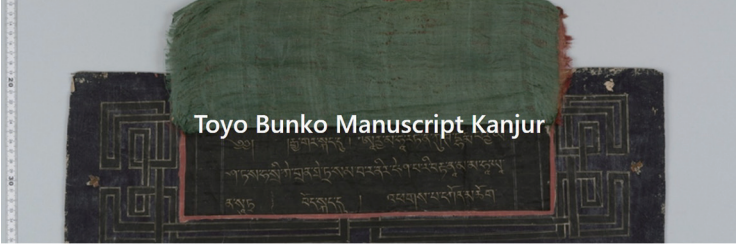
https://app.toyobunko-lab.jp/s/manuscript_kanjur/page/home

また、上記河口慧海将来写本大蔵経の「宝積部」全6巻の画像データベースを、ウィーン大学タウシャー教授の研究グループのウェブサイト（前掲）とリンクできるよう準備を進めた。河口慧海将来チベット語蔵外文献写本を解読し、チベット語活字体テキストとして入力し、電子テキストをもとに研究データベースの作成を行い、タクツァンパの宗義書をTibetan E-Textsとして東洋文庫リポジトリ「ERNEST」にて公開する準備を行った（【内陸-4】）

インド・東南アジア研究のうち東南アジア研究班では、2020年度に購入したQiep Hong 文書（全8箱）について、2022年度以降、社会活動関連文書（主に中華総商会・華語学校・救国基金に関する華語の文書）からカタログ化し、デジタル化を始める計画を練った（【東南】）。

西アジア研究では、東洋文庫所蔵のヴェラム文書（モロッコの皮紙契約文書、16～19世紀、15点）などイスラーム法廷資料研究を柱とした、比較研究の基盤となる資料のデータベース化（共有化）を進めるため、文部科学省科学研究費・学術変革領域研究（A）「イスラームのコネクティビティにみる信

Toyo Bunko Manuscript Kanjur HOME Introduction 閲覧 Links Contact



Toyo Bunko Manuscript Kanjur

Acknowledgment

It is our great pleasure to publish the database of the Toyo Bunko Manuscript Kanjur. The Tibetan research group of the Toyo Bunko launched the project in collaboration with the Open Philology project, an ERC-funded effort based at Leiden University (project 741884), and the project Buddhist Kanjur Collections in Tibet's Southern and Western Borderlands based at the University of Vienna. Our sincere thanks are due to Prof. Jonathan Silk of Leiden University, Prof. Helmut Tauscher, Dr. Markus Viehbeck, and Dr. Bruno Lahné of the University of Vienna for their participation in the project. We gratefully acknowledge the Taiish University for permitting us to reproduce the catalogue of the Toyo Bunko Manuscript Kanjur published by Prof. SAITO Kōjun in 1977. We also thank Dr. NAKAMURA Satoru for constructing the website and UURA Shiori for compiling the detailed catalogue of the dKron brtsegs (Ratnakūṭa) section, the data of which are integrated into each item page. The images of the six volumes (vols. 51–56) of the dKron brtsegs (Ratnakūṭa) section are accessible here and will also be seen through the website of the Resources for Kanjur & Tanjur Studies (KRTs), Vienna (see Link). We will continue the project and publish other sections of the Manuscript Kanjur.

November 24, 2021

YOSHIMIZU Chizuko
MIVAZAKI Tensho


Toyo Bunko Manuscript Kanjur HOME Introduction 閲覧 Links Contact

アイテム

48 results / 2 ページ < >


Trisam 'vara-nirdeśa

Tibetan Title: Opening part : 'phags pa dKron mchog brtsegs pa chen po'i chos kyī mam grangs stong phrag brgya pa las / sd... Saito No. : 33-1, Location : Ka 1a1-Ka 3507, D No. : 45, P No. : 760-1



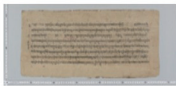
Anantamukha-pariśodhana-nirdeśa

Tibetan Title: Opening part : 'phags pa sgo mtha' yas pa mam par sbyong ba bstan pa zhes bya ba theg pa chen po'i mdo /, Saito No. : 33-2, Location : Ka 5507-Ka 121a3, D No. : 46, P No. : 760-2




Tathāgatācintya-guhyā-nirdeśa

Tibetan Title: Opening part : 'phags pa de bzhin gshegs pa'i gsang ba bsam gyis mi khyab pa bstan pa zhes bya ba theg... Saito No. : 33-3, Location : Ka 121a3-Ka 251b6, D No. : 47, P No. : 760-3



Svapna-nirdeśa

Tibetan Title: Opening part : 'phags pa mi lam bstan pa zhes bya ba theg pa chen po'i mdo/, Saito No. : 33-4, Location : Ka 251b6-Ka 294b8, D No. : 48, P No. : 760-4



Toyo Bunko Manuscript Kanjurのトップ画面とアイテム一覧画面

頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」(イスラーム信頼学) デジタル・ヒューマニティーズ研究班のセミナーへの参加と情報交換などを通して、ヴェラム文書のアラビア語校訂テキスト、英文解題、注釈、参考文献を関連づけた総合的なデータベースの構築のための方法上の検討を行った(【西ア】)。

東アジア資料研究では、現地調査によって得られた写真・録画・文献資料の電子データ化、およびデータベース化とその公開を実施した。梅原考古資料のうち、2021年度は日本の古墳資料のメタデータの作成に注力し、全11,588件のうち4,686件(約40%)を完成した。また同資料の画像撮影も進めた(計1,136コマ)。動画資料の公開にも注力し、中国演劇関係の「京劇：紅梅記」「京劇：百花記」「台湾北管：天官賜福」「台湾北管：趙子龍救主」「黄梅戲：羅帕記」、中国祭祀儀礼関係の「シンガポール海南道士：梁太爺廟中元祭祀」「広東海陸豊道士：晩朝科儀礼」「シンガポール福州道士：莫律福州中元儀礼」「シンガポール福州道士：鳳嶺北壇三相公祭祀」、日本民俗芸能祭祀の「高千穂柚木野神楽」を公開した。

最後に、2021年度までに公開済みの研究データベース・アクセス数を次頁に挙げておく。



高千穂柚木野神楽

2021年度研究データベース・アクセス数

データベース名	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	計
中国経済史用語DB	19,061	19,704	19,074	19,721	19,731	19,108	19,763	19,140	19,782	19,823	17,891	19,828	232,626
宋会要輯稿食貨編 社会経済用語DB	33,869	35,020	33,897	35,029	35,042	33,936	35,099	33,981	35,152	35,243	31,825	35,269	413,362
梅原郁編「唐宋編年 語彙索引」DB	6,248	6,467	6,261	6,474	6,478	6,274	6,487	6,283	6,504	6,522	5,887	6,526	76,411
新版唐代墓誌所在総 合目録（増補版） DB	2,433	2,517	2,438	2,521	2,524	2,444	2,526	2,453	2,535	2,541	2,293	2,543	29,768
日本における中東・ イスラーム研究文献 DB	※2021年4月～2022年3月の期間統計												
梅原考古資料	54,156	55,965	54,183	56,007	56,757	54,965	56,824	55,001	56,892	56,909	51,384	57,043	666,086
日本 縄文時代之部	58,267	60,276	58,337	60,291	60,308	58,396	60,363	59,016	61,082	61,155	55,206	61,278	713,975
同 弥生時代之部	133,430	138,135	135,729	140,293	141,235	136,738	141,341	136,982	141,810	141,998	128,133	142,222	1,658,046
同 銅鐸之部													

(3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進

担当：會谷佳光、相原佳之、太田啓子

前記(1)(2)の諸活動によって得られた最新の研究成果について、国際シンポジウム・ワークショップを開催して、広く国際的に発信することで、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することを目指した。その一方で、アジア諸地域の現地研究機関・図書館との学术交流を積極的に推進することで、新たな分野の資料群を探索・収集し、研究図書館としての東洋文庫の一層の充実に取り組んだ。

国際シンポジウムの運営全般、および総合アジア圏域研究班の諸活動に携わって研究活動を補助する人材、欧文による成果発信を強化するための人材を確保・育成するべく取り組んだ。

[研究実施概要]

総合アジア圏域研究では、研究データベース共同研究グループが中心となって、2022年2月24日、オンライン形式により研究データベース会議を開催し、本年度データベース構築に携わった研究員・研究協力者による報告と関連する討論を行った(詳細は [p. 55](#)参照)。後日の動画視聴も含め40名ほどの参加を得て、東洋文庫のデータベース構築方針に関わる重要な提言を受けた。

現代中国研究のうち政治・外交グループでは、下記のワークショップ等を開催した。

(a) 2021年6月3日、上海国際問題研究院とのワークショップ
“Asia-Pacific Developments and China-Japan Relations”

(b) 2021年6月24日、研究報告
青山瑠妙研究員「習近平体制下の政策決定」

(c) 2022年2月12日、講演会
牛軍氏(北京大学国際関係学院教授)「中国対外政策の形成過程」

国際関係・文化グループは、ハイフレックス型のオンラインシステムを活用して、下記のワークショップ等を開催して、海外との学术交流を積極的に進めた。

(a) 2021年5月29日、国際ワークショップ
「近現代中国・台湾をめぐる政治思想史研究の現在」

- (b) 2021年9月10日、国際シンポジウム
「冷戦下における日本と中華圏の人物交流史」
- (c) 2021年12月4日、日中共同ワークショップ
「中国当代史研究」

このうち、東洋文庫所蔵の「日本人中国旅行記」関連資料を活用した取り組みが (b) である。

東アジア研究のうち前近代中国研究班では、「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループが、『増補改訂 中国社会経済史用語解』（唐奨研究費）の公刊される時期（2023年度）の前後を目処に、国際シンポジウムの開催を検討している。過去・現在の中国に対して強い関心が集まり、国際的に中国研究者が増大する趨勢のなか、中国史・中国史料そのものへのアクセスは容易でないと言われている。その理由として、中国語の習熟の困難さによるものと、中国史では史のかつ制度的枠組みの捉え方が儒教理念によって刻印されていることが指摘されている。欧米では早くからシノロジー（Sinology）の伝統を築いたためか、中国史やその史料学に対する理解や教育法の工夫も進んでいる。将来、中国本土、台湾、欧米の専門家を招き、日本で行われているような訓読法をベースにした読解力や中国学の促進に資する若手研究者の訓練法をめぐる意見の交換がなされることを期待するが、本研究グループの「用語解」をめぐる努力も、そうした試みにおいて有力な話題を提供できると考えている（【東ア-3】）。

日本研究班では、研究成果の一般への普及を目的として、「東洋文庫蔵日本古典の絵入り本」をテーマに、東洋学講座をオンライン開催した。プログラムについては、[p.98](#)を参照（【東ア-9】）。

内陸アジア研究のうちチベット研究班では、2020年9月にチベット大蔵経とその研究史をテーマに国際ワークショップを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催を見送った。その代替として、河口慧海将来写本大蔵経の「宝積部」全6巻の画像データベースを、ウィーン大学タウシャー教授の研究グループ（チベット大蔵経プロジェクト、Buddhist Kanjur Collections; <https://cirdis.univie.ac.at/research/buddhist-kanjur-collections-in-tibet-s-southern-and-western-borderlands/>) のサイトとリンクできるよう準備を進めた（【内陸-4】）。

インド・東南アジア研究のうち東南アジア研究班では、研究成果の一般への普及を目的として、「近世東南アジアの対外交流」をテーマに、東洋学講座をオンライン開催した。プログラムについては、[p.97](#)を参照（【東南】）。

(4) 研究成果の刊行・発信の強化

担当：片倉鎮郎、中村威也

日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するため、資料研究の成果、および国際シンポジウム・ワークショップの内容を紙媒体・電子媒体（東洋文庫リポジトリ「ERNEST」）によって発信した。多言語による研究成果の国際発信力を強化し、資料交流・人的交流・国際交流に資するべく取り組んだ。

定期刊行物は、『東洋文庫和文紀要』（『東洋学報』）・『東洋文庫欧文紀要』（*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*）・『近代中国研究彙報』・『東洋文庫書報』・*Asian Research Trends New Series*・*Modern Asian Studies Review*／新たなアジア研究に向けての年間6点（9冊）、および東洋文庫の年次報告書『東洋文庫年報』を継続刊行した。

出版物の質的向上をはかるため、東洋学の知識と編集校閲技能を兼ね備えた人材を確保・育成し、かつ日本語論文を英訳するネイティブ・スピーカーの協力を得た。

今後も東洋文庫リポジトリ「ERNEST」によるオンライン出版をより強化していく。しかし、紙媒体には図書館等に設置して参照・利用に供する教育上の意義があり、かつアジア諸国との資料交換・国際交流に紙媒体の書籍が果たす役割は依然大きいことから、オンライン出版と並行して、紙媒体での出版も継続していく。

[研究実施概要]

現代中国研究では、中華人民共和国史（当代史）研究の最新の成果として、日中研究者の20篇の論文を収録した『集体化時代の中国：日中共同研究（東洋文庫論叢第84）』を出版し、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に即時公開した。また、経済グループは2020年度までの研究成果を集成し、中兼和津次編『毛沢東時代の経済：改革開放の源流をさぐる』（名古屋大学出版会、2021年7月）として刊行し、2021年度はその英語版の作成を進めた。年度内にすべての原稿が揃い、現在最終的な編集作業を進めている。

東アジア研究のうち**近代中国研究班**では、研究成果発表の場として『近代中国研究彙報』第44号を刊行した（【東ア-5】）。

東北アジア研究班では、研究データベースの構築の一環として、1980年代

以降に所属研究員が実施した、中国東北部、モンゴル、ロシア極東、同ザバイカル地方をはじめとする地域調査の画像・映像資料等の整理・研究を行い、その研究成果の一部を細谷良夫・加藤直人・柳澤明編『清朝の史跡をめぐってⅡ：アムール流域篇』として出版し、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に公開した（【東ア-7】）。また、清朝祭祀儀礼研究の一環として、石橋崇雄研究員が東洋文庫所蔵の清朝『壇廟祭祀節次』の解説作業を進展させ、その成果の一部として、『清朝『壇廟祭祀節次』訳注（一）：凡諸祭祀・祈穀壇』を刊行した（【東ア-8】）。

日本研究班では、「菱川師宣絵本」29点と「仮名草子」72点の解題・図版を収録した『岩崎文庫貴重書誌解題X』を刊行した（【東ア-9】）。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班では、東洋文庫が所有するロシア・サントペテルブルクのロシア科学アカデミー東洋写本研究所（IOM RAS）所蔵ウイグル古文献カタログとして、2020年度に *Catalogue of the Old Uyghur Manuscripts and Blockprints in the Serindia Collection of the Institute of Oriental Manuscripts, RAS*, Volume 1, Edited by IOM, RAS & The Toyo Bunko. (Chief Editor: Peter Zieme, Compilers: Olga Lundyshva, Anna Turanskaya, and Hiroshi Umemura) の編集・出版を行った。2021年度は、Volume 2の編集を共同して進めていたが、IOM側の共同研究者2名の退職により、プロジェクトを一時停止するとの通告がIOM側からあり、編集・出版の継続が当面不可能となった（【内陸-1】）。

(5) 若手研究者の育成

担当：會谷佳光、相原佳之

東洋文庫では、若手研究者の育成にあたり、常に公益性を重視して、東洋文庫の内部にとどまらず、東洋学の伝統を継承・発展させていくことで、将来にわたって世界の研究者に裨益し、アジアで育まれてきた人類の叡智を広く一般の人々に還元することを目指している。そこで、下記の若手研究者の育成に関わる取り組みを通して、若手研究者が自発的な研究活動等を行えるよう支援した。

〈科学研究費の応募資格を持たない者に対する支援〉

東洋文庫で研究補助等の業務に従事する若手研究者のうち科学研究費の応募資格を持たない者が、日本学術振興会の科学研究費助成事業（科学研究費

補助金)「奨励研究」に申請して教育的・社会的意義を有する研究に取り組む場合、所属機関として「奨励研究」に関わる諸手続・管理を承諾することで、その研究を積極的に支援する。

〈東洋文庫奨励研究員の任用〉

博士後期課程修了者については、公募・内部推薦を併用してポストドクターを選抜して「東洋文庫奨励研究員」に任用して科学研究費の応募資格を与え、東洋文庫研究員に準ずる者として『東洋文庫年報』の「役職員名簿」にも掲載し、東洋文庫の資料を広範に利用できるようにするなど待遇面の向上を行う。また、研究班・研究グループの研究協力者として資料研究・アジア現地資料調査・国際会議に参加するなど実践的な研究指導を行うことで、研究者としての早期の自立を促し、若手研究者の育成・雇用促進を進める。

〈インターンシップ活動等の実施〉

研究者育成のためのインターンシップ活動として、ハーバード・エンチン研究所の研修プログラムへの参加や、若手研究発信支援プログラムによる英語論文の作成指導等を実施する。

〈東洋文庫諸事業への参画による実務経験の蓄積〉

奨励研究員経験者を、国際共同研究や国際シンポジウムなど東洋文庫の各種の公開学術活動に積極的に登用し、アジア各地における日本人研究者雇用のニーズに応える。並行して、若手研究者の参加に基づき東洋文庫の研究図書館としての機能を継承・発展させる一方、『東洋文庫和文紀要』（『東洋学報』）・『東洋文庫欧文紀要』（*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*）等の学術誌の編集、資料収集・整理、および研究データベースの開発・発信等において、研究支援者として雇用して実務経験を積ませるなど、若手研究者の育成および雇用促進のための体制を一層充実させ、東洋文庫の事業の安定的・継続的な実施をはかる。

〈若手研究者の雇用と任期中および任期満了後の支援〉

奨励研究員等若手研究者のためのポストとして「嘱託研究員」を設定し、各部署の諸事業に参画しつつ、かつ東洋文庫の所蔵資料を活用して研究を行うことを支援する。2019年度には新たに「嘱託研究員規約」を施行し、嘱託研究員は所属長の許可を得た上で、本来の業務に影響が生じない範囲内で、個人または東洋文庫の研究班・研究グループの調査研究活動等、研究者としてのキャリアアップのために必要な諸活動を行うことができ、かつ東洋文庫から科学研究費に申請する資格を与え（ただし、東洋文庫等での勤務時間外にみずから主体的な研究を行うだけの十分なエフォートを確保できる場合に

限る)、嘱託研究員の任期満了後も東洋文庫の専任研究員として在籍し、東洋文庫の諸施設を利用可能とすること等を定めた。

[研究実施概要]

若手研究者の育成と雇用支援を、研究データベースの構築と並ぶ最重要課題に位置づけ、以下の計画を重点的に展開した。

総合アジア圏域研究では、若手研究者育成の一環として、精密顕微鏡による紙質調査において、奨励研究員の多々良圭介氏の協力を得た。

現代中国研究では、2022年3月11日に若手研究者の報告会を開催し、衛藤安奈氏(東洋文庫奨励研究員)、神田豊隆研究員(政治・外交グループ)が報告した。このほか、年間を通じて上記の各種プロジェクトへ若手研究者に積極的に参加してもらい、個人の研究を奨励した。その結果、若手研究者2名(奨励研究員と臨時職員)が2022年4月に大学の専任職(准教授)と日本学術振興会特別研究員(PD)に採用された。

現代イスラーム研究では、中東・中央アジアの歴史的法令の翻訳作業に6名の若手研究者が研究協力者として参加し、なおかつ中心的な役割を果たした。

東アジア研究のうち前近代中国研究班「中国古代地域史研究」グループの研究会では、若手研究者が参加者の過半を占める。講読や報告は若手研究者が主体となっており、研究員がそれを批判し、誤りを修正し、足りない点を助言することで、若手研究者の研究遂行能力・執筆能力の向上を図った(【東ア-1】)。現地資料調査(2019年度の韓国現地資料調査に同行)およびデータベース作成において研究協力者として参加してきた韓国人留学生の李東奎氏(専修大学大学院博士後期課程)が、2021年度に博士学位論文(題名「築造方法から見た横穴式古墳の研究(畿内地域を中心に)」)を専修大学に提出し、博士(歴史学)の学位を取得した(【東ア-2】)。

「中国社会経済・基層社会用語のデータベース化」グループでは、正確な和文への翻訳および詳しい註釈を語彙・術語に施す「訳注」作成作業に注力している。東洋文庫では1924年の創設以来『歴代正史食貨志訳註』の事業を継続させ、10種の「正史食貨志」本文の訓読と註釈を蓄積し、東洋文庫刊行物の核心をなす「論叢シリーズ」として2009年までに『宋史食貨志訳註』(一)～(六)・索引計7冊(総頁数3,997頁)を公刊してきた。この永年培ってきた実績・経験、なかんずく訳註のスキルは、扱う時代・主題は異なっても、新進気鋭の若手研究者にとって、資料の操作、読解の力量を増進するために

有益である。「訳註」作成を主とする月例研究会では、老練な専門研究者と、博士前期課程（修士課程）・博士後期課程・ポストドクター・現職の大学教員からなる若手研究者とが相半ばし、研究成果の報告に基づく、一種の「上級セミナー」の形をとっている。若手研究者の担当した報告は、下記の通り。

白山友里恵氏（上智大学大学院修士課程修了）が第93回研究会（2021年7月30日）より『新刻天下四民便覧三台萬用正宗』巻27〈護幼門〉下層の訳注を開始し、現在まで5回の報告を行っている。白山氏の修士論文『『諸病源候論』における虫表象傷寒類』では、隋代に編纂された、魏晋南北朝期医学の集積ともいえる医学書『諸病源候論』を主要史料とした。また中国・日本の医学書読解のスキルを有するため、中国前近代の小児医療・医薬を内容とする〈護幼門〉訳注を担当することとなった。明代の〈日用類書〉は、テキストの判読が難しく、引用も多岐にわたり、異体字・俗字が多用される。毎回の報告ごとに老練な専門研究者の指摘を受け議論し、大学院博士後期課程レベルの力量となっている（【東ア-3】）。

若手研究者の養成やインターカレッジ的な学生指導のため、中国法制史関係の手引書や入門書を定期的に刊行し、これによって学界全体の水準引き上げに貢献することを目指し、『ゼミナール中国の法と社会』（仮題）の刊行の準備を進めた（【東ア-4】）。

近代中国研究班では、若手研究者2名を所属研究員に加えた。また昨年度に引き続き、若手研究者が中心となって、日中関係に関わる60年前のインタビュー記録を活字化して『近代中国研究彙報』第44号に掲載した（矢野真太郎「荒木貞夫の口述記録：満洲事変について（続）」）（【東ア-5】）。

東北アジア研究班では、奨励研究員の多々良圭介氏が東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔」の紙質分析を実施した（【東ア-7】）。若手研究者の育成を目的に、満洲語研究講座を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止を余儀なくされた（【東ア-8】）。

内陸アジア研究のうち中央アジア研究班の突厥碑文研究会では、若手研究者（博士後期課程）3名をメンバーに加えて、ドイツ・トルコ・日本を結ぶオンライン形式で研究会を開催した（【内陸-1】）。近現代中央ユーラシア定期刊行物研究会は、若手研究者が中心の研究会であり、研究会メンバーのうち1名が2021年4月から東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門の准教授に、もう1名が2022年4月に北海道教育大学の准教授に着任した（【内陸-2】）。「土肥義和敦煌・吐魯番文書調査資料（通称「土肥ノート」）」の整理とデータベース化プロジェクトでは、若手・中堅研究者の協力を仰ぎ、

研究実績になるように支援している。内陸アジア古文献研究会では、若手・中堅研究者による研究報告とその後の議論に力を入れている。地道な試みであるが、今後も報告の機会を増やしていく（【内陸-3】）。チベット研究班では、資料研究に若手研究者を参加させ、指導しながら共同研究を行っている。河口慧海将来チベット写本大蔵経の研究データベースの作成において、画像データの調査に若手研究者の協力を得た（【内陸-4】）。

インド・東南アジア研究のうちインド研究班では、様々な共同研究・学会発表等を通じて若手研究者や海外を含む多くの研究者と交流し、新しい研究動向の把握に努めた（【南ア】）。東南アジア研究班では、若手研究者の研究会への参加を積極的に促すとともに、研究テーマについて6月の研究会で報告してもらう機会を設けた（【東南】）。

資料研究では、名古屋大学の博士（文学）号取得者で、明代小説の挿絵画像の専門家である中塚亮氏を画像資料担当として採用し、研究の機会を提供した。

また、嘱託研究員、奨励研究員については、[pp. 105-106](#)を参照。

なお、2021年度の若手研究者育成の実績として、大学等研究機関の研究職に採用された方について挙げておく。

・清水信子

2008年よりデータベース公開担当の臨時職員として、2021年9月より資料整理（受入）担当の嘱託研究員として勤務し、和漢書の画像データベース構築業務等に携わった。2022年2月に東洋文庫図書部正職員（受入係、和漢書整理担当）に就任。

・水口友紀

2014年より資料保存整理担当の臨時職員として勤務し、和漢書をはじめとする蔵書の保存修復業務に携わった。2022年4月に東洋文庫図書部正職員（保存修復担当）に就任。

・衛藤安奈

2021年5月に奨励研究員に任命、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業に参画した。2022年4月に東海大学国際学部特任准教授に就任。

・河原弥生

2016年4月から2017年3月にかけて、欧文編集担当の臨時職員として勤務し、欧文刊行物の編集・校閲業務に携わった。その後、内陸アジア研究班の近現代中央ユーラシア定期刊行物研究会に中心メンバーの一人

として参加した。2021年4月に東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門の准教授に就任。

C. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

(1) 研究成果公開促進費（学術図書）

「中国殷王朝考古学研究」

[研究代表者：飯島 武次]

本著は著者が野外考古学から得た殷文化研究の成果を公開することを目的としており、著者が40数年にわたり夏殷周文化遺跡の踏査を行い、近20年間は毎年夏殷周文化遺跡の発掘に参加し、そこで得た成果の中から、殷文化に関わる研究成果を凝縮して発表するものである。日本国内におけるこの時代に関する研究は、遺物に関する研究が多く、発掘現場で得た遺跡・遺構の調査成果に主眼を置いて執筆した著作は皆無ともいえる。

本著では、著者が殷文化遺跡および考古工作站や博物館で収集した資料を基に殷文化考古学研究の成果を記述した。第1章は殷文化研究に必要な基礎知識の導入部分とし、第2章から第4章では、過去の発掘成果と研究の紹介を記述した。第5章から第10章が過去の研究を踏まえた研究成果で、代表者の持論を展開した。第5章では、古代都市としての殷墟について述べた。第6・7・8章では、土器・青銅器・玉器の編年に取り組み、殷王朝文化を殷前期・殷中期・殷後期の3時期に区分する編年を採用した。第9章では、殷墟の大型建築の割り付けと造営順序を明らかにし、さらに侯家莊西北岡大墓群の造営順序と被葬者名を示し、代表者の考えを述べた。第9・10章では、従来の殷墟文化第1期を殷中期文化第3期とし、殷後期文化第1期を武丁期以降と考える見解を示した。最後に殷王朝文化の実年代を考察し、概数で前1530年から前1000年とした。

[研究実施概要]

飯島武次著『中国殷王朝考古学研究』1冊 同成社刊

(2) 基盤研究 A

「漢文大藏經の文献学的研究基盤の構築：『大正新脩大藏經』底本・校本 DB の活用と拡充」

[研究代表者：會谷 佳光] (2021年度採用、5ヶ年間・初年度)

『大正新脩大藏經』底本・校本データベースは、『大正新脩大藏經勘同目録』と大正蔵の脚注に記載される大正蔵第1～55巻の底本・校本に関する情報を対照して一覧するためのデータベースである。これを軸に、様々な底本・校本の原本を書誌調査し、画像を入手し、本文テキストを作成して、仏典の国際的なスタンダードテキストたる大正蔵にふさわしい漢文大藏經データベースに拡充し、デジタル空間上に文献学的研究のための研究基盤を構築する。

[研究実施概要]

2021年度は、『大正新脩大藏經』底本・校本データベース（以下「本DB」）の一般公開、西蓮社本のデジタル撮影、データ作成、書誌調査、本DBの周知活動に取り組んだ。研究代表者會谷は、3社相見積もりで西蓮社本の撮影業者を選定して、計15箱（全42函309冊）33,330コマのデジタル撮影を実施した。DB連携を行うSAT大藏經テキストデータベース研究会との連絡役を務め、新たに「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」中の「[大藏經] 1454種5733巻」（所謂「宮本」）と連携させるためのリンク用データを作成した。また、これまで経典単位で公開していた画像データに対して、目次単位で書誌と画像データを紐付けるためのリンク用データの作成を行った。

研究分担者相原は作業人員を指揮してIIIF化作業を推進した。清水は大谷大学図書館所蔵の原本20点の書誌調査を実施した。中村は本DBの設計・構築・改修を進め、DB化作業のための助言を行った。宮崎は本DBの外部への周知に取り組み、會谷とともに他科研の研究会にて本DBの利用法を紹介するとともに、仏教学者の視点から改善・利活用の方法等を提示した。2021年6月に第1回研究打ち合わせを行い、本DBにGoogleフォームによるレビュー収集ページを組み込むなど改修を行った上で一般公開した。12月の第2回打ち合わせでは本DBの改修・拡張計画を検討して、2021年度に準備した撮影データや外部データベースとのリンク用データを取り込んで、2022年度の早い時期にリニューアル公開する方針を決定した。2022年2月には東洋文庫で開催した研究データベース会議にて、會谷、相原、中村、宮崎がそれぞれのテ

マで報告を行い、質疑応答を通じて、有益な助言を得た。

(3) 基盤研究 B

①「寄進とワクフの国際共同比較研究：アジアから」

[研究代表者：三浦 徹] (2017年度採用、4ヶ年間・最終年度)

寄付・寄進という行為は、人類史上広くみられる現象であり、富の再配分や金融や福祉の役割を果たし、寄進財をめぐって国家から独立性をもつ社会組織が形成された。本研究では、イスラーム地域に広がるワクフという寄進制度を、ヨーロッパや東アジアを含め、地域や時代をこえて比較することによって、ワクフの特徴や変化を明らかにするとともに、世界史（人類史）における寄付・寄進の意味を討究する。

- 1) 国際的な研究者ネットワークに基づく、世界大の比較研究。
- 2) ワクフ・寄進を「所有、契約、市場、公益」の観点（分析軸）から比較し、そのメカニズムのモデルを構築する。
- 3) 日本と中国の寄進をワクフと対照し、論点化することによって、日本から斬新な研究発信を行う。

[研究実施概要]

自己の財産を他者に寄付・寄進するという行為は、古代から世界の諸地域に広くみられる行為であり、とりわけ中近世の時代に盛行した。本研究では、海外の寄進研究のグループと連携して国際研究集会を開催し、イスラームのワクフを基点としつつ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、南アジア、東南アジア、中国、日本の寄進と比較することによって、その目的、受益者、管理運営、社会的効果の異同を分析した。いずれの地域においても、個人的動機（善行・救済、名声、墓所、財の継承）と社会的利益（宗教・社会施設、慈善、経済インフラ）の要因が確認され、両者が混淆していること——利己的であり利他的であるところが寄進の原動力となっていた。

フランス、ドイツ、アジアの寄進研究グループと連携して5回の国際研究集会を開催し、地域・時代を横断しつつ、観点を共有した比較研究を行った。ヨーロッパの研究グループがカバーできていなかった、中国および日本の寄進研究を提示することで、ワクフと日本中世の寄進の近似性（家族への財の継承）、中国とヨーロッパ・イスラーム（一神教世界）の自他の観念の違いな

ど、新たな論点を発見できた。現在イスラームのワクフ制度は公益財団の形をとって復活しており、寄付や互助のあり方は人類史を通貫する問題である。研究成果は、国際学術誌で発表するとともに、英文論集を公刊する予定で、国内の学術誌や図書においても広く成果を公表している。

②「公論と暴力：革命の比較研究」

[研究代表者：三谷 博] (2019年度採用、5ヶ年間・第3年度)

この研究は近代に起きた6つの革命を公論と暴力の関係に着目しつつ比較する。取り上げるのはイギリス・フランス・日本・中国・ロシア・中東の革命で、日本と外国の専門家が互いに緊密な議論を行い、最後は英文論文集を刊行する。革命では公論と暴力が同時に誕生するが、暴力が蔓延する条件を探るのが第1の問題である。また、革命の終わりには暴力が排除されるが、その後、公論が維持されて自由な体制が生まれるのか、公論まで排除されて専制体制が生ずるのか、その分岐要因の解明が第2の課題である。さらに、諸革命がどんな連鎖関係に立っていたのか、アジアなど後発革命の側から先行革命の利用の様子を明らかにする。

[研究実施概要]

2019年度は5ヶ年計画の初年度なので、翌年度以降の国際研究会のため、東アジアのメンバーが2回にわたりワークショップを開いて準備に当たった。第1回は2019年11月30日に東洋文庫で開催し、フランス革命と明治維新に関する近著2冊の批評を行い、第2回は2020年3月14日に東洋文庫でイギリス革命とロシア革命について発表・議論した。その結果、各革命に関する知識がメンバーに共有されただけでなく、比較による発見も生じた。明治維新における死者は極めて少なかったが、その基礎要因に幕末の日本がフランスやロシア等と違って国際的に孤立しており、そのため干渉戦争を免れたという事実があったことが確認されたことである。ワークショップの概要および発表・討論の要旨は革命比較研究会のウェブサイト을設けて、これに掲載・公開した。他方、メンバーそれぞれの研究を進めるため海外派遣も行った。今年度は研究協力者の岩井淳氏(静岡大学人文社会科学部教授)をイギリス・フランスに派遣して資料調査を行った。

こうして比較研究の準備は着々と進んだが、2020年初頭から新型コロナ・パンデミックが始まったため、海外研究者の招聘や日本人研究者の海外派遣

の続行は不可能となった。使えなくなった旅費は2020年度以降への繰り越しを認められた。しかし、2020年度もパンデミックのため海外渡航も招聘も不可能となり、当該予算は主に文献購入に振り替えた。

これらの準備は翌年度にオンラインで開いた国際研究会やワークショップで生かすことができた。

③「現代新疆における少数民族の文化動態に関する研究：民族言語出版物からの検討」

[研究代表者：梅村 坦] (2020年度採用、4ヶ年間・第2年度)

中央ユーラシア地域のテュルク系諸民族住民のなかで、相対的に人口の多いのはウイグル人、カザフ人である。彼らの近代以降における民族文化状況を辿ることを目的とする。

特に、比較的研究蓄積の多い中華人民共和国の成立以降の時期に焦点をあてながら、新疆ウイグル自治区地域が経験した社会変動のなかで、少数民族はどのような文化動態を呈してきたのか、その文化変容の実像にアプローチする。

主要な資料となるのは民族言語による出版物であるが、1980年代から東洋文庫や個人が収集したものを核として、研究利用のための環境を整備するとともに、日本に存在する現地出版物の公開利用態勢を整えるためにカタログ・データベースを構築する。

[研究実施概要]

今年度もコロナ禍のため、初年度に転換せざるをえなかったように、国内外の現地調査は原則として実施せず、基礎的な資料整備、文献・情報の収集の継続とデータ分析作業に注力した。

東洋文庫所蔵のウイグル語・カザフ語文献を活用して新たなカタログ作成の準備を継続した一方、重要な雑誌・書籍の恒久的資料化を目的にスキニングを継続した。また東京大学附属図書館内のアジア研究図書館と連携をはかりながら、ウイグル語などアラビア文字表記の新疆・中央アジア文献の表記標準化や、カタログ汎用化の国際的スタンダードタイプ作成の議論をオンライン非公開で模索した。さらに文献資料研究の範囲を、民族政策論や国際関係論にまで広めつつ、研究課題に関するオンライン会議を開催した。この会議においては、中国の少数民族地域である内モンゴル自治区および新疆ウ

イグル自治区における統治政策の実態を、実際の統治行政官僚や政治指導者の動向を浮き彫りにし、統治下にある少数民族の文化状況がおかれた社会・政治的な枠組みを理解する大きな手掛かりを共有することができた。

こうしたオンラインによる研究者ネットワークの拡大を通じて、文献資料を利用した出版文化の動態を検討する方法のほかに、1980年代から2010年代初めまで比較的自由に可能であった研究者による現地調査の映像記録や、その当時盛んに現地で広められていた音楽、舞踊などの文化活動の記録類をも蒐集・研究の対象に含めるべく、検討を重ねた。

(4) 基盤研究 C

①『『大正新脩大藏經』編纂の実態に関する書誌学的研究：増上寺報恩蔵本を通して』

[研究代表者：會谷 佳光] (2018年度採用、3ヶ年間・最終年度)
※1年間期間延長

現在、冊子体、Web上のテキスト・画像データベースで、国際的な仏典のスタンダードテキストとなっている『大正新脩大藏經』については、編纂時の誤脱や衍文の多さが近年指摘されている。しかしながら、その底本や校本に用いられたテキスト、例えば増上寺の三大藏經（高麗再彫本、宋思溪版、元普寧寺版）など、編纂時に実際に用いられたテキストを使って問題点の実証的な解明を行うことが非常に困難な状況にある。本研究の研究代表者は『大正藏』の底本・校本として散見する「増上寺報恩蔵本」について、2010年より浄土宗寺院西蓮社にて書誌学的実地調査を重ねてきた。そこで、この西蓮社本と『大正藏』とを校勘してテキストの異同等の状況を調査分析することで、『大正藏』の編纂実態の一端を実証的に解明し、そこに内包される問題点を顕在化させることで、『大正藏』をいかに活用すべきかを利用者に提起し、国内外の仏教研究に貢献することを目指す。

[研究実施概要]

大正藏と西蓮社本のテキスト比較について、2020年度にテキストデータの国際的ガイドライン TEI を導入して実施する方針に変更したため、2021年度に補助事業期間を延長した。

これまでの研究成果から、大正藏は従来から知られる再刊時の補訂以外に

も初版の和装本・洋装本、再刊本、普及版の間に大小様々な異同があることが判明した（未見ながら再刊本の第41回配本第82巻（1965年刊）に正誤表が含まれることも判明した）。かつ大正蔵編纂の際、底本・校本に用いたと記録されるテキストによらず、縮刷蔵経や頻伽蔵経を使った經典があるとの指摘もあり、単純に大正蔵のいずれかの版を西蓮社本と比較しても、十分な結果が得られない可能性がある。

そこで、SAT 大蔵経テキストデータベース研究会より提供いただいた『釈禪波羅蜜次第法門』のTEIテキストをサンプルとして西蓮社本のTEIテキストを作成した。さらに大正蔵諸版の画像を比較して異同箇所を機械的に自動判別するシステムを試作し、IIIF・TEIを活用して縮刷蔵経・頻伽蔵経と比較できるようにし、そのうえで西蓮社本との異同を調べることで、大正蔵が西蓮社本に直接依拠したのか、それとも縮刷蔵経や頻伽蔵経を使ったのか解明するべく、研究協力者の中村覚氏（東京大学史料編纂所助教）とシステム構築の検討を進めた。なお西蓮社本の画像は当初圧縮したものをIIIF化してデータベースに登録していたが、圧縮前の高精細画像に差し替え、2021年7月に一般公開した。

これらの方針変更で生じた作業が、2021年度においても十分に進展させることができなかった。幸い2021年度に基盤研究（A）「漢文大蔵経の文献学的研究基盤の構築：『大正新脩大蔵経』底本・校本DBの活用と拡充」（21H04345）が新たに採択されたので、本研究は基盤研究（A）に継承して、引き続き大正蔵と西蓮社本のテキスト比較に取り組んでいく。

②「三上次男考古・美術資料の研究とデータベースの作成」

[研究代表者：金沢 陽]（2018年度採用、4ヶ年間・最終年度）

故三上次男博士が、戦前戦後を通じてユーラシア大陸各地の踏査によって遺したフィールドノート（出光美術館蔵）を解析し、同氏の収集遺物（出光美術館および青山学院大学蔵）、および膨大な写真・図面・拓本等（出光美術館蔵）と、このフィールドノートの記載とを結びつけ、考古・美術史資料目録を作成する。そして東北アジア史・東西交渉史の貴重な資料としてデータベースを整備し、後進の研究者の利用に供することを目的とする。これは、同様の先駆的な成果としての東洋文庫『梅原考古資料目録』を意識し、最終的には研究者の閲覧可能な状況に仕上げることを目標とする。

[研究実施概要]

新型コロナウイルス感染症流行のため、対象資料管理者（青山学院大学・出光美術館）の決定により、調査活動を行うことができなかったため、実績は無い。

③「西洋における知識革命の物質的基盤の解明—16～18世紀の西洋古典籍の紙分析から」

[研究代表者：徐 小潔]（2019年度採用、3ヶ年間・最終年度）

本研究は、ヨーロッパ各地域の16～18世紀の古典籍を調査・分析対象とし、各地域で使用されていた印刷用紙を非破壊的な調査方法を用いて、紙の原材料を解明する。その地域間の差異を検証するうえで、中国を主とする同時代のアジアの紙との比較を行い、当時のヨーロッパで流通していた紙の生産地を明らかにする。同時に、東西貿易に関する史料をオランダやロンドンで収集し、紙質分析の結果とあわせて「紙」の流通ルートを検討する。上記の結果を整理することによって、出版文化が急速に発達した16世紀から、ヨーロッパにおける知識革命に「紙」という物質的基盤を提供した東西交流史の一端を究明する。

[研究実施概要]

2021年度はヨーロッパ、中国、日本の書物や絵画に使われていた紙を対象としてそれぞれ非破壊調査を行い、その結果を分析した。

ヨーロッパの紙に関しては、東洋文庫所蔵の1500年以前に金属活字で印刷された書物——インクナブラ書籍やリーフを調査した。分析した結果、16～17世紀のヨーロッパの印刷用紙にみられる「青い繊維」が少量ではあるが、インクナブラの紙に使われていたことを新たに発見した。このことを、2020年度の調査結果と合わせ国際シンポジウムで報告した。

和紙に関しては、主に浮世絵に使われた紙を調査した。細密な浮世絵に適した紙は主に楮と三桠を原料とし、さらに米澱粉を混ぜたものであることが判明した。この調査結果は国際シンポジウムおよび国内の学会において発表した。

同時代の中国の紙については、16世紀に作られた『永楽大典』の紙質について非破壊的手法での調査を試み、本文の紙と巻末に付していたメモの紙を分析した。それにより、竹を混合した中国楮紙であること、メモの紙と本文

の紙の紙質が異なっていることを明らかにした。『永楽大典』は世界各地に散逸している貴重な書物であり、本格的な紙質調査を行ったのは初めてのことである。

④ “From Transculturation to Culture-Specific Ethics: The Implementation of Confucian Ritual Forms in 19th Century Japan”

[研究代表者：R. チャード]（2019年度採用、4ヶ年間・第3年度）

This project will examine the function of Confucian ritual forms in Japan in the late Edo period from cultural history and material culture perspectives. The focus of the research will be on documentary sources relating to domain schools, to explain why these ritual forms continued when Confucian learning declined as new forms of learning and education grew.

[研究実施概要]

The focus of this research is the deployment of Confucian symbols in the education system of early modern Japan. After the Bakufu took direct control of the Shoheizaka Gakumonjo school at the Yushima Seido temple in the late Edo period, domain schools continued the material culture of the temple-school complex, such as the Sekiten and other related rites, but at the same time these visible forms underwent change as Bakufu demands on education and new contact with the outside world created pressure to change educational goals. The aim of the current research project is to examine characteristics of the changing role of education in the early modern period through research on the visible cultural displays such as temples and rituals.

In the third year of this research project, the emphasis has remained on collection and analysis of primary source materials from domain schools that shed light on the Confucius temples, Sekiten rituals, and their role in the education system. Questions to be addressed include the motivations for maintaining the visible trappings of the temple-school structure, the educational aims of the schools, ideas on how human talent should be developed, and the social backgrounds of those studying at the schools. A central question to be addressed is why so much effort went into maintaining the various visible trappings of the school-temple system under the varied circumstances in different schools. The current research makes a contribution not only in the fields of educational history and East Asian history but also to world cultural

history more widely.

⑤「出土史料よりみた、中国古代における死生観・冥界観とその思想的・宗教的背景の研究」

[研究代表者：関尾 史郎] (2021年度採用、3ヶ年間・初年度)

3世紀から5世紀にかけて、中国では、有力なイデオロギーであった儒教、紀元前後に西方から伝来した仏教、そしてその影響を受けて古来の土俗的な信仰が体系化された道教の三教が対立しつつ融合していく時代であった。特に現在の甘粛省や新疆ウイグル自治区など西北地方には、仏教やゾロアスター教などを中国に伝えた西方系の諸種族や、この地域が中国世界に編入される以前から遊牧に従事していた先住系の諸種族なども居住していたため、死生観や冥界観は多様だったことが予測される。本研究は、墓から出土した各種の史料を駆使することにより、多様な死生観や冥界観と、その思想的・宗教的な背景を明らかにすることを目的としている。

[研究実施概要]

本研究で分析の対象とする遺物と文書のうち、情報や成果が続出している魏晉・(五胡十六国)時代の鎮墓瓶と磚画・壁画に関して、最新情報を収集して整理し、その結果を内外に公表することを第一の作業とした(いずれも2021年度発表済み)。またそのうちで注目すべき鎮墓瓶としては、初めて発見された魏の敦煌型鎮墓瓶があるが、その銘文が後漢と西晋の過渡的なものであることを明らかにし、その考察結果も公表した(2022年度公表)。また磚画・壁画については、性差や種族差による社会的分業の内容について図像から分析し、これらが出土した河西地域における社会状況の一端を明らかにし、その考察結果を公表した(2022年度公表)。以上は遺物だが、文書である墓券については、後漢時代から三国時代の事例を収集して整理し、その時代的な変遷と、華北(黄河流域)と華中(長江流域、主として江南)による地域差について考察した。地質や地形の関係で、華中では耕地に隣接する場所を墓域に選定できず、丘陵地に墓域が集中する傾向があるが、それがために土地の売主はおらず、土地の売買契約は架空のもので、やがて5世紀になると、それを継承するかのようにして、道教信仰を象徴するような墓券が出現することを推定し、その結果を公表した。また華中の墓から出土した文字磚や銘銘についても考察した。文字磚は2世紀後半のもので、その史料的な価値をはじ

め、作製に関与した人士やその真情の一端の解明を試みた。また河西・トルファン両地域の2世紀から5世紀にかけての墓から出土した柩銘については、史料紹介としてまとめ、その様式のおおよその変遷過程をあとづけた(いずれも2022年度発表)。

(5) 若手研究

「日本近代を通じた「禅」概念の変遷に関する研究」

[研究代表者：蓮沼 直應] (2021年度採用、3ヶ年間・初年度)

これまで日本において、「禅」という概念は禅宗の教えとしてある程度自明なものとして理解されてきた。しかし明治期以降、禅僧たちへ参禅した居士たちが、哲学者や宗教学者として活動することで、それまで宗門内で語られていた「禅」概念に、哲学的文脈・宗教学的文脈における特殊な意味を付加していった。その結果、「禅」概念は日本から世界へと広まっていき、現代における「禅」概念は多層性を有することとなった。

[研究実施概要]

近代日本における「禅」概念を追う本研究において、当該年度は明治期の居士禅の成立について研究した。明治初年の神仏分離令と、それに伴って起こった廃仏毀釈は、日本仏教界に大きな問題意識を与えた。明治初頭に、仏教の復興を担ったのは、宗門の僧侶であると同時に彼らに学んだ居士たちであった。臨済宗の山岡鉄舟、鳥尾得庵、曹洞宗の大内青巒は、宗門の外で新たな組織を設立させ、新たな言論発表の場として雑誌の発行を行った。

特に山岡鉄舟は、幕末期にみずから書と剣の道を修めようとし、そのための精神性として「禅」に頼った。彼の影響で剣術家、医者など多くの在家者が参禅に招かれたが、それは、禅はすべての道に通じる、という鉄舟の禅理解に起因していた。彼において、「禅」は世俗の生業を道として完成させる精神性を養うための方法であった。

鳥尾得庵もまた臨済系の居士であるが、彼はまた別の方向で「禅」を必要とした。彼は急速に西洋化していく当時の日本社会において、日本の伝統的価値観を守ろうとする保守思想の持ち主であった。彼は必ずしも宗教性の次元ではなく、世俗道徳の次元を基礎づける修養法として「禅」を捉えていた。

彼らが活動するために彼らの師・今北洪川の存在は欠かせなかった。今北

洪川はもともと儒学者であり、彼の『禅海一瀾』は禅と儒学の一致を論じるものであった。そのため、幕末期の陽明学者・奥宮慥斎をはじめ、儒学の教養をもつ学者たちは、その具体的実践の道を探る際の指導者として今北洪川を選んだ。その今北は初代円覚寺派管長となったため、円覚寺は明治のもっとも早い段階で居士禅の道場として、儒学者はじめ教養層の修養の場として開かれることとなった。

このように近代において「禅」が禅外部と積極的に接続していくことは、それが独自の概念として発展していく基盤となったのであり、以後の禅の歴史にとって見逃すことのできない展開であることがわかった。

(6) 特別研究員奨励費

「18-19世紀漢語・欧米諸語資料とスルー海域の現地語資料の比較」

[研究代表者：三王 昌代] (2021年度採用、3ヶ年間・初年度)

欧米諸語や漢語で記された資料とアラビア文字で表記された東南アジア諸言語資料とを比較すると、それぞれに認識の差異が見られることが研究代表者のこれまでの研究で判ってきている。さまざまな言語資料を比較関係に置きながら扱い、文化圏が異なる人びとがどのように意思疎通し、相手をどのように見ていたのかなど、海域アジア諸地域の相互交渉を明らかにする。

[研究実施概要]

本研究では、欧米諸語や漢語で記された資料とアラビア文字で表記された東南アジア諸言語資料を比較することで、海域アジア諸地域の相互交渉を明らかにしようとしている。漢語圏とその他の言語圏のあいだの文書の翻訳を行うために中国で作成された『華夷譯語』と呼ばれる対訳語彙集もその対象の一つであり、2021年度には、東京大学駒場図書館を通じて、フィリピン諸島や中国大陸南部の言葉の辞書類および関連資料を国内外の図書館・研究機関から取り寄せた。しかし、著作権上の問題などから資料には複写制限があるため、また実際には簡単には取り寄せられない東南アジア諸語で記された資料などがあるため、蒐集できなかったものもある。ゆえに一時は現地へ赴くことも考えていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりの影響を受け、それは叶わなかった。現在は手許にある資料を駆使して分析をすすめている。また、これまでの研究において18世紀の漢語資料と1784年付けの

マレー語をアラビア文字で表記した文書（＝ジャウィ文書）とを比較していたが、同文書の形式や文言の特徴などを加筆し、その研究成果をまとめた。

(7) 特別研究員奨励費（外国人特別研究員）

〔近代アジアの政治形勢における日本とチベットとの関係〕

〔研究代表者：吉水千鶴子、研究分担者：GAZANGJIE〕

（2021年度採用、2ヶ年間・初年度）

本研究は、日本語、チベット語、そして中国語の多言語資料を用いて、近代アジア政治形勢における日本とチベットの関係を俯瞰的に考察することを目的とし、近代日本とチベットとの関係が日本におけるチベット学の起こりと発展に与えた影響についても考察や調査を行う。先行研究の不足を補充するため、日本と中国、台湾、インドのダラムサラで資料収集し、当時のチベット側はどのような目的で日本と接触したのか、日本はそれをどのように受け入れたのか、という問題について特にチベット人留学生の派遣と受け入れを焦点に考察する。また、清王朝が日本とチベット側が頻繁に接触することについてどのように考えていたか、という問題も考察する。

〔研究実施概要〕

新型コロナウイルス感染症拡大のため、出張しての日本とチベット関係に関する資料収集ができなかったため、日本のチベット研究について、『東洋文庫年報』、『東洋文庫書報』などの資料に基づいて、調査を行った。日本のチベット研究者中根千枝氏が、中国人研究者との交流によりチベットでの現地調査を行ったこと、東洋文庫がチベット研究の1つの拠点として、その発展に寄与したことを調べ、その歴史について3本の論文にまとめた。

- 1) 「中根千枝の学術思想と中日文化交流における貢献」（中国語）を『青海民族大学学报』に投稿中。本論文では、中根千枝が中国の費孝通と30年以上の学術友情を結んで、その協力によりチベット現地調査を実現し、チベットの社会構造や政教合一制の発展過程などについて研究を進めたことを論じた。
- 2) 「戦後日本におけるチベット研究の発展：東洋文庫の事例から」（中国語）を中国四川大学『藏学学刊』に投稿中。本論文では、東洋文庫が1961年から3人のチベット人研究者を招き、日本人研究者と共同でチベットの

言語や宗教、歴史、民俗などを研究してきた歴史を概観し、その意義を論じた。

- 3) 「日本におけるチベット研究発展史」(チベット語)を『中国蔵学』に投稿中。本論文では、日本のチベット研究史を3段階に分け、1901年河口慧海が日本人として初めてチベットへ入った年に始まる初期、1961年東洋文庫によるチベット人研究者招聘から2001年までを発展期、それ以降現在までを、現地調査による文化人類学や社会学を加えた新たな拡張期とし、各時期の特徴を論じた。

D. 三菱財団研究助成による調査研究

(1) 人文科学研究助成

「モリソン・コレクションの学際的・総合的研究：近代東アジア史と「アジア文庫」形成の資料的分析」

[研究代表者：斯波 義信] (2019年10月採用、1ヶ年間)

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により3年間期間延長

本研究は東洋文庫現有のモリソン文庫の資料学的・歴史学的な研究を通じて、モリソンのコレクション全体にわたるいっそう精緻な分析と周到な整理を目指すものである。モリソン文庫は24,000件余りに及ぶ、20世紀初頭の世界随一の欧文書コレクションで、そのうちモリソン自ら蒐集した6,000点余りのパンフレットは、二度と入手できない貴重なものである。本研究は従来行ってきたパンフレット・コレクションの研究を継承しつつ、時事性の高いパンフレットとそれ以外の古書コレクションとの関連性に着目し、詳しく明らかにすることで、モリソンのコレクション全体の形成過程とそれを成り立たせた歴史過程を解明する。ひいては、モリソンと同時代の東アジアをめぐる知の体系や人々の事実認識のありようばかりでなく、現代における史実の再発見・再構成の方法をも見なおし、現代の日本に東洋文庫が存在することの、世界史上の意義をも明らかにしていきたい。

[研究実施概要]

本研究課題は研究活動を遂行中のため、研究期間終了後の『東洋文庫年報』において掲載する。

(2) 人文科学研究助成「社会的課題解決のための大型連携研究助成」

「20世紀後半の東アジアにおける風土病の制圧過程の検証と疫学的資料の整理・保存・公開」

[研究代表者：飯島 渉] (2019年10月採用、3ヶ年間・2年目)

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年間期間延長

20世紀の日本社会は、日本住血吸虫症、リンパ系フィラリア症、マラリアなどの感染症や回虫などを原因とする寄生虫症を制圧した。こうした感染症や寄生虫症（風土病ないしは地方病と呼ばれていた）の制圧の経緯は一様ではなかったが、対策のための調査研究に基づく学知や経験の蓄積の上に、流行地域の住民が積極的に対策に参加し、それを学校保健などの制度や組織が支えたことが大きな特徴であった。また、こうした経験は、1960年代から1970年代に、台湾・韓国や中国に導入され、各地で風土病が制圧された。

本研究計画は、人文学（医療社会史）の研究者と医療・公衆衛生の研究者が共同して、風土病の制圧過程の検証と関連する資料の収集・整理・保全・公開を進め、領域横断的な研究基盤を構築することを目標とする。こうした研究基盤の確立を通じて、今日の医療協力や国際保健に対して効果的な活動を進めるための提言を行うことも可能となる。

[研究実施概要]

本研究課題は研究活動を遂行中のため、研究期間終了後の『東洋文庫年報』において掲載する。

E. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原 佳之	中国明清時代環境史
青木 敦	宋代の法と経済
青山 亨	古代ジャワ史・ジャワ文学研究
青山 治世	清代一近現代の中国外交史
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会および制度

研究員名	研究課題
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
阿部 尚史	イランにおけるムスリム家族史
天児 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 明子	東南アジア大陸部北部の歴史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 涉	医療社会史
家永 真幸	東アジア国際関係、台湾政治
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石川 重雄	中国巡礼社会史の研究
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
伊藤 博	現代中国の金融保険業および現代日中経済交流史
井上 和枝	朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上 和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
林 載桓	中国政治、比較政治学
岩尾 一史	古代チベット史
上田 望	中国長編小説
上野 英二	平安朝文学の研究
内山 雅生	近代中国華北農村経済史
梅村 坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
宇山 智彦	中央アジア近代史・現代政治
江川ひかり	オスマン帝国社会経済史
衛藤 安奈	戦間期の国民党を中心とするファシズムが近代中国において有していた政治史的意味の再検討
江南 和幸	文化財科学、里山学

研究員名	研究課題
遠藤 光暁	中国語音韻史・方言学
大川 謙作	現代中国およびチベット民族の歴史と社会
大川 裕子	中国農業史・水利史
大河原知樹	19-20世紀シリアの社会史・政治史
大里 浩秋	清代末期の革命思想、日中関係史
大澤 顯浩	中国出版文化史、中国近世の地理書、中国地図学史
大澤 肇	近現代中国における学校教育史
大澤 正昭	中国近世社会史
太田 啓子	アラビア半島・紅海文化圏の歴史
太田 信宏	南インド近世史
太田 幸男	秦墓竹簡の研究
大谷 俊太	室町・江戸時代文学の研究
岡崎 礼奈	日本近代美術史
尾形 洋一	近現代中国政治外交史
岡野 誠	中国法史、敦煌・吐魯番文献
岡本 隆司	近現代中国外交史
小川 快之	中国宋代から清代の社会史・文化史・法制史
奥村 哲	中国近現代史
奥山 憲夫	明代制度史研究
尾崎 文昭	20-21世紀中国の文学
小澤 一郎	近現代西アジア軍事社会史
小田 壽典	古トルコ語仏教文献の研究
小名 康之	インド近世、ムガル政治史
小沼 孝博	内陸アジア史、17-20世紀の新疆研究
小野寺史郎	中国近現代史
加島 潤	中国近現代経済史、社会主義体制
粕谷 元	トルコ近現代史
糟谷 憲一	18-19世紀朝鮮政治史
片桐 一男	日蘭文化交渉史の研究
片倉 鎮郎	西インド洋近代史
片山 章雄	中央アジア古代史、近代探検史
片山 剛	珠江デルタ農村社会史、近代中国土地調査事業史
加藤 直人	清朝の民族統治政策・清代檔案史料の研究

研究員名	研究課題
金沢 陽	中国陶磁史研究
金子 修一	中国古代史
金丸 裕一	中国政治経済史・日中関係史
亀谷 学	初期イスラーム史
川井 伸一	中国企業研究
川合 安	六朝貴族制の研究
川崎 信定	チベット仏教の研究
川島 真	近代中国外交史
神田 豊隆	日本外交史、アジア国際関係史
菅頭明日香	考古遺物の化学的分析
魏 郁欣	中国明清時代社会史
木越 義則	貿易史、海運史
貴志 俊彦	東アジア地域の比較メディア史研究
岸本 美緒	明清時代地方社会史
北川 香子	カンボジア史
北本 朝展	デジタル・アーカイブ
橘堂 晃一	ウイグル仏教史の研究
金 鳳珍	東アジア国際関係史、比較思想
楠木 賢道	清代東北地域史、清代政治史
工藤 裕子	インドネシア社会経済史、華人史
久保 亨	中国近現代史
窪添 慶文	魏晋南北朝時代史
久保田 淳	日本古典文学、和歌文学史
熊本 裕	イラン語史の研究
栗山 保之	インド洋世界の交流史
L. グローブ	1930年代の社会調査から見たある華北の県政府の活動
黒田 卓	近現代イラン史
氣賀澤保規	隋唐政治社会文化史
巖 善平	中国経済、三農問題、人口と労働
古泉 達矢	中国近現代史、イギリス帝国史
高野 太輔	初期イスラーム史
河野 正	現代中国農村社会史
小嶋 茂稔	中国古代史

研究員名

小嶋 芳孝
小杉 泰
小寺 敦
小長谷有紀

小浜 正子
小松 久男
小南 一郎
近藤 信彰
齋藤真麻理
早乙女雅博
櫻井 徹
佐々木 紳
佐藤健太郎
佐藤 慎一
佐藤 宏
佐藤 仁史
澤江 史子
塩沢 裕仁
塩谷 哲史
設楽 國廣
部 勇造
篠木 由喜
篠崎 陽子
斯波 義信
嶋尾 稔
島田 竜登
清水 宏祐
清水 信子
清水 信行
志茂 碩敏
徐 顕芬
徐 小潔

研究課題

渤海文化の考古学的研究
現代イスラーム政治思想、現代イスラーム法学
中国古代史
モンゴルおよび中央アジアに関する探検記録写真を用いた地域像の再構築
東アジアジェンダー史、中国近現代社会史
中央アジア近代史
中国芸能史研究
イラン史・ペルシア語文化圏史
中世日本文学の研究
東アジア考古学の研究
在留外国人コミュニケーション誌の現況について
オスマン帝国近代史
マグリブ・アンダルス史
中国近代政治資料研究
農村経済社会の長期変動
近現代江南農村社会史研究
現代トルコ政治
中国古代歴史地理研究
中央アジア近現代史
オスマン帝国末期政治史
南アラビア古代史
博物館展示・教育論
前近代中国文化史
中国社会経済史
ベトナム史
東南アジア経済史、海域アジア史
セルジューク朝時代イランの研究
和漢書誌学、日本漢学史、日本医学史
古代の日本・大陸交流史
13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
東アジア国際関係、国際援助論、中国外交
近代日中関係史、総合資料学、紙質分析

研究員名	研究課題
邵 迎建	中国近現代文学
城山 智子	近代中国社会経済史
新免 康	中央アジア史
末成 道男	東アジア社会人類学
須川 英徳	高麗・朝鮮時代の商業
杉本 史子	近世・近代移行期日本政治史
杉山 清彦	大清帝国史
鈴木 恵美	近現代エジプト政治史
鈴木 董	オスマン帝国史、比較史・比較文化
鈴木 均	イラン近現代史
鈴木 博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木 立子	元朝社会経済史
砂山 幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾 達彦	中国古代・中世都市史
関 智英	中国人対日協力者の戦後一大陸残存者把握にむけての基礎的研究
関尾 史郎	敦煌・トルファン文書研究
曾田 三郎	中国近代政治・社会史
高久 健二	東アジア、楽浪期を中心とした中国・朝鮮半島の研究
高田 時雄	中国語史の研究
高田 幸男	長江下流域の地域社会・エリート・教育団体、近代東アジア教育文化交流史
高遠 拓児	清代における刑罰制度の研究
高橋 公明	東アジア海域史、東アジア国際関係史
高橋 英海	西洋古典学
高松 洋一	オスマン朝史、古文書学、アーカイブズ学
高村 武幸	中国秦漢社会史・行政制度史
高山 博	中世地中海における異文化交流
瀧下 彩子	近現代中国社会文化史
武内 房司	中国近代宗教社会史、近代中国・ベトナム関係史
竹越 孝	中国語文法史
田島 俊雄	東アジアの経済発展
多田 狷介	漢魏晋史

研究員名	研究課題
多々良圭介	18世紀清代中国における名医の社会的条件—藤井文庫を中心に
立川 武蔵	チベット密教教理の研究
田仲 一成	中国演劇史
田中 時彦	日本の政治的近代化の研究
田中 仁	中国政治史、20世紀中国政治
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルス	清代西南中国の歴史
地田 徹朗	ソ連史、中央アジア地域研究
R. チャード	東アジア文化史
P. ツィーメ	古ウイグル文献学
塚原 東吾	科学史・科学哲学、STS
辻本 裕成	中古・中世日本文学の研究
土田 哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井 祐司	マレーシア近代史
鶴間 和幸	秦漢史
鶴見 尚弘	明・清時代社会経済史
寺田 浩明	中国明清法制史
唐 成	現代中国金融の研究
唐 亮	現代中国政治史の研究
徳永 洋介	中国近世史
戸倉 英美	中国古典文学資料研究
土肥 祐子	宋代海外貿易史
富澤 芳亜	中国近代経済史
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究
永田 雄三	オスマン帝国史
中谷 英明	インド仏教学
中塚 亮	中国古典長編小説、古典演劇
長縄 宣博	ロシア・ムスリムの近現代史
中見 立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
中村 威也	中国古代地域社会／非漢族研究、中国史科学、コディコロジー
中村 元哉	中国近現代政治史・思想史

研究員名

新村 容子
 西 英昭
 西尾 寛治
 野田 仁
 延廣 眞治
 萩田 博
 蓮沼 直應
 馬場 英子
 濱下 武志
 濱島 敦俊
 濱本 眞実
 林 佳世子
 林 俊雄
 速水 大
 原山 隆広
 平川 幸子
 平勢 隆郎
 平野健一郎
 弘末 雅士
 廣瀬 紳一
 深沢 眞二
 藤井 昇三
 藤井 省三
 藤田 忠
 藤本 幸夫
 古田 和子
 古屋 昭弘
 弁納 才一
 星 泉
 堀井 聡江
 堀内 賢志
 堀川 徹
 本庄比佐子

研究課題

近代中国におけるアヘン問題
 中国・台湾の近現代法制史
 マレーシア・インドネシア近世史
 中央アジア史研究
 江戸・明治の文芸
 ウルドゥー語学・文学の研究
 日本近代の禅思想
 中国の説唱文学（語り物）
 中国近現代史
 中国近世社会経済史
 ロシア・ムスリム史
 オスマン朝期中東社会史
 中央ユーラシア史・草原考古学の研究
 中国隋唐史
 アッバース朝末期政治史
 東アジア国際関係史、中国・台湾外交史
 中国考古資料研究
 近代東アジア国際関係論
 インドネシア宗教社会史
 漢字文化圏電子情報学の研究
 連歌・俳諧の研究
 近代中国政治外交史、日中関係史
 中国近現代文学
 中国古代政治・社会史
 朝鮮本研究
 東アジア経済史
 中国語史
 近現代中国農村経済史
 チベット言語学
 イスラーム法・法制史
 北東アジアの国際関係、ロシア政治
 中央アジア文書研究
 近現代日中関係史

研究員名	研究課題
牧野 元紀	ベトナムのキリスト教
町田 隆吉	吐魯番及び河西出土文書の研究
松井 太	中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の歴史学的研究
松重 充浩	近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史
松永 泰行	現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
松丸 道雄	殷周金文の研究
松村 史穂	中華人民共和国の経済史
松村 史紀	国際関係論、東アジア国際政治史、中国政治外交史
丸川 知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦 徹	イスラム都市社会史
水野 善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三田 昌彦	北インド中世史
三谷 博	明治維新と諸革命の比較研究
峰 毅	中国工業化の歴史
御牧 克己	チベット宗義書の研究
宮 紀子	モンゴル、ポスト・モンゴル時代の『知』の伝播と継承
宮崎 修多	近世近代漢詩文の研究
宮崎 展昌	大乘仏教、大乘經典の研究、漢訳およびチベット語訳大藏經研究
宮脇 淳子	モンゴル史
村井 章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村上 衛	近代中国社会経済史
村田雄二郎	中国近代史、中国地域研究
毛里 和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野 英一	清末民初中国の対日英米経済関係
糴山 明	中国古代法制史・辺境論・資料論
守川 知子	イラン・イスラーム史
森川 裕二	現代東アジアの経済ネットワーク
森平 雅彦	朝鮮中世・近世史
森安 孝夫	中央ユーラシア古代中世史、古代ウイグル文書の研究
矢島 洋一	中央アジア史
柳澤 明	清代外交史・民族関係史

研究員名	研究課題
柳田 征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究
矢吹 晋	近現代中国経済
山内 弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内 民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口 元樹	インドネシア・イスラーム史
山村 義照	日本近現代史
山本 英史	17～19世紀中国社会構造の研究
山本 真	中国・台湾近現代農村社会史
山本 毅雄	デジタル人文学、デジタル・アーカイブ
湯浅 剛	中央アジア政治史
吉澤誠一郎	中国近代史
吉田建一郎	近現代中国経済史
吉田 伸之	日本近世都市社会史
吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水 清孝	古代から中世初期にかけてのインド思想史
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
吉村 武典	中世アラブ・イスラーム史、前近代エジプト社会
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全286名)

2. 資料研究成果発信

アジア基礎資料研究による一次資料の解析と研究の成果は、和文および欧文の紀要・雑誌・叢書・電子ジャーナルとして継続的に刊行を行い、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」に登録して順次オンライン公開を進めた。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなる。

A. 定期出版物刊行

1. 『東洋文庫和文紀要』（『東洋学報』）	第103巻 第1-4号	A 5 判 4 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1362		
2. 『東洋文庫欧文紀要』 (<i>Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko</i>)	No. 79	B 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1373		
3. 『近代中国研究彙報』	第44号	A 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1374		
4. 『東洋文庫書報』	第53号	A 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1375		
5. <i>Modern Asian Studies Review</i> ／新たなアジア研究に向けて	Vol. 13	オンラインジャーナル （公開）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1371		
6. <i>Asian Research Trends New Series</i>	No. 16	A 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1376		

B. 論叢等出版 ※詳細は pp. 66-67 を参照

1. 『集体化時代の中国：日中共同研究（東洋文庫論 叢第84）』	A 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1369	
2. 『清朝の史跡をめぐって II：アムール流域篇』	A 4 判 1 冊（刊行済）
▶ http://doi.org/10.24739/00007577	
3. 『岩崎文庫貴重書誌解題 X』	B 5 判 1 冊（刊行済）
▶ https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1378	
4. 『清朝『壇廟祭祀節次』訳注（一）：凡諸祭祀・ 祈穀壇』	B 5 判 1 冊（刊行済）
▶ http://doi.org/10.24739/00007607	

※▶は、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」の掲載アドレス。

C. 資料研究成果のオンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次資料研究成果のオンライン公開を行った。

▶ <http://www.toyo-bunko.or.jp/research/results.html>

3. 研究情報普及

A. 講演会

(1) 東洋学講座

近年の研究成果を一般に向けて広く普及するため、2021年9月～11月に東南アジア研究班、2022年1月～2月に日本研究班による東洋学講座をオンラインにて実施した。

東南アジア研究班 共通テーマ「近世東南アジアの対外交流」

第1回（通算第578回）

日 時：2021年9月8日（水） 18時～20時

題 目：「17世紀クメール語書簡の分析」

講演者：北川 香子氏（東洋文庫研究員・学習院女子大学教授）

第2回（通算第579回）

日 時：2021年10月14日（木） 18時～20時

題 目：「近世東南アジアの社会統合と現地人女性」

講演者：弘末 雅士氏（東洋文庫研究員・立教大学名誉教授）

第3回（通算第580回）

日 時：2021年11月11日（木） 18時～20時

題 目：「ベトナム科举制度雑考」

講演者：嶋尾 稔氏（東洋文庫研究員・慶應義塾大学教授）

日本研究班 共通テーマ「東洋文庫蔵日本古典の絵入り本」

第1回（通算第581回）

日時：2022年1月13日（木）18時～20時

題目：「奈良絵本の楽しみ：浦島・天神・万寿姫」

講演者：齋藤 真麻理氏（東洋文庫研究員・国文学研究資料館教授）

第2回（通算第582回）

日時：2022年2月3日（木）18時～20時

題目：「絵で読む能：東洋文庫蔵「観世流絵入謡本」熟覧」

講演者：大谷 節子氏（成城大学教授）

(2) 公開講座・公開研究会

東洋文庫の所蔵資料や研究活動・研究成果をテーマとして、国内外の当該分野の著名研究者を招いて公開講座・公開研究会を実施した（以下、開催日順で記載）。

（現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第1回研究会）

2021年4月17日（土）

東洋文庫現代中国研究班・国立国会図書館関西館合同企画「新たな現代中国研究の推進：国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって」
「開会のあいさつ」

国立国会図書館関西館アジア情報課 前田 直俊 氏

「東洋文庫「現代中国研究班」の研究活動」

東洋文庫研究員

同志社大学

村田雄二郎 氏

「国立国会図書館関西館所蔵中国語資料と上海新華書店旧蔵書コレクション」

国立国会図書館関西館アジア情報課アジア第二係

丹治 美玲 氏

「上海新華書店旧蔵書コレクションの利用：中国教育史研究を例にして」

東洋文庫研究員

中部大学

大澤 肇 氏

「1950年代中国の資本主義市場向け輸出の数量的再検討：香港の再輸出を中心に」

東京大学博士後期課程 上西 啓 氏

(現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第2回研究会)

2021年5月29日(土)

「近現代中国・台湾をめぐる政治思想史研究の現在」

「陳啓修と中国マルクス主義政治学の構築」

中山大学 孫 宏雲 氏

「中国の自由主義と台湾政治の発展：戦後台湾政治思想研究の一側面」

政治大学 薛 化元 氏

「日本における中国近現代政治思想史研究の問題意識とその展開」

学習院大学 小野 泰教 氏

(現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第3回研究会)

2021年9月10日(金)

「冷戦下における日本と中華圏の人物交流史」

「東洋文庫「日本人中国旅行記」から読み解く戦後日中・日台関係史」

特徴1：政治団体

東洋文庫研究員
東京大学 中村 元哉 氏

特徴2：「満洲国」・汪精衛政権

津田塾大学 山口 早苗 氏

特徴3：婦人団体

成蹊大学 久保茉莉子 氏

コメント

ジョージ・ワシントン大学 楊 大慶 氏
中央研究院近代史研究所 潘 光哲 氏

「冷戦期における日台間の文化交流と人的ネットワーク：出版物の輸出入の観点から」

政治大学台湾史研究所 林 果顯 氏

「中国専門記者太田宇之助の戦後：戦後の活動とその遺志としての東京都太田記念館」

日本学術振興会特別研究員(PD) 島田 大輔 氏

「道徳再建運動における人的ネットワークと思想交流：東京・台北・香港」

香港城市大学 陳 学然 氏

「人的往来からみる1950～60年代の日中民間交流」

杏林大学 池田 尚広 氏

総合コメント

中央研究院近代史研究所 黄 克武 氏

(近代中国研究班シンポジウム)

2021年11月28日 (日)

「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって」

※『戦前日本の華中・華南調査』(2021年3月刊)に対する塩出浩和氏(城西国際大学)・平井健介氏(甲南大学)によるコメントと、執筆者11名(東洋文庫研究員)からの応答

(現代中国研究班「国際関係・文化グループ」・華東師範大学社会主義歴史と文献研究院中国当代史研究中心主催、東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点等共催によるワークショップ)

2021年12月4日 (土)

「第10回「中国当代史研究」ワークショップ」

※日本側5名、中国側5名の報告とそれに対するコメントと、楊奎松氏(華東師範大学)・石川禎浩氏(京都大学人文科学研究所)による総括コメント

(現代中国研究班・中国研究所共催シンポジウム)

2021年12月18日 (土)

「最新研究でみる辛亥革命への多角的視座：辛亥革命110年シンポジウム」

「清末政治の歴史的展開から見た辛亥革命」

(台湾) 慈濟大学 八百谷晃義 氏

「清末立憲改革期の国家財政と皇室経費」

岡山大学 佐藤 淳平 氏

「辛亥革命と日本の外交：「国際協調」をめぐって」

国士舘大学 久保田裕次 氏

「辛亥革命後の「清室優待条件体制」と清室、旗人社会：ラストエンペラー溥儀のいた紫禁城と北京」

二松学舎大学

阿部由美子 氏

「愛国・信仰・面子：清末民初華北ムスリム社会における辮髪切除をめぐる議論と実践」

早稲田大学

海野 典子 氏

コメント

東洋文庫研究員

同志社大学

村田雄二郎 氏

麗澤大学

櫻井 良樹 氏

(現代中国研究班「政治・外交グループ」・早稲田大学現代研究所共催研究会)

2021年12月18日 (土)

「中国对外政策の形成過程」

北京大学

牛 軍 氏

(現代中国研究班「国際関係・文化グループ」研究会)

2022年3月11日 (金)

「国民革命期の国家と社会：中間団体の性質からの再考」

東洋文庫奨励研究員

慶應義塾大学

衛藤 安奈 氏

衛藤報告へのコメント

広島大学

水羽 信男 氏

「アジア冷戦と社会民主主義：1950年代の日本社会党、社会主義インターナショナル、アジア社会党会議」

東洋文庫研究員

新潟大学

神田 豊隆 氏

神田報告へのコメント

東洋文庫研究員

東京女子大学

家永 真幸 氏

総括コメント

東洋文庫研究員

早稲田大学

青山 瑠妙 氏

東洋文庫研究員
同志社大学

村田雄二郎 氏

(3) 特別講演会

東洋文庫研究員、研究班の主催によって、主として来日中の著名な外国人研究者を招いて特別講演会を実施した。

2022年1月12日(水)

「日本仁丹和味之素在中国市場的競争和本地化(1920-30年代)」
〔中国語普通話による講演、日本語による質疑応答〕

立命館大学客員教授
香港大学名誉教授

李 培德 氏

(4) 東洋文庫談話会(東洋文庫研究会)

専門分野の若手研究者による成果報告の場として、その発表者の対象範囲を東洋文庫外部の若手研究者にまで拡大した研究発表会の創設について検討した。

(5) ミュージアムによる公開講座・イベント

東洋学の一般への普及を目的に、企画展に合わせた公開講座・イベントを実施しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度は開催を見合わせた。

(6) 各種研究会・講演会開催

各種研究会・講演会の開催状況は、下表のとおりである。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により出張を伴う調査・研究会等の多くが中止となったが、緊急事態宣言が解除された10月以降、出張を伴う研究会も開催が増加している。2020年度に導入したZoomミーティング等のオンライン会議システムを活用し、オンライン形式で研究会等を開催した。

年 月	総回数	総人数	対面		併用			オンラインのみ	
			回数	人数	回数	人数		回数	人数
						対面	オンライン		
2021年 4月	12	81	7	39	2	4	13	3	25
5月	14	117	7	35	2	10	8	5	64
6月	16	137	7	41	4	18	16	5	62
7月	11	102	6	34	2	4	10	3	54
8月	6	28	3	12	0	0	0	3	16
9月	12	99	6	40	1	8	10	5	41
10月	11	80	6	32	2	9	9	3	30
11月	11	137	5	31	3	18	59	3	29
12月	9	190	4	30	3	26	104	2	30
2022年 1月	8	117	5	21	3	7	29	4	60
2月	9	134	6	26	3	16	13	5	79
3月	15	101	7	32	2	4	13	4	52
合 計	134	1,323	69	373	27	124	284	45	542

(7) 研究情報の普及

研究情報を普及するため、機関リポジトリ「ERNEST」(<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>)、「Toyo Bunko OPAC」(<https://opac.tbopac.com/>)を管理・運営した。

2021年度「Toyo Bunko OPAC」利用統計

年 月	訪問者数	1日平均	検索数	1日平均
2022年 1月	15	1	24	1
2月	27	1	61	2
3月	123	4	239	8

※30分以内に同一IPから訪問があった場合は1名としてカウントしている。

※2021年4月～8月は原因不明の異常値が記録されたため、また、9月～12月はクラウド移行の準備でOPACを停止していたため、2022年1月のクラウド移行後の数値のみ挙げる。

B. データベース公開

2021年4月1日～2022年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス状況については、II 図書事業のグラフ（[p.24](#)）に示す通りである。

C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

(1) 外国人研究員の受入

フランソワ・ラショー（フランス国立極東学院東京支部長）

「近世日本の美術史・宗教史（蒐集家と文人のネットワーク、黄檗文化等々）」

「近世期の東アジアの交流史（日本・中国・ロシア・西欧）」

（2017年3月15日～2024年12月31日）

ガザンジェ（GAZANGJIE）（青海民族大学准教授、日本学術振興会外国人特別研究員）

「近代アジアの政治形勢における日本とチベットとの関係」

（2021年11月29日～2023年11月28日）

[受入研究員：吉水千鶴子]

侯 彦伯（中山大學歴史学部専門研究員）

“The Trade and Navigation of Junks in the Lingnan Region, 1840–1911”

（2022年1月1日～2022年12月31日）

[受入研究員：濱下 武志]

陶 徳民（関西大学東西学術研究所研究員、関西大学名誉教授）

「近世近代日本漢学思想史・近代東アジア文化交渉史」

（2021年9月1日～2022年8月31日）

[受入研究員：斯波 義信]

(2) 日本学術振興会特別研究員 PD・RPD の受入

三王 昌代（東京大学大学院）

「18-19世紀漢語・欧米諸語資料とスーロー海域の現地語資料の比較」

（2021年度採用、3ヶ年度）

[受入研究員：岸本 美緒]

(3) 2021年度嘱託研究員の採用

中村 威也 [継続]

研究課題「中国古代地域社会／非漢族研究、中国史科学、コディコロジー」
に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため和文刊行物の編集・
校閲に従事し、かつその豊富な学術刊行物編集経験を東洋文庫の内外に対
して普及させることに努めた。

太田 啓子 [新規]

研究課題「アラビア半島・紅海文化圏の歴史」に取り組みつつ、東洋文庫
諸活動の継承・発展のため海外交流・国際シンポジウム事業に従事した。

片倉 鎮郎 [新規]

研究課題「西インド洋近代史」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・
発展のため欧文刊行物の編集・校閲に従事した。

瀧下 彩子 [新規]

研究課題「近現代中国社会文化史」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継
承・発展のため近現代中国関係資料の整理、『東洋文庫書報』の編集等に従
事した。

清水 信子 [新規]

研究課題「和漢書誌学、日本漢学史、日本医学史」に取り組みつつ、東洋
文庫諸活動の継承・発展のため和漢古典籍およびコルディエ文庫等の調査・
研究に従事した。

(4) 2021年度奨励研究員の受入

中塚 亮〔継続〕 ※2019～2021年度斯波研究奨励金受給者

研究課題「明代小説『封神演義』の研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため図書事業に参画した。2022年度に科学研究費基盤研究(C)「図像資料から見る『封神演義』の受容と展開」の採択が決定した。

多々良圭介〔継続〕 ※2019～2021年度斯波研究奨励金受給者

研究課題「清代文書資料を中心とした諸文献の紙質をめぐる研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業、特に紙質調査に参画した。2022年度に科学研究費基盤研究(C)「19世紀末～20世紀初中国の感染症流行の構造解析—感染症流行年表の制作を中心に—」の採択が決定した。

衛藤 安奈〔新規〕

研究課題「戦間期の国民党を中心とするファシズムが近代中国において有していた政治史的意味の再検討」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業に参画した。

魏 郁欣〔新規〕 ※2021年度斯波研究奨励金受給者

研究課題「明清時代における風水師とその活動についての社会史的研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業に参画した。

速水 大〔新規〕 ※2021年度斯波研究奨励金受給者

研究課題「『敦煌氏族人名集成』の補完」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業に参画した。

蓮沼 直應〔新規〕

研究課題「日本近代を通じた「禅」概念の変遷に関する研究」に取り組みつつ、東洋文庫諸活動の継承・発展のため研究事業に参画した。

〈外国人研究者への便宜供与〉

各国より東洋文庫を訪問する外国人研究者に対し、調査研究上必要とされ

る便宜供与を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施に終わった。

D. 国際交流

フランス国立極東学院および中央研究院の歴史言語研究所・近代史研究所(台湾)、ハーバード・エンチン研究所(アメリカ)、アレキサンドリア図書館(エジプト)、イラン議会図書館、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)(イギリス)、ベトナム社会科学院漢喃研究所、マックス・プランク研究所(ドイツ)、国際テュルク・アカデミー(カザフスタン)、吉林師範大学満学研究院(中国)との学術交流を進め、資料情報の交換と研究者の相互訪問を継続的に実施した。2021年度は、新たにオックスフォード大学セント・アンズ・カレッジ(イギリス)と学術交流協定を締結した。

なかでもハーバード大学アジア研究図書資料館であるハーバード・エンチン研究所とは、2010年10月に交流協定を結び、資料交流・人材交流のみに止まらず、共同研究ならびにそれらを通じた若手人材の育成に共同で取り組んだ。

世界各地のアジア基礎資料研究に取り組む外国人研究者と協力して、対面、あるいはオンライン形式によって、国際シンポジウム・ワークショップ・研究会等を通じた国際学術交流を推進した。

4. 研究員等の研究業績

期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

略号：★…researchmapの研究者詳細ページのURL

①…雑誌論文 ②…図書 ③…学会発表

< > …共著・共編・共訳・共同発表者名

[] …論文掲載先URLや関連する科学研究費等の情報

會谷 佳光

★ <https://researchmap.jp/aitani-0001>

①「西蓮社の明版大藏経とデータベース化事業」(『浄土』, 88巻, 17頁, 法然上人鑽仰会, 2022年1月).

- ①「東洋文庫漢籍善本紹介」(『東洋文庫書報』, 第53号, 1～63頁, (公財) 東洋文庫, 2022年3月).
- ③「『大正新脩大藏經』底本・校本データベース, 西蓮社(旧増上寺報恩藏)藏嘉興版大藏經目録データベース」(〈宮崎展昌〉, 「奈良朝勅定一切經」の総合的研究」令和3年度第2回共同研究会, 於: 国際仏教学大学院大学(ハイブリッド開催), 2021年9月25日).
- ③「『大正新脩大藏經』底本・校本データベースの活用事例: 大正蔵の「宮本」収録をめぐる」(東洋文庫研究データベース会議, 於: (公財) 東洋文庫(オンライン開催), 2022年2月24日).

相原 佳之

★ <https://researchmap.jp/aiharayoshiyuki>

- ②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展: 「東洋学」の世界へようこそ(時空をこえる本の旅29)』((公財) 東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆: 「汪精衛政権駐日大使館文書」]).
- ②『東洋文庫所蔵『潯閩奏檔』『潯閩貢摺』影印・解説: 清朝嘉慶年間の九江閩』(〈豊岡康史・村上正和・李侑儒〉, 新潟大学人文社会科学系研究プロジェクト「近世・近代環東アジア地域における都市ネットワークに関する社会動態史研究」, 2022年, 242頁).
- ③「データベース構築における東洋文庫各研究班と研究部・研究協力者の協働体制構築について」(東洋文庫研究データベース会議, 於: (公財) 東洋文庫(オンライン開催), 2022年2月24日).

青木 敦

- ①書評「小林義廣著『南宋江西吉州の士大夫と宗族・地域社会』」(『史学雑誌』, 第130編第11号, 99～107頁, 史学会, 2021年11月).
- ①「巻頭言」(『中国研究論叢』, 第21号, 3～4頁, 霞山会, 2021年12月).
- ③「熙豊の法制改革と北宋特別法」(2021年度宋代史研究会オンライン研究会, オンライン開催, 2021年9月12日).
- ③「宋代は「近世」か: 経済中心南移論再考」(国際日本文化研究センター「比較のなかの「東アジア」の「近世」: 新しい世界史の認識と構想のために」, 於: 国際日本文化研究センター(オンライン開催), 2022年3月19日).

青山 亨

★ <https://researchmap.jp/read0123800>

青山 治世

① 「(動向)文化：歴史学」(〈山本真〉, 中国研究所編『中国年鑑2021』, 228～230頁, 明石書店, 2021年5月).

① 「[砲艦外交]と中国」(『中国研究月報』, 第75巻第12号(第886号), 49頁, 中国研究所, 2021年12月).

① 「清末中国における「砲艦外交の試み」：海軍・領事の海外派遣と在外華人保護」(小林隆夫・松下憲一・服部隆行編『菊池一隆教授退職記念論集：東アジア近現代世界の諸相』, 17～42頁, 集広舎, 2022年3月).

① 「中国史研究者のフィリピン・マニラ見聞録」(『樞：国際関係・多文化フォトジャーナル』, Vol. 09, 4～15頁, 亜細亜大学国際関係研究所, 2022年3月).

② 『近代日中関係の対外宣伝と相互理解をめぐる摩擦と模索：『順天時報』の分析を通して(2018～2021年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書)』(2022年, 125頁, [科学研究費補助金 基盤研究(C)「近代日中関係の対外宣伝と相互理解をめぐる摩擦と模索：『順天時報』の分析を通して」, 課題番号：18K00912, 研究代表者：青山治世]).

青山 瑠妙

★ https://researchmap.jp/r_aoyama

秋葉 淳

★ https://researchmap.jp/jun_akiba

② (翻訳)『[全訳] オスマン帝国憲法』(〈大河原知樹・藤波伸嘉〉, 東洋文庫リポジトリ, 2022年, 23頁, [<http://doi.org/10.24739/00007560>]).

浅田 進史

★ https://researchmap.jp/s_asada

③ 「戦間期ドイツの中国市場調査：華中・華南を中心に」(「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐる」オンラインシンポジウム, 於：(公財) 東洋文庫(オンライン開催), 2021年11月28日, [主催：(公財) 東洋文庫近代中国研究班]).

浅野 秀剛

- ①「葛飾北斎筆 雪中虎図」(『国華』, 第1507号第126編第10冊, 27, 56~58頁, 国華編輯委員会, 2021年5月).
- ①「大坂の中判役者絵の版元: 付, 貞信画「東海道五十三次」の判型」(『浮世絵芸術』, 182号, 34~36頁, 国際浮世絵学会編集委員会, 2021年7月).
- ①「歌舞伎の絵看板と辻番付」(『浮世絵芸術』, 182号, 37~41頁, 国際浮世絵学会編集委員会, 2021年7月).
- ①「絵半切的絵本と江戸の雑俳の判者: 志夕・夢仏とその周辺」(『大和文華』, 139号, 23~39+巻頭2頁, 大和文華館, 2021年9月).
- ①「磯田湖龍斎「俳諧女夫まねへもん」」(『日本研究』, 第63集, 163~190頁, 国際日本文化研究センター, 2021年10月).

阿部 尚史

★ <https://researchmap.jp/abe.naofumi>

荒川 正晴

- ②『中華世界の再編とユーラシア東部: 4~8世紀 (岩波講座世界歴史第6巻)』(岩波書店, 2022年, 312頁).
- ③「ユーラシア東部の香料交易とソグド商人: 法隆寺伝来の百檀をめぐって」(2021年度駒沢史学会大会, 於: 駒沢大学 (オンライン開催), 2021年7月3日).
- ③「唐帝国の交通と通行証: 過所と公験の問題をめぐって」(内陸アジア出土古文献研究会7月例会, 於: (公財) 東洋文庫, 2021年7月23日).
- ③「世界の歴史と文化: 法隆寺伝来の白檀とシルクロードの香料交易」(放送大学島根学習センターだんだんセミナー・出雲市生涯学習講座, 於: 出雲市役所本庁くにびき大ホール, 2021年9月23日).
- ③「ユーラシア東部のなかの中華世界の再編 (Reformation of the Sinic World in Ancient Eastern Eurasia)」(第106回グローバルヒストリーセミナー (Global History Seminar No. 106), 於: 大阪大学 (オンライン開催), 2022年3月31日).

飯島 武次

- ①「殷王朝滅亡の原因を探る」(『駒沢史学』, 第98号, 33~52頁, 駒沢史学会, 2022年2月).

- ①「早期秦文化の土器」(『秦の淵源 秦文化研究の最前線：2021年6月20日開催国際シンポジウムより (Humanities Center Booklet Vol. 15)』, 6～23頁, 東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター, 2022年3月).
- ①「報告1 (徐良高)「西周都城考古学における新進展」へのコメント」(『アジア流域文化研究』, XIII, 62～65頁, 東北学院大学アジア流域文化研究所, 2022年3月).
- ②『中国殷王朝考古学研究』(同成社, 2021年, 546頁).
- ③コメント(徐良高「西周都城考古学における新進展」)(国際シンポジウム「中国都城考古学の最前線2：先秦都城考古学の新進展」, オンライン開催, 2021年12月19日, [共催：東北学院大学アジア流域文化研究所・中国社会科学院考古研究所]).

飯島 渉

- ①「風土病の制圧と20世紀日本の感染症対策：リンパ系フィラリア症の制圧と国際保健への展開」(『歴史評論』, 2021年6月号 (No. 854), 5～15頁, 歴史科学協議会, 2021年6月).
- ①「中日医学交流的政治史：以1950年代中期的相互訪問为中心」(公益財団法人東洋文庫超域亜州研究部門現代中国研究班主編『集体化時代の中国：日中共同研究(東洋文庫論叢第84)』, 335～363頁, (公財)東洋文庫, 2021年9月).
- ①「中国のCOVID-19対策と「社区」」(『アジア研究』, 67巻4号, 58～71頁, アジア政経学会, 2021年10月).
- ③「パンデミックとエンデミック：「歴史総合」における感染症の位置づけをめぐって」(第21回静岡歴史教育研究会, 於：静岡大学(ハイブリッド開催), 2021年8月5日).
- ③“Pandemic and Endemic in East Asian History”, EAEH2021 (the Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History), Kyoto University (online), 7 Sep. 2021.

家永 真幸

★ <https://researchmap.jp/read0150191>

- ③コメント(神田豊隆「アジア冷戦と社会民主主義：1950年代の日本社会党, 社会主義インターナショナル, アジア社会党会議」(東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第5回研究

会、於：(公財) 東洋文庫 (オンライン開催), 2022年 3月11日)。

石川 寛

①「10～13世紀カルナータカ地方の中間的支配者集団：旧ダールワダ県南部の事例を中心に」(『東洋学研究』, 第59号, 73～87頁, 東洋大学東洋学研究所, 2022年 3月)。

①「デカン地方の歴史的発展についての覚書：諸王朝支配下の主要都市と地方統治」(藤田幸一・大石高志・小茄子川歩編著『「南アジア地域研究」京都大学中心拠点研究グループ 1 成果最終報告集：南アジアの人口・資源・環境』, 75～104頁, 人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「南アジア地域研究」京都大学中心拠点・研究グループ 1, 2022年 3月)。

②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展：「東洋学」の世界へようこそ (時空をこえる本の旅29)』((公財) 東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆：「ジャハーンギール回想録」])。

石川 重雄

②『福建・江西・浙江の古墓・史跡調査記2012-2019』(〈佐々木愛〉, 報光社, 2022年, 302頁)。

石橋 崇雄

②『清朝『壇廟祭祀節次』訳注 (一)：凡諸祭祀・祈穀壇』(〈中村威也〉, (公財) 東洋文庫, 2022年, 64頁)。

伊藤 博

①「(動向) 経済：証券市場」(中国研究所編『中国年鑑2021』, 156～157頁, 明石書店, 2021年 5月)。

①「(要覧) 証券・保険」(中国研究所編『中国年鑑2021』, 324～326頁, 明石書店, 2021年 5月)。

①“Fountain of Wisdom: Japan-China Working Group for the Exchange of Economic Information”, Mariko Tanigaki ed., *Japan and Asia: Business, Political and Cultural Interactions* (Advances in Japanese Business and Economics 29), pp. 145–225, Springer Singapore, Mar. 2022.

井上 和人

②『日本古代国家と都城・王宮・山城』（雄山閣，2021年，368頁）.

今西 祐一郎

②『源氏物語（九）蜻蛉－夢浮橋（岩波文庫黄15-18）』（〈藤井貞和，他4名〉，岩波書店，2021年，624頁）.

岩尾 一史

★ <https://researchmap.jp/read0134966>

上野 英二

①「古今和歌集の巻頭歌（続）：万葉集から続万葉集」（『成城国文学』，第38号，141～150頁，成城国文学会，2022年3月）.

②『源氏物語と長恨歌：世界文学の生成』（岩波書店，2022年，378頁）.

内山 雅生

①「2009年12月，山西省平遙県南政郷道備村」，「2010年8月，山西省平遙県南政郷道備村・霍州水利局・四社五村」，「2011年8月，山西省霍州市四社五村・平遙県南政郷道備村」，「2012年8月，山西省平遙県南政郷道備村・靈石県溝峪灘村」，「2013年8月，山西省平遙県南政郷道備村・靈石県溝峪灘村・四社五村」，「2016年9月，山西省霍州市四社五村」，「2017年9月，山西省靈石県淑仲村・四社五村・靈石県溝峪灘村」（祁建民・弁納才一・田中比呂志主編『中国の農民は何を語ったか：華北農村訪問聞き取り調査報告書（2007年～2019年）』，45～51頁，189～217頁，262～271頁，299～309頁，342～359頁，512～515頁，525～533頁，汲古書院，2022年3月）.

梅村 坦

②『シルクロードの旅展（時空をこえる本の旅30）』（（公財）東洋文庫，2022年，29頁，[監修]）.

宇山 智彦

★ <https://researchmap.jp/read0045625>

江川 ひかり

- ①「オスマン帝国における遊牧民の定住化過程：ヤージュ・ベディル遊牧民グループの事例を中心に」（『史潮』、新90号、21～39頁、歴史学会、2021年12月）。
- ①“Göçebelerin, Salgın Hastalık Önlem Bilgeliğinden Alınacak Dersler”, Güljanat Kurmangaliyeva Ercilasun and Muhammed Bilal Çelik eds., *Üç Kıta-Bir Tarihiçi: Prof. Dr. İlhan Şahin armağanı*, pp. 263–276, Bursa: Osmangazi Belediyesi, 2021.
- ①「オスマン近代演劇ポスターを読み解く（第3回）オスマン幻想劇団（Hayâlhâne-i Osmânî Kumpanyası）の世紀末イスタンブール公演（1900年）」（『明大アジア史論集』、第26号、103～124頁、明治大学東洋史談話会、2022年3月）。
- ② *Bir Kentin Toplumsal Tarihi Açısından: Osmanlı'nın Son Döneminde İstanbul'da Tiyatro ve Çevresi*, 〈Yuzo Nagata〉, Istanbul: Dergâh Yayınları, 2021, 210p.

衛藤 安奈

- ①「近代化とファシズムの困難な関係について：久保亨『現代中国の原型の出現：国民党統治下の民衆統合と財政経済』（汲古書院、2020年）を読んで」（『中国研究月報』、第75巻第6号（第880号）、16～25頁、中国研究所、2021年6月）。
- ③「国民革命期の国家と社会：中間団体の性質からの再考」（東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第5回研究会、於：（公財）東洋文庫（オンライン開催）、2022年3月11日）。

江南 和幸

- ①「穀物澱粉添加による紙の改質：4世紀中央アジア文書から江戸期刊本用紙にみる」（『書物学』、第19巻（特集：「紙のレンズから見た古典籍」）、4～12頁、勉誠出版、2022年2月）。
- ③“Scientific Study of Paper Used for Ukiyoe Pictures Published in the Edo-Era by High-Resolution Digital Microscope”, 〈Yoshihiro Okada, Taketoshi Hibiya, Satoru Sato, Takashi Yokota, Shigeru Sawayama〉, *El'Manuscript* 2021, 8th International Conference on Textual Heritage and Information Technologies, Albert-Ludwigs-Universität Freiburg (online), 13 Apr. 2021.
- ③「4世紀に始まる中央アジア諸民族による、イネ科植物ワラ、穀物澱粉

を利用した新しい製紙術の意義」(〈岡田至弘・石塚晴通・赤尾栄慶〉, 日本文化財科学会第38回大会, 於: 岡山理科大学 (オンライン開催), 2021年9月19日, [『日本文化財科学会第38回大会研究発表要旨集』, 64~65頁, 日本文化財科学会, 2021年9月]).

大川 謙作

★ <https://researchmap.jp/read0123621>

大川 裕子

① [『農言著実』テキスト研究」(〈大澤正昭・村上陽子〉, 『上智史学』, 第66号, 35~70頁, 上智大学史学会, 2021年11月)].

大河原 知樹

① 「イスラーム財産法・手続法の「法典化」: メジエッレ (オスマン民法典) を中心に」(鮎京正訓編集代表, 島田弦・桑原尚子編著『多様な法世界における法整備支援 (アジア法整備支援叢書)』, 419~455頁, 旬報社, 2021年4月).

① “Osmanlı İmparatorluğu, Osmanlı Sonrası Dönem ve Osmanlı Dışındaki Ülkelerde *Mecelle* Literatür İncelemesi”; “*Mecelle* Literature Review of the Ottoman Empire, Ex-Ottoman and Extra-Ottoman Countries”, Fethullah Soyubelli ed., *Uluslararası Mecelle Sempozyumu Tebliğleri (International Majalla Symposium Book: Codification, Practice and Contemporary Effects)*, pp. 619–628 (Tr); pp. 689–698 (En), Bursa: Bursa Kültür, Apr. 2021, [<https://yayin.taa.gov.tr/yuklenenler/dosyalar/kitaplar/uluslararasi-mecelle-sempozyumu.pdf>].

② 『オスマン民法典 (メジエッレ) の研究: 訴訟編・人証及び法廷宣誓編・司法編』(〈堀井聡江・シャリーアと近代研究会〉, 東北大学大学院国際文化研究科大河原研究室, 2022年, 82 + iii頁, [科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「民法, 民事訴訟法におけるイスラーム法と中東法の国際比較研究」, 課題番号: 19H01404, 代表者: 大河原知樹]).

② (翻訳) 『[全訳] オスマン帝国憲法』(〈秋葉淳・藤波伸嘉〉, 東洋文庫リポジトリ, 2022年, 23頁, [<http://doi.org/10.24739/00007560>]).

大里 浩秋

① 「中国人日本留学の歴史に思うこと」(宇野瑞木編『EAA Forum 17: 一

高中国人留学生と101号館の歴史 (EAA Booklet 26)』, 17～29頁, 東京大学東アジア藝文書院, 2022年2月).

①「内山完造と日中友好運動」(『人文学研究所報』, No. 67, 223～232頁, 神奈川大学人文学研究所, 2022年3月).

②『明治から昭和の中国人日本留学の諸相 (神奈川大学人文学研究叢書46)』(孫安石), 東方書店, 2022年, 500頁).

大澤 顯浩

①「書物, 出版 (中国)」(洋学史学会監修, 青木歳幸ほか編『洋学史研究事典』, 47頁, 思文閣出版, 2021年10月).

大澤 肇

★ <https://researchmap.jp/osawahajime>

①「中華人民共和国建国初期上海及其近郊農村公辦教育的重建」(公益財団法人東洋文庫超域亜州研究部門現代中国研究班主編『集体化時代の中国: 日中共同研究 (東洋文庫論叢第84)』, 509～538頁, (公財) 東洋文庫, 2021年9月).

③「上海新華書店旧蔵書コレクションの利用: 中国教育史研究を例にして」(東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第1回研究会: 東洋文庫現代中国研究班・国立国会図書館関西館合同企画「新たな現代中国研究の推進: 国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって」, 於: (公財) 東洋文庫 (オンライン開催), 2021年4月17日).

大澤 正昭

①「『農言著実』テキスト研究」(村上陽子・大川裕子), 『上智史学』, 第66号, 35～70頁, 上智大学史学会, 2021年11月).

①「中国農書の「栽桑」技術素描: 桑畑・樹形 (仕立て法)・品種」(『唐宋変革研究通説』, 第13輯, 1～22頁, 唐宋変革研究会, 2022年3月).

②『妻と娘の唐宋時代: 史料に語らせよう (東方選書55)』(東方書店, 2021年, 296頁).

太田 啓子

② (共訳) アイラ・M. ラピダス著『イスラームの都市社会: 中世の社会

ネットワーク』(〈三浦徹〉, 岩波書店, 2021年, 350頁).

③「(第2回) 宗教としてのイスラーム: ムハンマド, 啓示, 六信五行」, 「(第3回) イスラームの法と政治: ウンマ, カリフ, シャリーア」, 「(第4回) スンナ派とシーア派: なぜ分派が生じるのか」, 「(第11回) 家族と女性: 生活におけるイスラーム」, 「(第12回) イスラームの食文化」(かわさき市民アカデミー「イスラームをもっと知ろう①イスラームとは何か」, 於: 新百合21ビル多目的ホール (ハイブリッド開催), 2021年10月19日, 11月2日, 11月16日, 2022年2月22日, 3月1日).

③「マリア・テレジア銀貨と紅海貿易」(大東文化大学東洋研究所共同研究「インド洋が取り結ぶ東西交流の諸相に関する研究」2021年度第3回研究会, オンライン開催, 2021年12月3日).

岡崎 礼奈

②『江戸から東京へ: 地図にみる都市の歴史(時空をこえる本の旅28)』((公財) 東洋文庫, 2021年, 37頁, [項目執筆: 「古代・中世の「江戸」「東京」の歴史をたどる」, 「地図資料にみる都市の変遷: 徳川家康の江戸入府と初期の都市建設」, 「地図資料にみる都市の変遷: 100万人都市「大江戸」から幕末へ」, 「江戸切絵図で散策する町の今昔」, 3, 4, 6, 7, 16, 17, 23, 30]).

②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展: 「東洋学」の世界へようこそ(時空をこえる本の旅29)』((公財) 東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆: 「甲骨卜辞片」, 「東方見聞録」, 「永楽大典」, 「四分律刪補隨機羯磨」, 「御製清文鑑(滿蒙文)」, 「大清聖祖仁皇帝実録」, 「国宝文選集注」, 「国指定重要文化財 楽善録」, 「しゃかの本地」, 「唐人雜鈔(敦煌文書)」, 「幸福になるための知恵(クタドゥグ・ビリグ)」, 「写本チベット大藏経」]).

②『シルクロードの旅展(時空をこえる本の旅30)』((公財) 東洋文庫, 2022年, 29頁, [項目執筆: 「シルクロードは宗教の道?」, 「オアシス諸都市と隋・唐・宋・元」, 4~6, 9~11, 19, 20, 24~26]).

岡野 誠

①「唐代における王命と常典(上): 唐断獄律第十八条の検討を中心として」(『法律論叢』, 第94巻6号, 308(1)~264(45)頁, 明治大学法律研究所, 2022年3月).

岡本 隆司

★ https://researchmap.jp/okamoto_t

小川 快之

- ①「国際関係 中国 宋～清」(松永昌三・吉原健一郎・田村貞雄・栗田尚弥編『領域の歴史と国際関係(上):前近代(郷土史大系:地域の視点からみるテーマ別日本史1)』, 312～326頁, 朝倉書店, 2021年5月).
- ①「宋元の社会制度:背景にあるものは何か」(吉澤誠一郎監修, 石川博樹ほか編著『論点・東洋史学:アジア・アフリカへの問い158』, 118～119頁, ミネルヴァ書房, 2022年1月).
- ①「清代の宮廷歳時とジェンダー」(小浜正子・板橋暁子編『東アジアの家族とセクシュアリティ:規範と逸脱』, 321～331頁, 京都大学学術出版会, 2022年2月).
- ①「[肉・魚食から歴史を考える]をテーマとした日東西合同授業の教育的効果について」(石野裕子・仁藤智子), 『国史館史学』, 第26号, 89～115頁, 国史館大学史学会, 2022年3月).

尾崎 文昭

- ①「木山英雄『野草』論を読む(下)」(『颯風』, 第61号, 1～34頁, 颯風の会, 2021年12月).
- ①「アルセーニー・タルコフスキーの詩集『雪が降るまえに』を読む」(『九葉読詩会』, 第7号, 129～141頁, 九葉読詩会, 2022年3月).

小澤 一郎

- ①「マフブーブ・アリーを求めて:近代ユーラシアにおけるアフガン人の交易活動」(『東洋見聞録』, 第30号, 5頁, (公財)東洋文庫, 2021年4月).

小沼 孝博

- ①「ムザルト峠を越えて:天山南北交通史序説」(『東方学』, 第143輯, 77～61頁, 東方学会, 2022年1月).
- ①「1795年におけるコーカンド使節と清の交渉:清代カシュガリアの政治・外交空間」(『東北学院大学論集 歴史と文化』, 第65号・第66号合併号, 31～49頁, 東北学院大学学術研究会, 2022年3月).
- ③「回回館から回子官学へ:清朝宮廷におけるアラビア文字言語の訳員養

成」(中国ムスリム研究会20周年記念大会, オンライン開催, 2021年7月31日).

③「新疆オアシスの農村・水利・行政」(第5回比較水利史研究会, 於: 東北学院サテライトステーション (ハイブリッド開催), 2021年10月23日).

③「ムッラー・ムーサー・サイラーミーの史的探求: 『ハミード史』序論の検討から」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照」2021年度第2回研究会, オンライン開催, 2022年2月8日).

小野寺 史郎

★ <https://researchmap.jp/xiaoyesi>

加島 潤

★ <https://researchmap.jp/jiadao18>

①「軽工業: 社会主義工業化と繊維産業」(中兼和津次編『毛沢東時代の経済: 改革開放の源流をさぐる』, 207~226頁, 名古屋大学出版会, 2021年7月).

糟谷 憲一

①書評「趙景達著『近代朝鮮の政治文化と民衆運動: 日本との比較』」(『歴史評論』, 2021年7月号 (No. 855), 98~102頁, 歴史科学協議会, 2021年7月).

片桐 一男

②『阿蘭陀通詞 (講談社学術文庫2675)』(講談社, 2021年, 416頁).

②『杉田玄白と江戸の蘭学塾: 「天真楼」塾とその門流』(勉誠出版, 2021年, 288頁).

片山 剛

①「『清国二十万分一図』に関する訂正と補足」(〈小林茂〉, 『外邦図研究ニューズレター』, No. 13, 43~46頁, 外邦図研究グループ, 2022年3月).

加藤 直人

①「ブラゴヴェシチェンスクの鐘: 江東六十四屯の遺物をめぐって」(細谷

良夫編著『清朝の史跡をめぐってII：アムール流域篇』，165～168頁，（公財）東洋文庫，2022年3月）。

①「アムール河口からサハリンへ（2011年8月）」（細谷良夫編著『清朝の史跡をめぐってII：アムール流域篇』，169～189頁，（公財）東洋文庫，2022年3月）。

金沢 陽

①書評「野上建紀著『陶磁器考古学入門：やきもののグローバル・ヒストリー』」（『青山考古』，第37号，63～66頁，青山考古学会，2021年5月）。

③「『万曆江西省大志』陶書の訳註について」（アジア文化財協力協会オンライン発表懇談会，於：アジア文化財協力協会（オンライン開催），2021年10月23日）。

金丸 裕一

①「黒田四郎「南京回想」の探究：戦時日中キリスト教関係史をめぐると実証研究」（『キリスト教史学』，第75集，33～56頁，キリスト教史学会，2021年7月）。

①「『湖畔の声』に収録された中国関係記事目録（稿）：戦後編」（『立命館経済学』，第70巻第3号，80～90頁，立命館大学経済学会，2021年9月）。

①（朱海燕訳）「危機下の日中基督教関係史：「中国認識」的諸面相」（『抗日戦争研究』，2021年第4期，94～106頁，中国抗日战争史学会・中国社会科学院近代史研究所，2021年12月）。

①「戦後キリスト教雑誌におけるアジア関係記事目録（稿）：『ニューエイジ』と『月刊キリスト』，及び『びーいん』」（『キリスト教文化』，第18号，294～274頁，かんよう出版，2021年12月）。

①「『中外日報』に連載された賀川豊彦の署名記事をめぐって」（『雲の柱』，第36号，76～81頁，賀川豊彦記念松沢資料館，2022年3月）。

亀谷 学

★ <https://researchmap.jp/kameya-am>

川島 真

①「『和解』の観点から見た戦後日中・日台歴史問題 1945–2008」（『国際社会科学』，第70輯，1～25頁，東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学

専攻，2021年3月）。

②『決定版 大東亜戦争（上）（新潮新書913）』（〈波多野澄雄・赤木完爾・戸部良一・松元崇〉，新潮社，2021年，266頁）。

②『決定版 大東亜戦争（下）（新潮新書914）』（〈戸部良一・赤木完爾・庄司潤一郎・波多野澄雄・兼原信克〉，新潮社，2021年，303頁）。

②『サンフランシスコ講和と東アジア』（〈細谷雄一〉，東京大学出版会，2022年，336頁）。

②『日中戦争研究の現在：歴史と歴史認識問題』（〈岩谷將〉，東京大学出版会，2022年，360頁）。

神田 豊隆

★ <https://researchmap.jp/read0155773>

③「アジア冷戦と社会民主主義：1950年代の日本社会党，社会主義インターナショナル，アジア社会党会議」（東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第5回研究会，於：（公財）東洋文庫（オンライン開催），2022年3月11日）。

木越 義則

★ <https://researchmap.jp/7000005154>

貴志 俊彦

★ <https://researchmap.jp/read0149866>

岸本 美緒

①「民間契約与国家干預：明清時代の「契約正義」問題」（『中国経済史研究』，2021年第2期，5～18頁，中国社会科学院経済研究所，2021年4月）。

①「清末における中国奴婢制度論」（『中国：社会と文化』，第36号，162～180頁，中国社会文化学会，2021年7月）。

①「東アジアの擡頭書式」（伊東貴之編『東アジアの王権と秩序：思想・宗教・儀礼を中心として』，285～300頁，汲古書院，2021年10月）。

①“Property Rights and Factor Markets”, Debin Ma and Richard von Glahn eds., *The Cambridge Economic History of China, Volume 1: To 1800*, pp. 448–483, Cambridge University Press, Feb. 2022.

②『史学史管見：明清史論集4（研文選書132）』（研文出版，2021年，354

頁).

北川 香子

★ <https://researchmap.jp/ktkk>

- ① 「一七世紀クメール語書簡の分析」(『東洋学報』, 第103巻第3号, 38～40頁, (公財)東洋文庫, 2021年12月, [2021年度東洋学講座講演要旨]).
- ③ 「一七世紀クメール語書簡の分析」((公財)東洋文庫2021年度東洋学講座, 於:(公財)東洋文庫(オンライン開催), 2021年9月8日).

金 鳳珍

- ① 「일본 경학의 특징과 문제점 : 고학 (古学) 을 중심으로 (日本經学の特徵と問題点 : 古学を中心に)」(『退溪学論集』, 第29号, 141～173頁, 嶺南退溪学研究院, 2021年12月).
- ② 『안중근과 일본, 일본인 : 끝나지 않은 역사 전쟁 (安重根と日本, 日本人 : 終わっていない歴史戦争)』(知識産業社, 2022年, 292頁).

楠木 賢道

- ① 「森繁久彌のルーツと後藤新平2 : 菅沼達吉と松本安正」(『後藤新平の会会報』, 第24号, 43～77頁, 後藤新平の会, 2021年7月).
- ① 「馬場為八郎の『魯西亜来聘紀事』について」(浪川健治編『十八世紀から十九世紀へ : 流動化する地域と構造化する世界認識』, 257～294頁, 清文堂出版, 2021年12月).
- ① 「森繁久彌のルーツと後藤新平3 : 森繁久彌の岳父・野村樞次と後藤新平」(『後藤新平の会会報』, 第25号, 101～123頁, 後藤新平の会, 2021年12月).
- ② (編・解説) 後藤新平著『国家とは何か』(藤原書店, 2021年, 208頁).

工藤 裕子

★ <https://researchmap.jp/kudoyuko>

久保 亨

- ① インタビュー「中国をどうみるか : 近現代史の観点から」(『経済』, 第312号, 124～137頁, 新日本出版社, 2021年9月).
- ① 書評「村上衛編『転換期中国における社会経済制度』」(『社会経済史学』,

第87巻第4号, 103～105頁, 社会経済史学会, 2022年2月).

① “Handicraft and Modern Industries”, 〈Linda Grove〉, Debin Ma and Richard von Glahn eds., *The Cambridge Economic History of China, Volume 2: 1800 to the Present*, pp. 124–166, Cambridge University Press, Feb. 2022.

① 「近代中国研究委員会・近代中国研究班関係史料 (1)」(『近代中国研究彙報』, 第44号, 137～152頁, (公財) 東洋文庫, 2022年3月).

③ 「序章：戦前日本の華中・華南調査をめぐって」, 「台湾銀行の華南調査」(『東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって』オンラインシンポジウム, 於：(公財) 東洋文庫 (オンライン開催), 2021年11月28日, [主催：(公財) 東洋文庫近代中国研究班]).

窪添 慶文

① 「長きにわたる一書との格闘：中国古代地域史研究班・水経注研究グループの活動」(『東洋見聞録』, 第32号, 4頁, (公財) 東洋文庫, 2021年12月).

久保田 淳

① 「後鳥羽院の『時代不同歌合』と藤原定家の『百人秀歌』」(『日本学士院紀要』, 第76巻第1号, 1～19頁, 日本学士院, 2021年10月).

② 『古今和歌集 (和歌文学大系5)』(〈高野晴代・鈴木宏子・高木和子・高橋由記〉, 明治書院, 2021年, 560頁).

栗山 保之

① 「ポルトガル来航期のインド洋におけるアラブの船乗りたちの風」(『東洋研究』, 第221号, 71～92頁, 大東文化大学東洋研究所, 2021年11月).

① 「インド洋におけるアラブの船乗りたちの航海技術」(『白山史学』, 第58号, 1～20頁, 白山史学会, 2022年3月).

L. グローブ

① “Handicraft and Modern Industries”, 〈Tōru Kubo〉, Debin Ma and Richard von Glahn eds., *The Cambridge Economic History of China, Volume 2: 1800 to the Present*, pp. 124–166, Cambridge University Press, Feb. 2022.

黒田 卓

② (翻訳) 『〔全訳〕1906–07年イラン憲法』(〈近藤百世・徳永佳晃〉, 東洋

文庫リポジトリ, 2022年, 23頁, [<http://doi.org/10.24739/00007561>]).

③「立憲革命をめぐる3つの潮流：モフベロッサルタネ・ヘダーヤトの立憲制理解を中心に」((公財)東洋文庫現代イスラーム研究班イラングループ研究会, オンライン開催, 2022年2月15日).

③「モフベロッサルタネの立憲制理解をめぐる」(第40回イラン研究会, 於：大阪大学箕面キャンパス (ハイブリッド開催), 2022年3月27日).

氣賀澤 保規

①「則天武后か武則天か, その歴史的意味を考える」(『唐代史研究』, 第24号, 101~118頁, 唐代史研究会, 2021年8月).

①「鄴城・晋陽 両都制」(『中国史書入門 現代語訳 北齊書』, 617~624頁, 勉誠出版, 2021年12月).

②(王艶訳)『則天武后』(山西人民出版社(太原), 2021年, 305頁).

②『中国史書入門 現代語訳 北齊書』(訳)池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之, 勉誠出版, 2021年, 680頁, [監修]).

③「近年発見の中国墓誌から読み解く国号「日本」：遣隋使・遣唐使の時代」(成蹊大学・東洋文庫連携科目「展示から探る歴史・文化」特別講演, 於：(公財)東洋文庫(オンライン開催), 2021年11月29日).

巖 善平

①「人民公社(2)：会計資料からみた生産隊と農家」(中兼和津次編『毛沢東時代の経済：改革開放の源流をさぐる』, 107~130頁, 名古屋大学出版会, 2021年7月).

①「中国における地域間人口移動と経済格差」(『国際問題』, No. 703, 15~25頁, 日本国際問題研究所, 2021年10月).

①書評「高橋五郎著『中国土地私有化論の研究：クライシスを超えて』」(『中国経済経営研究』, 第5巻第2号, 73~76頁, 中国経済経営学会, 2022年3月).

②『ミクロデータからみる現代中国の社会と経済』(勁草書房, 2021年, 288頁).

古泉 達矢

★ <https://researchmap.jp/7000007806>

河野 正

★ <https://researchmap.jp/read0153820>

小杉 泰

①「イスラーム過激派は、いかに勃興したか：政治変動とテロのあいだで」（西尾哲夫・東長靖編著『中東・イスラーム世界への30の扉』, 227～236頁, ミネルヴァ書房, 2021年7月）.

①「イスラーム法（シャリーア）の構造的理解と現代イスラーム世界の政治・経済の新動向：イスラーム法源学を手がかりとした解析視座の確立をめざして」（『立命館アジア・日本研究学術年報』, 第2号, 66～77頁, 立命館大学アジア・日本研究所, 2021年7月）.

①「イスラーム主義の変遷と今後の展望」（『中東研究』, 第542号（2021年度 Vol. II：中東調査会設立60周年記念号）, 18～29頁, 中東調査会, 2021年9月）.

①「シャリーアの典拠における命令言辞の多様性とその法解釈：イスラーム法源学におけるテキスト解釈をめぐる考察」（『イスラーム世界研究』, 第15巻, 180～204頁, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, 2022年3月）.

②（翻訳）ガーズイー・ビン・ムハンマド王子著『現代人のためのイスラーム入門：クルアーンからその真髄を解き明かす一二章』（池端落子, 中央公論新社, 2021年, 512頁）.

小寺 敦

①「以清華簡『繫年』為中心看楚地区的歷史觀」（北京大学出土文献研究所編『青銅器与金文』, 第6輯, 193～204頁, 上海古籍出版社, 2021年6月）.

①「關於清華簡『趙簡子』中的晋国君主」（黃聖松主編『群書治要：第二屆『群書治要』國際學術研討會論文集』, 93～112頁, 万卷楼（台北市）, 2021年10月）.

①「清華簡『摂命』訳注」（『東京大学東洋文化研究所紀要』, 第180冊, 161～290頁, 東京大学東洋文化研究所, 2022年2月）.

①「清華簡『邦家之政』訳注」（『東京大学東洋文化研究所紀要』, 第181冊, 108～160頁, 東京大学東洋文化研究所, 2022年3月）.

③「關於清華簡『越公其事』裡的君主形象」（清華戰國楚簡國際學術研討會, 於：清華大学（北京市, ハイブリッド開催）, 2021年11月19日）.

小長谷 有紀

- ①「木へのまなざし」(堀田あゆみ・渡邊三津子・鈴木康平編著『モンゴルにおける木材利用と森林後退：19世紀末から20世紀前半の写真より』, 1～8頁, 遊文舎, 2022年3月).
- ① “Street Dogs in Mongolia Captured by the Pictures in Travelogues from the Late 19th and Early 20th Centuries: A Case Study of Finding Logic in the Photographs”, *Senri Ethnological Studies*, No. 110, pp. 61–91, National Museum of Ethnology, Mar. 2022, [<http://doi.org/10.15021/00009927>].
- ② *Master of Mongolia, A. D. Simukov: His Life and Works* (Senri Ethnological Reports No. 154), (Morris Rossabi, translated from the Russian by Mary Rossabi), National Museum of Ethnology, 2022, 568 + xii p., [<http://hdl.handle.net/10502/00009935>].

小松 久男

- ①「新聞・雑誌を読む：中央ユーラシア研究班の活動」(『東洋見聞録』, 第30号, 4頁, (公財) 東洋文庫, 2021年4月).
- ① “Zengi Ata’dan Orta Asya Tarihine Bir Bakış”, Güljanat Kurmangaliyeva Ercilasun and Muhammed Bilal Çelik eds., *Üç Kıta-Bir Tarihiçi: Prof. Dr. İlhan Şahin armağanı*, pp. 277–295, Bursa: Osmangazi Belediyesi, 2021.
- ②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展：「東洋学」の世界へようこそ（時空をこえる本の旅29）』((公財) 東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆：「トルキスタン写生画集」, 「中亞細亞紀事」]).

小南 一郎

- ①「唐代小説的虚構性質：以裴鉏『传奇』为中心」(『文史哲』, 2021年第3期, 124～128頁, 山東大学文史哲編輯部, 2021年5月).
- ①「祖霊と穀霊：中国墓葬中の倉庫模型を中心にして(下)」(『泉屋博古館紀要』, 第37巻, 1～33頁, 泉屋博古館, 2021年12月).
- ③「目連戯：舞台上の活化石」(説話・伝承学会2021年度春季大会, 於：立命館大学大阪いばらきキャンパス, 2021年4月25日).

齋藤 真麻理

- ③「奈良絵本の楽しみ：浦島・天神・万寿姫」((公財) 東洋文庫2021年度東洋学講座, 於：(公財) 東洋文庫 (オンライン開催), 2022年1月13日,

〔『東洋学報』, 第104巻第1号, 97～99頁, (公財) 東洋文庫, 2022年6月〕。

早乙女 雅博

- ①「関野貞コレクションのデータベース公開」(『Ouroboros: 東京大学総合研究博物館ニュース』, Vol. 25 No. 3, 7～8頁, 東京大学総合研究博物館, 2021年8月)。
- ②「朝鮮古蹟調査事業と高句麗壁画古墳: 1910年代を中心として」(朝鮮学会第72回大会公開講演, オンライン開催, 2021年10月2日)。
- ③「関野コレクションからみた大正二年度朝鮮古蹟調査」(京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター比較文化遺産学創成部門シンポジウム「大正二年度朝鮮古蹟調査を探る」, オンライン開催, 2022年3月25日)。

櫻井 徹

- ①「周口店の火: 20世紀『中国の原始人』論争」(『東洋見聞録』, 第31号, 6～7頁, (公財) 東洋文庫, 2021年9月)。

佐藤 健太郎

★ <https://researchmap.jp/skentarou>

- ③「16～18世紀フェスの公証人文書とカーディー法廷: 東洋文庫所蔵皮紙文書より」(第86回羽田記念館定例講演会, 於: 京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念館 (ハイブリッド開催), 2021年11月27日)。

佐藤 仁史

★ <https://researchmap.jp/read0162158>

塩沢 裕仁

- ①「太行陁・白陁古道の歴史的意義: 古道関連の関塞・集落遺址調査を踏まえて」(辻正博編『中国前近代の関津と交通路』, 195～236頁, 京都大学学術出版会, 2022年3月)。
- ①(監訳) 洛陽市文物考古研究院・李徳方著「過去二〇年間にわたる洛陽地区石器時代の考古研究の主な成果」(『法政史論』, 第49号, 39～57頁, 法政大学大学院史学会, 2022年3月)。

③「隋唐皇帝陵の現状」(2021年度唐代史研究会夏期シンポジウム、オンライン開催, 2021年8月23日).

塩谷 哲史

①「19世紀中葉のヒヴァ＝ロシア関係再考：シュクルッラー・アガのロシア、オスマン両帝国への派遣について」(『西南アジア研究』, No. 92, 30～48頁, 西南アジア研究会, 2021年6月).

①彙報「第五七回野尻湖クリルタイ」(『東洋学報』, 第103巻第3号, 33～37頁, (公財)東洋文庫, 2021年12月).

①“The Association between the Descendants of Sufi Saint Sayyid Ata and the Khans of Khiva at the Beginning of the 19th Century”, *Central Asiatic Journal*, Vol. 64, No. 1–2, pp. 183–195, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, Dec. 2021.

①「中央ユーラシアのムスリムとロシア帝国法：宗務行政と植民地行政」, 「改革と水利：トルキスタンの水利権法（一九一七年）への道程」(〈(前者のみ)磯貝真澄・磯貝健一〉, 磯貝真澄・磯貝健一編『帝国ロシアとムスリムの法』, 15～45頁, 139～160頁, 昭和堂, 2022年2月).

①「近世ホラズムにおける王権と水利」(『K』, 3号, 40～45頁, Knit-K, 2022年3月).

設楽 國廣

②『アブデュルハミド二世：西欧へのオスマン帝国の抵抗（新・人と歴史41）』(清水書院, 2021年, 272頁).

篠木 由喜

②『江戸から東京へ：地図にみる都市の歴史（時空をこえる本の旅28）』(〈(公財)東洋文庫, 2021年, 37頁, [項目執筆：「地図資料にみる都市の変遷：都市の拡大と実測図・大絵図の発展」, 「地図資料にみる都市の変遷：首都「東京」の誕生 町と生活の変貌」, 「コラム：鉄道建設のはじまり」, 14, 15, 24～27, 29]〉).

②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展：「東洋学」の世界へようこそ（時空をこえる本の旅29）』(〈(公財)東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆：「歴代地理指掌図」, 「準回両部平定得勝図」, 「慈禧皇太后冊宝」]〉).

②『シルクロードの旅展（時空をこえる本の旅30）』(〈(公財)東洋文庫, 2022年, 29頁, [項目執筆：「ごあいさつ」, 「シルクロードとは？」, 「騎馬

遊牧民の出現 スキタイ・匈奴と漢王朝 3 世紀頃まで」, 「鮮卑・突厥・東ウイグル 4～9 世紀」, 「国際人ソグド」, 1, 2, 7, 16, 21, 22)].

篠崎 陽子

① 「イギリス人の憧れた「東洋の神秘・紅茶」(『東洋見聞録』, 第32号, 6～7頁, (公財) 東洋文庫, 2021年12月).

嶋尾 稔

① 「ベトナム科学制度雑考」(『東洋学報』, 第103巻第3号, 42～44頁, (公財) 東洋文庫, 2021年12月, [2021年度東洋学講座講演要旨]).

③ 「ベトナム科学制度雑考」((公財) 東洋文庫2021年度東洋学講座, 於: (公財) 東洋文庫 (オンライン開催), 2021年11月11日).

島田 竜登

★ https://researchmap.jp/ryuto_shimada

清水 信子

★ <https://researchmap.jp/nobucos>

徐 顕芬

① 「中国から見たヒロシマ: 戦後の対外政策の中で」(広島市立大学広島平和研究所編『広島発の平和学: 戦争と平和を考える13講』, 81～99頁, 法律文化社, 2021年7月).

① 「日中関係」(広島市立大学広島平和研究所編『アジアの平和とガバナンス』, 27～39頁, 有信堂, 2022年3月).

徐 小潔

① 「『大清聖祖仁皇帝実録』の紙質: 大紅綾本と紫綾本」(『書物学』, 第19巻 (特集: 「紙のレンズから見た古典籍」), 44～49頁, 勉誠出版, 2022年2月).

① 「『永楽大典』紙質の初歩的分析: 非破壊調査の試み」(『東洋文庫書報』, 第53号, 001～016頁, (公財) 東洋文庫, 2022年3月).

② 「『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展: 「東洋学」の世界へようこそ (時空をこえる本の旅29)』((公財) 東洋文庫, 2021年, 33頁, [項

目執筆：「(紙質調査・分析)解体新書」,「(紙質調査・分析)ターヘル・アナトミア」).

③“Analysis of Incunabula Paper Quality: Beginning from ‘The Travels of Marco Polo’”, 〈Kazuyuki Enami〉, El’Manuscript 2021, 8th International Conference on Textual Heritage and Information Technologies, Albert-Ludwigs-Universität Freiburg (online), 13 Apr. 2021.

邵 迎建

①書評「李健吾評『戸田家の兄妹』」(〈晏妮〉,『澎湃新聞』,上海東方報業有限公司,2021年11月6日,https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_15243037).

①「従話劇『清宮怨』到電影『清宮秘史』」(『知性と創造：日中学者の思考』,第13号,40～56頁,日中人文社会科学学会,2022年3月).

城山 智子

①“Distant Thunder? Reconsidering the Impacts of the Great Depression on China”, Chi-Cheung Choi, Tomoko Shiroyama, and Venus Viana eds., *Strenuous Decades: Global Challenges and Transformation of Chinese Societies in Modern Asia*, pp. 201–220, Berlin: De Gruyter, Mar. 2022.

②*Strenuous Decades: Global Challenges and Transformation of Chinese Societies in Modern Asia*, 〈Chi-cheung Choi, Venus Viana〉, Berlin: De Gruyter, 2022, 338p.

③“Spatiotemporal Analysis of 1931 Yangzi River Flood”, 〈Chang Liu〉, 2021 Asian Network for GIS-based Historical Studies (ANGIS) Webinar “GIS-based Analysis of ‘Environmental Changes and Natural Hazards in Asian History’”, online, 25 Apr. 2021.

③「近代中国における水・社会・国家」(東大水フォーラム公開シンポジウム「持続可能な社会と水②：水循環と物質循環」オンライン開催, 勉勉2022年2月16日).

杉山 清彦

①「大清帝国の王権と君主位：マンジュ王権としての一試論」(伊東貴之編『東アジアの王権と秩序：思想・宗教・儀礼を中心として』,571～585頁,汲古書院,2021年10月).

- ①「清の国家体制：帝国はどのように統合されていたか」（吉澤誠一郎監修，石川博樹ほか編著『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』，202～203頁，ミネルヴァ書房，2022年1月）。
- ①「マンジュ大清国の支配構造」（弘末雅士・吉澤誠一郎責任編集『東アジアと東南アジアの近世：15～18世紀（岩波講座世界歴史第12巻）』，181～201頁，岩波書店，2022年3月）。
- ③コメント「『中国史』と中央ユーラシア史の視点から」（第71回日本西洋史学会大会小シンポジウムⅢ「『磔岩のような国家』に見る『主権』理解の批判的再構築」，於：武蔵大学（オンライン開催），2021年5月16日）。
- ③「中央ユーラシアと東部ユーラシア：方法としての地域，舞台としての地域」（The First International Conference of the Institute of Humanities Korea Plus at Dongguk University, “The Dynamics of East Eurasian Material and Culture”，オンライン開催，2021年12月4日）。

鈴木 恵美

- ①「エジプトを巡る国際環境の変化に対するスイススイ政権の対応：ロシア・中国との関係を中心に」（『中東・アフリカ 米中関係を越えて：自由で開かれた地域秩序構築の『機軸国家日本』のインド太平洋戦略』，137～145頁，日本国際問題研究所，2022年3月）。

鈴木 均

- ①「アフガン情勢の急変と地政学的インパクト：米軍撤退とターリバーン権力掌握の含意」（『中東協力センターニュース』，2021年10月号（46巻7号），19～28頁，中東協力センター，2021年10月）。
- ①Book Review, “Abbas Amanat, *Iran: A Modern History*”, *Modern Asian Studies Review* / 新たなアジア研究に向けて, Vol. 13, pp. 17–21, The Toyo Bunko, Mar. 2022.
- ②『オーラル資料編 イラン革命と日系企業 第三冊：コントラクター・NEC・商船三井他』（アジア経済研究所，2022年，241 + iii頁）。
- ③「アフガニスタンの現状と地政学的条件」（アジア経済研究所オンライン講座「アフガニスタンの現在：国内情勢と地域的な影響」，オンライン開催，2021年11月25日）。
- ③「イラン米国関係と日本イラン関係：イラン現代史再考」（慶應義塾大学言語文化研究所「イスラーム・セミナー」，オンライン開催，2022年2月21日）。

日).

砂山 幸雄

- ① 「(動向) 思想」(中国研究所編『中国年鑑2021』, 207~209頁, 明石書店, 2021年5月).
- ① 「(座談) 越境するメディアのなかの「中国」(古畑康雄・渡辺浩平・房満満・高明潔), 愛知大学現代中国学会編『中国21』, Vol. 56, 3~30頁, 東方書店, 2022年3月).
- ① インタビュー「中国で制作し, 中国で発信する: 南京在住のドキュメンタリー監督竹内亮氏に聞く」(愛知大学現代中国学会編『中国21』, Vol. 56, 31~50頁, 東方書店, 2022年3月).
- ③ 「歴史のなかの「1972年体制」」(日中国交正常化50年記念シンポジウム「世界のなかの日中関係: 「1972年体制」の地殻変動」, 於: 愛知大学国際問題研究所(オンライン開催), 2022年3月2日).

妹尾 達彦

- ① (黄健育訳)「長安七五一年: 欧亜的転変」(三浦徹編『750年: 普遍世界的鼎立(歴史的転換期3)』, 205~252頁, 台湾商務印書館, 2021年9月).
- ① 「9世紀の転換: 長安街東社会の形成」(松本悠子・三浦麻美編著『歴史の中の個と共同体(中央大学人文科学研究所研究叢書77)』, 339~379頁, 中央大学出版部, 2022年2月).
- ① “Performance Spaces in Ancient Chinese Cities: Street Theatres of the 9th Century Capital Chang’an”, Yuji Nawata and Hans Joachim Dethlefs eds., *Performance Spaces and Stage Technologies: A Comparative Perspective on Theatre History*, pp. 13–32, Bielefeld: Transcript Verlag, Mar. 2022.
- ② (高兵兵訳)『長安の都市計画(新版)』(三秦出版社(西安), 2021年, 206頁).
- ③ 「中国文化の統一性と多様性: 行政都市網の変遷を手がかりに」(第2回中国文化研究国際論壇, オンライン開催, 2021年5月16日, [渡邊義浩編『中国文化の統一性と多様性』, 269~302頁, 汲古書院, 2022年4月]).

関 智英

- ① 「解説」(許雪姬著, 羽田朝子・殷晴・杉本史子訳『離散と回帰: 「満洲国」の台湾人の記録』, 565~573頁, 東方書店, 2021年6月).

- ①「汪精衛の日本留学と陽明学：その活動の背景」（『「明治日本と革命中国」の思想史：近代東アジアにおける「知」とナショナリズムの相互還流』，322～339頁，ミネルヴァ書房，2021年7月）。
- ①「日中戦争の展開：戦争はなぜ長期化したのか」（吉澤誠一郎監修，石川博樹ほか編著『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』，332～333頁，ミネルヴァ書房，2022年1月）。
- ①「占領地における中国第三勢力：中国社会党・中国国家社会党を中心に」（川島真・岩谷将編『日中戦争研究の現在：歴史と歴史認識問題』，239～280頁，東京大学出版会，2022年3月）。
- ①「日本敗戦後，外務省で翻訳された汪精衛政権刊行物：許錫慶編著『中国革命之理論と史実』の周辺」（『歴史系検討会論文集』，1～16頁，日本国際問題研究所，2022年3月，[\[https://www.jiia.or.jp/JIC/pdf/2-7.pdf\]](https://www.jiia.or.jp/JIC/pdf/2-7.pdf)）。

関尾 史郎

- ①書評「土肥義和著『燉煌文書の研究』」（『歴史評論』，2021年12月号（No. 860），96～100頁，歴史科学協議会，2021年12月）。
- ②『三国志拾遺 正：史料・地域・対外関係』（Nakazato Labo，2021年，258頁，[2022年5月現在，第2刷，<https://note.com/nakazato211/n/neaafc305757a>]
- ②『河西魏晋・「五胡」墓出土画像資料（塼画・壁画）目録補遺／河西魏晋・「五胡」墓出土鎮墓瓶銘（鎮墓文）集成補遺』（Nakazato Labo，2021年，36頁，[\[https://note.com/nakazato211/n/nd954df227188\]](https://note.com/nakazato211/n/nd954df227188)）。
- ②『2015年度敦煌仏爺廟湾 新店台墓群出土鎮墓瓶銘（鎮墓文）集成：附2015年度敦煌 仏爺廟湾 新店台墓群／2019年度張掖甘州区黒水国墓群出土鎮墓瓶一覽』（Nakazato Labo，2022年，90頁，<https://note.com/nakazato211/n/n7173bbddb5d>]

高田 時雄

★ https://researchmap.jp/takatatokio_903

- ①インタビュー「コルディエ文庫来たる！前編：ヨーロッパ東洋学コレクションのなりたち」（『東洋見聞録』，第31号，8～11頁，（公財）東洋文庫，2021年9月）。
- ①インタビュー「コルディエ文庫来たる！後編：細川侯爵家による将来と斯道文庫への寄託」（『東洋見聞録』，第32号，8～11頁，（公財）東洋文庫，2021年12月）。

① “Printed Editions of the *Xiru Ermuzi*”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 79, pp. 1–33, The Toyo Bunko, 2021.

高田 幸男

① 「近代における中国人の日本留学：1935、36年の日本留学ブームを中心に」(『歴史学研究』, No. 1018 (2022年1月号), 27～36頁, 歴史学研究会, 2022年1月).

① 「王清穆『農隠廬日記』にみる近代中国の移動と時間：1919年2月～1921年2月の記録から」(『駿台史学』, 第174号, 103～137頁, 駿台史学会, 2022年2月).

① 「王清穆『農隠廬日記』(11)」(〈(編注)王清穆研究会(代表：高田幸男)〉, 『近代中国研究彙報』, 第44号, 45～98頁, (公財)東洋文庫, 2022年3月).

① 「中国の出世双六「陞官図」について」(『明大アジア史論集』, 第26号, 49～61頁, 明治大学東洋史談話会, 2022年3月).

③ 「日本の華南教育調査」(「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって」オンラインシンポジウム, 於：(公財)東洋文庫(オンライン開催), 2021年11月28日, [主催：(公財)東洋文庫近代中国研究班]).

高松 洋一

★ <https://researchmap.jp/read0141383>

高山 博

① 「概説：「未知の世界」である過去を探究し人々が生きていくために必要な「世界観」を醸成」(『Guideline』, 2021年7・8月号, 45～47頁, 河合塾全国進学情報センター, 2021年7月).

② (監訳) デイヴィド・アブラフィア著『地中海と人間：原始・古代から現代まで』全2分冊(〈(翻訳)佐藤昇・藤崎衛・田瀬望〉, 藤原書店, 2021年, 536+20頁, 512+12頁).

② 『中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較』(〈亀長洋子〉, 東京大学出版会, 2022年, 648頁).

③ 「中世シチリア王国：ヨーロッパ, ビザンツ, イスラム文化の十字路」(第60回日本女子大学史学研究会大会, オンライン開催, 2021年11月20日).

③ 「グローバル化する世界と中世ヨーロッパ研究：30年の研究と教育を振

り返って」(高山博教授最終講義, 於: 東京大学本郷キャンパス (ハイブリッド開催), 2022年3月17日).

瀧下 彩子

- ①「絵画」, 「漫画」(武田雅哉・加部勇一郎・田村容子編著『中国文学をつまみ食い: 『詩経』から『三体』まで』, 172~173頁, 178~179頁, ミネルヴァ書房, 2022年2月).
- ③「歴史科系学習マンガにおける「改訂」」(伊藤遊・山中千恵), 日本マンガ学会第20回研究発表大会, オンライン開催, 2021年7月4日, [『日本マンガ学会第20回研究発表大会 (オンライン) プログラム・発表要旨集』, 9頁, 日本マンガ学会研究発表大会実行委員会, 2021年6月, https://www.jsscc.net/wp/wp-content/uploads/2021_abstract.pdf].
- ③「歴史科系学習マンガの制作過程」(伊藤遊・山中千恵), 中部人間学会第21回研究発表大会, オンライン開催, 2021年11月27日).
- ③「戦前日本の観光業と華中・華南: 華中鉄道の旅客業務を中心に」(『東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって』オンラインシンポジウム, 於: (公財) 東洋文庫 (オンライン開催), 2021年11月28日, [主催: (公財) 東洋文庫近代中国研究班]).

竹越 孝

- ★ <https://researchmap.jp/read0111810>

田島 俊雄

- ①「朱紹文研究員と戦時下の日本留学: 一高特設高等科と東大経済学部を中心に」(孫安石・大里浩秋編著『明治から昭和の中国人日本留学の諸相 (神奈川大学人文学研究叢書46)』, 341~384頁, 東方書店, 2022年3月).

多田 隼介

- ①「国際関係 中国 総論, 漢~唐」(松永昌三・吉原健一郎・田村貞雄・栗田尚弥編『領域の歴史と国際関係 (上): 前近代 (郷土史大系: 地域の視点からみるテーマ別日本史 1)』, 288~311頁, 朝倉書店, 2021年5月).

多々良 圭介

- ①“Introducing the Fujii Collection in Toyo Bunko: Medical Books from the Ming

and Qing Dynasties”, *Modern Asian Studies Review* / 新たなアジア研究に向けて, Vol. 13, pp. 1–16, The Toyo Bunko, Mar. 2022.

③“Activity of Medical Officers to the Chinese Maritime Customs Service in East Asia: With a Focus on *Medical Reports*”, EAEH2021 (the Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History), Kyoto University (online), 10 Sep. 2021.

立川 武蔵

②『仏教史第1巻：仏教の源泉』（西日本出版社，2021年，408頁）。

②『仏教史第2巻：仏教の展開』（西日本出版社，2021年，432頁）。

② *Representing the World as Sacred*, Kathmandu: Vajra Publications, 2021, 206p.

田仲 一成

①「香港新界正一派道士太平清醮儀礼中所反映の本地社会意識：組織性、儀礼性、宗族性以及市場性」（蕭国健・游子安主編『爐峰古今：香港歴史文化論集2020』，6～13頁，珠海学院香港歴史文化研究中心出版，2021年12月）。

②『中国演劇史論』（知泉書館，2021年，440頁）。

③「仮面劇に見る中国の「土地神」と日本の「翁」：その差異の意味するものは何か」（東京大学東洋文化研究所創立80周年記念特別公開講座，於：東京大学東洋文化研究所（オンライン開催），2021年10月16日）。

田中 比呂志

①書評「山田七絵著 東京大学出版会『現代中国の農村発展と資源管理：村による集団所有と経営』（『中国研究月報』，第75巻第4号（第878号），39～41頁，中国研究所，2021年4月）。

②『中国の農民は何を語ったか：華北農村訪問聞き取り調査報告書（2007年～2019年）』（祁建民・弁納オー），汲古書院，2022年，620頁）。

③「『支那時報』とその華中・華南関係記事：満洲事変までの期間を中心として」（『東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって』オンラインシンポジウム，於：（公財）東洋文庫（オンライン開催），2021年11月28日，〔主催：（公財）東洋文庫近代中国研究班〕）。

地田 徹朗

★ <https://researchmap.jp/tetsuroch>

P. ツイーム

①“Scenes from the Lotus Sutra. An Old Uygur Temple Banner with Cartouche Inscriptions”, *Manuscripta Orientalia: International Journal for Oriental Manuscript Reserch*, Vol. 27, No. 1, pp. 3–19, St. Petersburg: Thesa Publishers, Jun. 2021.

①“An Old Uyghur Translation of the 開蒙要訓 *Kaimeng Yaoxun*”, *Written Monuments of the Orient*, Vol. 7, No. 1 (13), pp. 71–99, Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences, Dec. 2021.

塚原 東吾

★ <https://researchmap.jp/leuk>

坪井 祐司

①「[「千一問」におけるイスラム国家をめぐる問答] (光成歩・山本博之編著『『カラム』の時代 XIII：マレー・イスラム世界における移動とジェンダー規範』, 9～18頁, 京都大学東南アジア地域研究研究所, 2022年3月).

③“Jawi Publication and its Connectivity in the Process of Decolonization in Southeast Asia”, MSC12 (the 12th International Malaysian Studies Conference), online, 17 Aug. 2021, [Abstract: Sity Daud, Rashila Ramli, and Muhamad Azwan Abd Rahman eds., *MSC12 E-Proceedings: The 12th International Malaysian Studies Conference*, pp. 4–15].

鶴間 和幸

①「中国古代の姓氏の歴史」(学習院大学文学部史学科編『新・歴史遊学：覚える歴史学から考える歴史学へ』, 134～154頁, 山川出版社, 2021年10月).

①「秦漢人物史研究と『風俗通義』姓氏篇」(『東方学』, 第143輯, 1～25頁, 東方学会, 2022年1月).

②『始皇帝の地下宮殿：隠された埋蔵品の真相』(山川出版社, 2021年, 208+4頁).

寺田 浩明

③コメント「伝統中国の司法利用：比較研究の可能性と課題」(第71回日本西洋史学会大会小シンポジウム IV「伝統社会の司法利用：紛争当事者の行動に注目する史料研究の可能性と課題」, 於：武蔵大学(オンライン開催), 2021年5月16日).

唐 成

★ <https://researchmap.jp/read0116033>

戸倉 英美

①「『西陽雜俎』前集卷十五 諸臯記下「景公寺前街中, 旧有巨井」を読む」のうち「三-3) 銀稜漆椀の可能性」(『中唐文学会報』, 第28号, 22~40頁, 中唐文学会, 2021年10月).

①書評「狩野雄著『香りの詩学：三国西晋詩の芳香表現』」(『六朝学術学会報』, 第23集, 85~90頁, 六朝学術学会, 2022年3月).

土肥 祐子

①「南宋後期の胡椒貿易：『数書九章』と『諸蕃志』」(『南島史学』, 第89号, 190~172頁, 南島史学会, 2021年11月).

富澤 芳亜

①「『世界の工場』としての中国」(社会経済史学会編『社会経済史学事典』, 112~113頁, 丸善出版, 2021年6月).

①「中国における外国資本：中国資本を抑圧したのか」(吉澤誠一郎監修, 石川博樹ほか編著『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』, 270~271頁, ミネルヴァ書房, 2022年1月).

①「裕豊紡績工場長の回顧：澤井幸雄氏・西村利義氏インタビュー」(〈〈聞き手〉桑原哲也・(校閲)平野恭平〉, 『近代中国研究彙報』, 第44号, 1~43頁, (公財)東洋文庫, 2022年3月, [校閲]).

③「工場労働者をめぐる中印比較：綿工業を事例として」(〈神田さやこ〉, 社会経済史学会第90回全国大会, 於：神戸大学(オンライン開催), 2021年5月16日).

③「華中棉産改進黨(1939~45年)とその棉産調査」(「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって」オンラインシンポジウム, 於：(公

財) 東洋文庫 (オンライン開催), 2021年11月28日, [主催: (公財) 東洋文庫近代中国研究班]).

中兼 和津次

- ①書評「奥村哲著『文化大革命への道：毛沢東主義と東アジアの冷戦』」(『中国研究月報』, 第75巻第5号(第879号), 36～38頁, 中国研究所, 2021年5月).
- ②『毛沢東論：真理は天から降ってくる』(名古屋大学出版会, 2021年, 438頁).
- ②『毛沢東時代の経済：改革開放の源流をさぐる』(名古屋大学出版会, 2021年, 312頁).

永田 雄三

- ②*Bir Kentin Toplumsal Tarihi Açısından: Osmanlı'nın Son Döneminde İstanbul'da Tiyatro ve Çevresi*, (Hikari Egawa), Istanbul: Dergâh Yayınları, 2021, 210p.

中塚 亮

- ①「岐阜に請来された媽祖について：戦後日本における媽祖信仰受容の一例として」(『東方宗教』, 第136号, 39～54頁, 日本道教学会, 2021年8月).
- ①「生きている物語として『封神演義』を読む」(『東洋見聞録』, 第31号, 5頁, (公財) 東洋文庫, 2021年9月).
- ①(翻訳) 劉建綱著「奇巧劇団『鞍馬天狗』の脚本・演出におけるポップカルチャー要素の運用」(細井尚子編著『国立台北芸術大学主催 立教大学アジア地域研究所・立教SFR共催 国際シンポジウム「移行する大衆演劇：人々の記憶の現像と制度の再建」論文集』, 487～512頁, 立教大学アジア地域研究所, 2022年3月).
- ③「『封神演義』の戦後日本における受容について」(中国古典小説研究会2021年度大会, オンライン開催, 2021年12月12日).

長縄 宣博

- ①“‘Bozh’i gosti’ i antiimperializm: Sovetskii khadzh 1920-kh gg.,” Tat’iana Kotiukova ed., *Islam v Rossii i Evrazii XVIII vv.*, pp. 561–582, St. Petersburg: Aleteia, 2021.

- ③“Familiar Strangers in the Party: The Rise and Fall of Tatars in Soviet Turkestan and Bukhara, 1920–1921”, 10th World Congress of ICCEES (the International Council for Central and East European Studies), Concordia University, Montreal (online), 5 Aug. 2021.
- ③“An Anarchist Turn? A Note for a Transnational History of Revolutionary Russia”, ロシア史研究会2021年度大会共通論題B “Russia and the Middle East”, online, 24 Oct. 2021.
- ③「静かなラディカリズム：20世紀初頭ロシアのムスリム社会の場合」(史学会第119回大会公開シンポジウム「世界主義の諸様相：コスモポリタニズム・アジア主義・国際主義」, 於：東京大学本郷キャンパス(ハイブリッド開催), 2021年11月13日).
- ③“‘Russia and Saudi Arabia’, at the Roundtable ‘Russia’s Unlikely Alliances: Awkward Twists and Momentous Turns in Eurasia, 1800 to the Present’”, ASEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) 53rd Annual Convention, “Diversity, Intersectionality, Interdisciplinarity”, online, 3 Dec. 2021.

中見 立夫

- ①資料紹介「吉川光著『「民族協和」の満洲国：元関東軍将校の従軍記』を識るまで」(『近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER』, 第33号, 65～66頁, 近現代東北アジア地域史研究会, 2021年12月).
- ②『「帝国」の秩序と再編：モンゴルの文書と史跡の探求』(〈加藤直人・広川佐保〉, 加藤直人研究代表「日大文理学部科研基盤(B)(一般)」研究会, 2022年, 167+iii頁, [科学研究費補助金基盤研究(B)「清代「内陸アジア交易ネットワーク」の形成・展開と文化変容における歴史的特徴の解明」, 課題番号：19H01326, 研究代表者：加藤直人]).
- ③“On the Rare Manchu Historical Materials at the Library of the Hokkaido University”, Seoul International Altaistic Conference 2021, online, 16 Jul. 2021, [Full paper and abstract: *15th Seoul International Altaistic Conference, July 16–17, 2021*, pp. 100–107, Jul. 2021].

中村 威也

- ②『清朝『壇廟祭祀節次』訳注(一)：凡諸祭祀・祈穀壇』(〈石橋崇雄〉, (公財)東洋文庫, 2022年, 64頁).

中村 元哉

- ①「由民国史解析東亜冷戦時期的中国憲政与漢斯・凱爾森」(公益財団法人東洋文庫超域亜州研究部門現代中国研究班主編『集体化時代の中国：日中共同研究(東洋文庫論叢第84)』, 3～28頁, (公財)東洋文庫, 2021年9月).
- ②書評「黄克武『顧孟余の清高：中国近代史的另一種可能』」(『中央研究院近代史研究所集刊』, 第114期, 131～136頁, 中央研究院近代史研究所, 2021年12月).
- ③「特徴1：政治団体(東洋文庫「日本人中国旅行記」から読み解く戦後日中・日台関係史)」(東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第3回研究会：国際シンポジウム「冷戦下における日本と中華圏の人物交流史」, オンライン開催, 2021年9月10日, [共催：三菱財団人文科学研究助成(代表：中村元哉)]).

西 英昭

- ★ https://researchmap.jp/hnishi_kyushu

野田 仁

- ★ <https://researchmap.jp/read0135901>

- ①「プロパガンダ誌『イスラミック・フラタニティ』とその後継誌をめぐる日本側の事情：ハサン波多野の役割に焦点を当てて」(小野亮介・海野典子編著『近代日本と中東・イスラーム圏：ヒト・モノ・情報の交錯から見る』, 95～126頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2022年3月).
- ③“Tribute or Foreign Relations? On Turkic Correspondence in Qing’s Diplomacy (18th–20th Centuries)”, International Workshop “Turkic: Probing the Frontiers of a Lingua Franca”, Committee for the Study of Islam in Central Eurasia, Austrian Academy of Sciences (online), 18 Nov. 2021.

蓮沼 直應

- ★ <https://researchmap.jp/naotaka.hasunuma>

馬場 英子

- ①(何彬訳)「中国民話之会簡介」(『民間文化論壇』, 2021年第4期(総第

269期), 39~43頁, 中国民間文芸家協会, 2021年7月)。

③「孫晋泰『朝鮮民族説話研究』の「説話」について」(2021年日韓共同学術会議, オンライン開催, 2021年8月20日, [要旨:「説話一覧表」付, 石井正己編『自然・災害・感染症と民俗:2021年日韓共同学術会議』, 134~144頁, 東京学芸大学, 2021年8月])。

濱本 真実

★ <https://researchmap.jp/hamamoto2015>

林 俊雄

①「忘れがたいあの一言」(『史学雑誌』, 第130編第9号, 38~40頁, 史学会, 2021年9月)。

①(解説)「西トルキスタン考古学の貴重な一書」(香山陽坪著『砂漠と草原の遺宝:中央アジアの文化と歴史(講談社学術文庫2695)』, 190~205頁, 講談社, 2021年12月)。

速水 大

★ <https://researchmap.jp/read0114948>

原山 隆広

②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展:「東洋学」の世界へようこそ(時空をこえる本の旅29)』((公財)東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆:「完史」, 「ヴェラム製アラビア語契約文書」, 「世界の鏡」, 「馬哈默伝」])。

弘末 雅士

①「東インド文学とインドネシア民族主義:植民地支配者と異なるヨーロッパ人との出会い」(『なじま』, 特別号, 63~70頁, 立教大学アジア地域研究所, 2021年6月)。

①「商業の時代:近世東南アジアをいかに理解するか」(吉澤誠一郎監修, 石川博樹ほか編著『論点・東洋史学:アジア・アフリカへの問い158』, 184~185頁, ミネルヴァ書房, 2022年1月)。

②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展:「東洋学」の世界へようこそ(時空をこえる本の旅29)』((公財)東洋文庫, 2021年, 33頁, [項

目執筆：「東インド諸島への航海」).

②『東アジアと東南アジアの近世：15～18世紀（岩波講座世界歴史第12巻）』（吉澤誠一郎，岩波書店，2022年，324頁，[責任編集，執筆担当：「近世東南アジア社会の展開」，43～72頁]）.

③「近世東南アジアの社会統合と現地人女性」（（公財）東洋文庫2021年度東洋学講座，於：（公財）東洋文庫（オンライン開催），2021年10月14日，[『東洋学報』，第103巻第3号，40～42頁，（公財）東洋文庫，2021年12月]）.

深沢 眞二

①「『鉢木』の「云かへ」としての「松は花より朧にて」」（『国語国文』，第90巻第6号，1～21頁，京都大学文学部国語学国文学研究室，2021年6月）.

①「佐藤庄司の寺，斎藤実盛が甲」（『文学・語学』，第232号，54～65頁，全国大学国語国文学会，2021年8月）.

①「三つの「きりぎりす」詠：芭蕉発句叢考」（『俳文学報：会報』，第55号，8～15頁，大阪俳文学研究会，2021年10月）.

藤井 省三

①「『淪陥期』上海で暗殺された台湾人作家：劉呐鷗」（『三田文学』，No. 145（2021年春季号），122～129頁，三田文学会，2021年4月）.

①（燕璐・王志文訳）「魯迅与劉呐鷗：「戦間期」在上海的『猺山艶史』・『春蚕』電影論争」（王晴編『日本漢学中的上海文学研究（海外亞洲漢学中的上海文学研究系列）』，141～179頁，上海遠東出版社，2021年10月）.

②『村上春樹と魯迅そして中国（早稲田新書9）』（早稲田大学出版部，2021年，260頁）.

③「魯迅与蕭伯納以及張愛玲：『傷逝』『心碎的屋 Heartbreak House』『傾城之恋』三篇里的女人們怎麼出走」（「大師對話：魯迅与蕭伯納跨時空對話」對話会，於：上海外国語大学（ハイブリッド開催），2021年10月19日，[主催：魯迅文化基金会]）.

藤本 幸夫

①「松ヶ岡文庫所蔵朝鮮本に就いて」（『公益財団法人松ヶ岡文庫研究年報』，第36号，1～14頁，松ヶ岡文庫，2022年3月）.

②『書物・印刷・本屋：日中韓をめぐる本の文化史』（勉誠出版，2021年，896頁）.

古田 和子

- ①「近代アジアにおける「西洋化」と消費」(社会経済史学会編『社会経済史学事典』, 150~151頁, 丸善出版, 2021年6月).
- ①「華僑」(社会経済史学会編『社会経済史学事典』, 446~447頁, 丸善出版, 2021年6月).
- ①「アジア貿易の再構築: 戦後冷戦構造と大阪財界の中国貿易論」(平井健介・島西智輝・岸田真編著『ハンドブック日本経済史: 徳川期から安定成長期まで』, 262~265頁, ミネルヴァ書房, 2021年12月).

古屋 昭弘

- ①(馬之涛訳)「王仁昫『切韻』与顧野王『玉篇』」(『復印報刊資料: 語言文字学』, 2021年第7期, 98~115頁, 中国人民大学書報資料中心, 2021年7月).
- ①「『賓主問答私擬』 訳注」(『人文研究』, No. 203, 229~273頁, 神奈川大学人文学会, 2021年9月).
- ③「中古音と現代音」(日本中国語学会第3回中国語学セミナー, オンライン開催, 2021年9月11日).

弁納 才一

- ①「台湾総督府『南支那及南洋情報』に見える華南農村情報」(「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって」オンラインシンポジウム, 於:(公財)東洋文庫(オンライン開催), 2021年11月28日, [主催:(公財)東洋文庫近代中国研究班]).
- ②『中国の農民は何を語ったか: 華北農村訪問聞き取り調査報告書(2007年~2019年)』(〈祁建民・田中比呂志〉, 汲古書院, 2022年, 620頁).

堀井 聡江

★ <https://researchmap.jp/fiqh>

- ②『オスマン民法典(メジュッレ)の研究: 訴訟編・人証及び法廷宣誓編・司法編』(〈大河原知樹・シャリーアと近代研究会〉, 東北大学大学院国際文化研究科大河原研究室, 2022年, 82+iii頁, [科学研究費補助金 基盤研究(B)「民法, 民事訴訟法におけるイスラーム法と中東法の国際比較研究」, 課題番号: 19H01404, 代表者: 大河原知樹]).

堀内 賢志

★ <https://researchmap.jp/khoriuchi>

堀川 徹

①「シャリーア法廷文書収集・研究プロジェクトの二〇年」(磯貝真澄・磯貝健一編『帝国ロシアとムスリムの法』, 267~273頁, 昭和堂, 2022年2月).

牧野 元紀

★ <https://researchmap.jp/mep>

②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展:「東洋学」の世界へようこそ(時空をこえる本の旅29)』((公財)東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆:「イエズス会士書簡集」, 「インドシナ中央部の旅」, 「(資料解説)解体新書」, 「(資料解説)ターヘル・アナトミア」]).

町田 隆吉

③「唐代高昌オアシス民左憧憲研究覚書」(社会文化史学会, オンライン開催, 2021年12月19日, [『社会文化史学』第66号に掲載予定]).

松井 太

★ <https://researchmap.jp/dmatsui>

③“Old Uigur Administrative Orders and Taxation Practice in Turfan”, Workshop “Everyday Life on the Silk Road”, the Academy Project “Turfan Studies”, Berlin-Brandenburg Academy of Sciences and Humanities (online), 9 Sep. 2021.

③“Old Uigur Administrative Orders and the Turfan Uigur Society” (北京大学歴史学系邀請海外專家演講, オンライン開催, 2021年10月11日).

③“An Old Uighur Wall Inscription by Discontented Monks of Qočo”, the Second International Codicological Conference “Oriental Manuscripts: Scriptoria, Monastic Libraries and Book Workshops in the East in the Middle Ages”, Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences, St. Petersburg, 15 Nov. 2021.

松重 充浩

③「大連日本人社会における「華中・華南」情報: 総合雑誌『満蒙』を事

例として」(「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって」オンラインシンポジウム, 於:(公財)東洋文庫(オンライン開催), 2021年11月28日, [主催:(公財)東洋文庫近代中国研究班]).

松永 泰行

★ <https://researchmap.jp/read0139255>

松村 史穂

★ <https://researchmap.jp/1120>

①「糧食統購統銷制度下の農村幹部と農民：及其農業集体化之路」(公益財団法人東洋文庫超域亜州研究部門現代中国研究班主編『集体化時代の中国：日中共同研究(東洋文庫論叢第84)』, 249～278頁, (公財)東洋文庫, 2021年9月).

松村 史紀

①「強制と自主独立の間：日本共産党「軍事方針」をめぐる国際環境(1949～55)(6)」(『宇都宮大学国際学部研究論集』, 第52号, 89～110頁, 宇都宮大学国際学部, 2021年9月).

①「強制と自主独立の間：日本共産党「軍事方針」をめぐる国際環境(1949～55)(7)」(『宇都宮大学国際学部研究論集』, 第53号, 81～102頁, 宇都宮大学国際学部, 2022年2月).

③「スプートニク事件をめぐる中国の報道：東西体制間競争と科学技術政策」(スプートニク科学研究会, 於：スプートニク科学研究会(オンライン開催), 2021年8月18日, [科学研究費補助金基盤研究(B)「冷戦期科学技術政策の変容に関する国際比較研究：スプートニク事件を転換点として」, 課題番号：19H01456, 研究代表者：松村史紀]).

丸川 知雄

★ <https://researchmap.jp/read0076925>

①「計画経済下の中国における孤立社会：「上海小三線」における生産と生活」(『アジア研究』, 67巻2号, 21～37頁, アジア政経学会, 2021年4月).

②『タバコ産業の政治経済学：世界的展開と中国の現状』(李海訓・徐一睿・河野正), 昭和堂, 2021年, 260頁).

②『現代中国経済 新版』(有斐閣, 2021年, 398頁).

三浦 徹

- ② (共訳) アイラ・M. ラピダス著『イスラームの都市社会：中世の社会ネットワーク』(〈太田啓子〉, 岩波書店, 2021年, 350頁).

水野 善文

- ② 『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展：「東洋学」の世界へようこそ (時空をこえる本の旅29)』((公財) 東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆：「妙法蓮華経」, 「ウプネカット」]).
- ③ 「インド古典にみる異類婚姻譚：書承に「語り」を探って」(日本民話の会外国民話研究会, オンライン開催, 2021年9月19日).

三田 昌彦

- ① “North Indian Medieval Fort History Study”, *Impact*, Vol. 2021, No. 4, pp. 44–45, Bristol: Science Impact, May. 2021, [<https://doi.org/10.21820/23987073.2021.4.44>].
- ① 「ラージャスターン地方の城砦・城郭都市：中世から続くインドの町」(宮本久義・小西公大編著『インドを旅する55章 (エリア・スタディーズ183)』, 265～270頁, 明石書店, 2021年6月).
- ① 「インドの王権と国家：前近代インドの王権をいかに見るか」(吉澤誠一郎監修, 石川博樹ほか編著『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』, 102～103頁, ミネルヴァ書房, 2022年1月).
- ① 「前近代南アジアの長期的展開 (前5世紀～15世紀)：開発と帝国システムの転換」(藤田幸一・大石高志・小茄子川歩編著『「南アジア地域研究」京都大学中心拠点研究グループ1 成果最終報告集：南アジアの人口・資源・環境』, 43～73頁, 人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「南アジア地域研究」京都大学中心拠点・研究グループ1, 2022年3月).
- ③ 「中世南アジアの時空間：ユーラシア世界とのグローバルな関係の展開」(KINDAS主催南アジアセミナー2021, オンライン開催, 2021年9月6日).

三谷 博

- ★ <https://researchmap.jp/h.mitani.cs>

峰 毅

- ①「農村工業：肥料・セメント工業からみた「五小工業」政策」(中兼和津次編『毛沢東時代の経済：改革開放の源流をさぐる』, 227～253頁, 名古屋大学出版会, 2021年7月).
- ③“A Historical Analysis of the Coal Liquefaction Technology Development in China”, Scholars International Conference on Frontiers in Chemistry and Drug Discovery “Chemistry Frontiers 2021: Frontiers in Chemistry and Drug Discovery”, online, 26 Aug. 2021.

御牧 克己

- ①“A Note on the Stages of the Peking bKa’ ’gyur Edition”, Volker Caumanns, Jörg Heimbels, Kazuo Kano, and Alexander Schiller eds., *Gateways to Tibetan Studies: A Collection of Essays in Honour of David P. Jackson on the Occasion of his 70th Birthday*, Vol. 2 (Indian and Tibetan Studies 12.2), pp. 685–699, Department of Indian and Tibetan Studies, Universität Hamburg, Sep. 2021.

宮 紀子

- ★ <https://researchmap.jp/read0193036>

宮崎 修多

- ①「浅野文庫資料紹介 (六)：嘉永六年「江戸表一大事」の報」(『能』, 通巻758号, 6～7頁, 京都観世会, 2021年7月).
- ①「京都観世会浅野文庫解題目録」(〈大谷節子・家原彰子・高橋葉子・中尾薫ほか3名〉, 大谷節子編著『謡の家の軌跡：浅野太左衛門家基礎資料集成 (研究叢書543)』, 199～463頁, 和泉書院, 2022年3月).

宮崎 展昌

- ★ https://researchmap.jp/tensho_miyazaki
- ③「『大正新脩大藏経』底本・校本データベース, 西蓮社 (旧増上寺報恩蔵) 蔵嘉興版大藏経目録データベース」(〈會谷佳光〉, 「奈良朝勅定一切経」の総合的研究」令和3年度第2回共同研究会, 於：国際仏教学大学院大学 (ハイブリッド開催), 2021年9月25日).
 - ③「Web アプリケーションフレームワークを利用した大乘經典諸本対照サイトの構築：今後の課題と構想も含めて」(東洋文庫研究データベース会

議，於：（公財）東洋文庫（オンライン開催），2022年2月24日）。

宮脇 淳子

- ①「昭和12年のモンゴルと徳王」（『昭和12年研究』，創刊号，153～185頁，昭和12年学会，2021年9月）。
- ①“Tibetan Buddhism and Nomadic Mongolian Regimes”，Oliver Corff ed., *Religion and State in the Altaic World: Proceedings of the 62nd Annual Meeting of the Permanent International Altaistic Conference (PIAC), Friedensau, Germany, August 18–23, 2019* (Studien zur Sprache, Geschichte und Kultur der Turkvölker, Vol. 32), pp. 143–152, Berlin/Boston: De Gruyter, Feb. 2022.
- ②『世界史のなかの蒙古襲来：モンゴルから見た高麗と日本（扶桑社新書418）』（扶桑社，2021年，301頁）。
- ②『リバタリアンとは何か』（〈江崎道朗・渡瀬裕哉・倉山満〉，藤原書店，2022年，288頁）。
- ③「1937年の満蒙：満洲国と4つに分かれたモンゴル人地域」（昭和12年学会第3回研究発表大会，於：ベルサール神保町，2021年9月5日）。

村井 章介

- ①「種子島からたどる中世日本，そして世界」（『史海』，第67号，1～12頁，東京学芸大学史学会，2021年6月）。
- ①「鎌倉北条氏と南宋禅林：渡海僧無象静照をめぐる人びと」（鹿毛敏夫編『交錯する宗教と民族：交流と衝突の比較史（アジア遊学257）』，8～34頁，勉誠出版，2021年7月）。
- ①「『看聞日記』人名考証三題」（『日本歴史』，2021年11月号（第882号），18～31頁，日本歴史学会，2021年11月）。
- ①「『看聞日記』の引用表現について」（『古文書研究』，92号，76～89頁，日本古文書学会，2021年12月）。
- ②『対外交流史（新体系日本史5）』（〈荒野泰典〉，山川出版社，2021年，520頁）。

村上 衛

- ①書評「蒲豊彦『闘う村落：近代中国華南の民衆と国家』」（『歴史学研究』，No. 1016（2021年11月号），73～76頁，歴史学研究会，2021年11月）。
- ①「『士大夫』から華人へ：清代後期同安県の寺廟に対する寄付事例より」

(『東方学報』, 第96冊, 344～294頁, 京都大学人文科学研究所, 2021年12月).

①書評「佐藤淳平著『近代中国財政史:「外省」から「地方」へ』」(『法制史研究』, 71号, 286～291頁, 法制史学会, 2022年3月).

③趣旨説明「転換期中国・インドにおける資源配分:土地・労働力・航運」(社会経済史学会第90回全国大会パネルディスカッション, 於:神戸大学(オンライン開催), 2021年5月16日).

③「中国近代経済制度史:以海洋史和内地商品的流通为中心」(武漢大学歴史学院学術講座, 於:武漢大学歴史学院(ハイブリッド開催), 2022年3月29日).

村田 雄二郎

★ <https://researchmap.jp/murata1957>

①インタビュー「近現代中国史研究の魅力:「大清帝国展 完全版」によせて」(『東洋見聞録』, 第30号, 8～11頁, (公財)東洋文庫, 2021年4月).

①「前言」,「後記」(公益財団法人東洋文庫超域亜州研究部門現代中国研究班主編『集体化時代の中国:日中共同研究(東洋文庫論叢第84)』, i～ii頁, 590頁, (公財)東洋文庫, 2021年9月).

②『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展:「東洋学」の世界へようこそ(時空をこえる本の旅29)』((公財)東洋文庫, 2021年, 33頁, [項目執筆:「順天時報」]).

③「東洋文庫「現代中国研究班」の研究活動」(東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班「国際関係・文化グループ」2021年度第1回研究会:東洋文庫現代中国研究班・国立国会図書館関西館合同企画「新たな現代中国研究の推進:国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって」, 於:(公財)東洋文庫(オンライン開催), 2021年4月17日).

毛里 和子

①書評「熊倉潤著『民族自決と民族団結:ソ連と中国の民族エリート』」(『アジア研究』, 67巻3号, 46～53頁, アジア政経学会, 2021年7月).

①「和解学への期待」(浅野豊美編『和解学の試み:記憶・感情・価値(和解学叢書1 原理・方法)』, 126～132頁, 明石書店, 2021年8月).

①書評「中兼和津次著『毛沢東論:真理は天から降ってくる』」(『中国研究月報』, 第76巻第3号(第889号), 18～23頁, 中国研究所, 2022年3月).

- ②『現代中国：内政と外交』（名古屋大学出版会，2021年，240頁）。
- ②『中国はどこへ向かうのか：国際関係から読み解く（FUKUOKA U ブックレット22）』（弦書房，2021年，96頁）。

本野 英一

- ①書評「中国庶民の目で見た「改革開放」体制の現状と未来：フランク・ラングフィット著／園部哲訳『上海フリータクシー：野望と幻想を乗せて走る「新中国」の旅』（『東方』，481号，24～27頁，東方書店，2021年6月）。
- ③「イギリス人の目から見た「中国屈辱の百年」の始まり：イギリス外務省記録（FO17）からどのようなことが明らかにできるのか」（センゲージラーニング株式会社 Gale オンラインセミナー，オンライン開催，2021年9月3日）。

榎山 明

- ②『増補新版 漢帝国と辺境社会：長城の風景（志学社選書006）』（志学社，2021年，288頁）。

守川 知子

- ①「隔離される巡礼者たち：シエラ派聖地巡礼と検疫制度の近代」（『歴史学研究』，No. 1011（2021年7月号），26～37頁，歴史学研究会，2021年7月）。
- ①「西アジアの「ねずみ」をめぐる文化誌」（『BIOSTORY』，Vol. 36，46～53頁，生き物文化誌学会，2021年12月）。
- ①「イスファハーンの歴史的墓地にみる都市と墓地の空間構造」（山田重郎編『科研費新学術領域研究 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 4 研究成果報告2021年度』，205～216頁，筑波大学人文社会系西アジア文明研究センター，2022年3月，[科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」，課題番号：5001，研究代表者：山田重郎]）。
- ①「聖都アルダビールとサファヴィー朝下のサフィー廟」（渡部良子責任編集『サファヴィー朝祖廟と廟不動産目録：財の運営から見るイスラーム聖者廟（アジア・アフリカ言語文化研究 別冊 No. 01）』，213～230頁，東京外

国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2022年3月）。

②『都市からひもとく西アジア：歴史・社会・文化（アジア遊学264）』（勉誠出版，2021年，272頁）。

森安 孝夫

①「前近代中央ユーラシアのトルコ・モンゴル族とキリスト教」（『帝京大学文化財研究所研究報告』，第20集，5～39+巻頭2頁，帝京大学文化財研究所，2021年10月）。

①「胡姫はペルシア人ではなくソグド人の女性」（『EURO-NARASIA Q』，Vol. 21，4～15頁，奈良県立大学ユーラシア研究センター事務局，2022年3月）。

②『シルクロードの旅展（時空をこえる本の旅30）』（（公財）東洋文庫，2022年，29頁，[監修]）。

③「ユーラシア世界史の潮流とシルクロードの手紙文書」（第252回情報通信国際交流会講演会，於：学士会館，2021年12月16日）。

矢島 洋一

①「運ぶラクダ，運ばれるラクダ」（『月刊大和路ならら』，2021年6月号（273号），28～29頁，なら文化交流機構，2021年6月）。

①「『ハヤサーティー史』におけるジュナイド」（渡部良子責任編集『サファヴィー朝祖廟と廟不動産目録：財の運営から見るイスラーム聖者廟（アジア・アフリカ言語文化研究別冊 No. 01）』，167～180頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2022年3月）。

③「完全人間としてのムスリム君主」（イスラーム信頼学 A02班「イスラームの知の変換」・B01班「イスラーム共同体の理念と国家体系」共催ワークショップ「イスラームの知の展開とコネクティビティ」，オンライン開催，2021年7月18日，[科学研究費補助金 学術変革領域研究（A）「イスラームの知の変換」，課題番号：20H05825，研究代表者：野田仁，科学研究費補助金 学術変革領域研究（A）「イスラーム共同体の理念と国家体系」，課題番号：20H05827，研究代表者：近藤信彰]）。

③「離婚に関するファトワー文書」（第20回中央アジア古文書研究セミナー，於：京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター羽田記念館（ハイブリッド開催），2022年3月26日，[科学研究費補助金 基盤研究（B）「近代中央アジアのムスリム家族とイスラーム法の社会史的研究」，

課題番号：18H00706, 研究代表者：磯貝健一)].

柳澤 明

★ <https://researchmap.jp/read0205454>

① 「アムール上流域調査：アルバジンとスタノヴォイ山脈（2004年8月）」（細谷良夫編著『清朝の史跡をめぐってⅡ：アムール流域篇』，125～142頁，（公財）東洋文庫，2022年3月）。

① 「ザバイカル調査：ネルチンスクとウラン・ウデ（2005年8月）」（細谷良夫編著『清朝の史跡をめぐってⅡ：アムール流域篇』，143～163頁，（公財）東洋文庫，2022年3月）。

柳谷 あゆみ

★ <https://researchmap.jp/yanagiya>

矢吹 晋

① 「チャイナウオッチは終わらない：二十一世紀の和魂漢才を」（『経友』，212号，108～111頁，東京大学経友会，2022年2月）。

① 「歴史決議の舞台裏を読む」（『善隣』，No. 522（通巻789），19～27頁，国際善隣協会，2022年2月）。

② 『天皇制と日本史：朝河貫一から学ぶ』（集広舎，2021年，692頁）。

山内 民博

① 「朝鮮新式戸籍関連資料の基礎的研究（4）：国立歴史民俗博物館所蔵1906年平安南道孟山郡外南面戸籍」（『環日本海研究年報』，第27号，103～116頁，新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室，2022年3月）。

山口 元樹

★ <https://researchmap.jp/SalembaBluntas119B>

山本 英史

① 「中国接客談議」（『三田文学』，No. 145（2021年春季号），196～199頁，三田文学会，2021年4月）。

① （韓靖訳）「『自封投櫃』考」（『燕大法学教室』，第3期，147～161頁，（台北）元照出版，2021年9月）。

- ②『郷役と溺女：近代中国郷村管理史研究（汲古叢書169）』（汲古書院，2021年，524頁）。
- ③「溺女と間引き：嬰兒殺し対策の日中比較論」（2021年度慶應義塾中国文学会第6回大会，於：慶應義塾大学（オンライン開催），2021年7月10日）。

山本 真

- ①“Armed Associations, Christianity, Opium, and the Social Structure of the Xinghua Region in Fujian Province during the Early Republican Period, with a Focus on Huang Lian’s Revolt”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 79, pp. 35–66, The Toyo Bunko, 2021.
- ①「（動向）文化：歴史学」（〈青山治世〉，中国研究所編『中国年鑑2021』，228～230頁，明石書店，2021年5月）。
- ③「戦時期の華南調査について：福建・広東を中心に」（「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって」オンラインシンポジウム，於：（公財）東洋文庫（オンライン開催），2021年11月28日，[主催：（公財）東洋文庫近代中国研究班]）。

湯浅 剛

- ①「ロシア：政治的分断の構造と再協調への課題」（岡部みどり編著『世界変動と脱EU／超EU：ポスト・コロナ，米中覇権競争下の国際関係』，229～246頁，日本経済評論社，2022年2月）。
- ③「体制移行と政軍関係：中央アジア・カザフスタンを事例に」（2021年度日本比較政治学会（第24回大会）分科会D「権威主義体制における民主的制度と軍」，於：慶應義塾大学（オンライン開催），2021年6月26日）。

吉澤 誠一郎

- ★ <https://researchmap.jp/yoshizawaseiichiro>
- ③「日本語ガイドブックに見る華北・華中・華南」（「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって」オンラインシンポジウム，於：（公財）東洋文庫（オンライン開催），2021年11月28日，[主催：（公財）東洋文庫近代中国研究班]）。

吉田 建一郎

- ①「昭和高等商業学校の主要刊行物と記事目録」（『大阪経大論集』，第72巻

第3号, 235~240頁, 大阪経大会, 2021年9月).

① (翻訳) 高超群著「中国企業史研究の概況とフロンティア：企業制度を中心として」(『経済史研究』, 第25号, 137~160頁, 大阪経済大学日本経済史研究所, 2022年1月).

③「兩次大戦之間的華中茶葉貿易和日文資料」(2021年中国歴史地理学国際学術研討会, 於:復旦大学(オンライン開催), 2021年7月17日).

③「戦間期華中の茶貿易に関する日本の認識」(『東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって』オンラインシンポジウム, 於:(公財)東洋文庫(オンライン開催), 2021年11月28日, [主催:(公財)東洋文庫近代中国研究班]).

吉田 豊

① (山本孝子訳)「中原・吐魯番以及索格底亜那的粟特人景教徒：大谷探險隊所獲西域文化資料2497所提出的問題」(劉進宝主編『絲路文明』, 第6輯, 167~186頁, 上海古籍出版社, 2021年11月).

①「イラン語文獻に見えるシルクロードの女性の生活：シルクロード交易と関連して」(『EURO-NARASIA Q』, Vol. 21, 16~29頁, 奈良県立大学ユーラシア研究センター事務局, 2022年3月).

吉水 清孝

①“Mīmāṃsā”, *The Encyclopedia of Philosophy of Religion*, John Wiley and Sons (online), Nov. 2021, [<https://doi.org/10.1002/9781119009924.eopr0243>].

①“Prabhākara and Jayanta’s Prābhākara Opponent on Vedic Enjoinment (Niyoga)”, *Journal of Indological Studies*, Numbers 32 & 33, pp. 91–144, Association for the Study of the History of Indian Thought, Dec. 2021.

①“Jaimini, Bādari, and Bādārāyaṇa in the *Mīmāṃsāsūtra* and the *Brahmasūtra*”, Vincent Eltschinger, Brigit Kellner, Ethan Mills, and Isabelle Ratié eds., *A Road Less Travelled. Felicitation Volume in Honor of John Taber* (Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 100), pp. 505–540, Arbeitskreis für tibetische und buddhistische Studien Universität Wien, Mar. 2021.

①“Arthāpatti in Kumārila’s Tantravārttika”, Peter M. Scharf ed., *Śabdānugamaḥ: Indian Linguistic Studies in Honor of George Cardona*, Volume 2: *Historical Linguistics, Vedic, etc.*, pp. 489–522, Providence, R.I.: The Sanskrit Library, Feb. 2022.

② *Kumārila on How to Denounce Buddhism as a Heresy in Terms of the Sources of Dharma* (RINDAS Series of Working Papers 38), Kyoto: The Center for South Asian Studies, Ryukoku University (RINDAS), 2022, 87p.

吉水 千鶴子

★ <https://researchmap.jp/Cyoshimizu>

吉村 武典

★ <https://researchmap.jp/mamluk1250>

六反田 豊

① 「朝鮮時代の国家財政と経済変動」(弘末雅士・吉澤誠一郎責任編集『東アジアと東南アジアの近世：15～18世紀(岩波講座世界歴史第12巻)』, 247～266頁, 岩波書店, 2022年3月).

② 『一冊でわかる韓国史』(河出書房新社, 2021年, 256頁, [監修]).

③ 「일본 대학의 한국사 연구 및 교육 동향(日本の大学における韓国史の研究および教育動向)」(한국학중앙연구원 2021년 한국학국제학술회의 「동북아시아 지역의 한국학 연구·교육 동향」(韓国学中央研究院2021年韓国学国際学術会議「東北アジア地域の韓国学研究・教育動向」), 於: 韓国学中央研究院(韓国城南市, 하이브리드開催), 2021年10月14日).

IV 普及・展示事業

1. 展示

広く一般の方々を対象に、東洋学の普及を図る手段として「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

A. 基本方針

このミュージアムでは、東洋学に馴染みのない一般の方々を主な対象とし、幅広い世代の利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供する。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・資料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

B. 展示手法

広く一般の方々に東洋文庫とその蔵書・資料の魅力を伝えるため、①見学に適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる平易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示を心がけた。

C. 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期した。また、併設のミュージアムショップ「マルコ・ポーロ」、レストラン「オリエント・カフェ」では、東洋文庫の刊行物を販売・紹介し、利用者への東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムとの一体施設として運営した。

D. 展示スケジュール

企画展と名品展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、以下の展覧会を開催した。

- (1) 2021年度は、同年1月末から開幕した『大清帝国展 完全版』をはじめ4つの展覧会を開催した。緊急事態宣言の発出に伴い、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月26日から6月1日まで臨時休館の措置をとった。これにより、当初予定していた会期が一部変更となった。また、三菱創業150周年記念事業として、三菱一号館美術館・静嘉堂・東洋文庫の共催で『三菱の至宝展』を開催し、東洋文庫の厳選した所蔵品、約40点を丸の内の三菱一号館美術館にて展示した（会期：2021年6月30日～9月12日）。

〈企画展〉

①『大清帝国展 完全版』

会期：2021年1月27日～4月25日

※当初の1月27日～5月16日の日程から変更

②『江戸から東京へ：地図にみる都市の歴史』

会期：2021年6月2日～9月26日

※当初の5月26日～9月26日の日程から変更

③『ミュージアム開館10周年記念 東洋文庫名品展：「東洋学」の世界へようこそ』

会期：2021年10月6日～2022年1月16日

④『シルクロードの旅』展

会期：2022年1月26日～5月15日

〈名品展〉

『記録された記憶：東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』

- (2) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで図版を多用し、解説文も平易で読みやすいものに仕上げた。A5版でハンディなブックレットタイプである。

E. 入場者数

2021年4月1日～2022年3月31日におけるミュージアム総入場者数は、以下のとおりである。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入場者数	2,110	0	1,662	2,803	2,162	4,051
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2,282	3,889	4,386	3,112	2,254	3,458	32,169

2. 広報普及

東洋文庫所蔵の図書・資料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応するとともに、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。幅広い層への東洋学の普及を目指し、地域および学校との連携活動も行った。

A. 報道実績

ミュージアムに関する主な報道実績を以下に挙げる（50音順）。

新聞：『朝日新聞』、『紙之新聞』、『中外日報』、『日本経済新聞』、『読売新聞』など

テレビ：NHK BSプレミアム『紫禁城 中国“最強”皇帝の秘めたる園』、BS日テレ『ぶらぶら美術・博物館』など

ラジオ：TBSラジオ『安住紳一郎の日曜天国』など

インターネット動画配信：ニコニコ動画『ニコニコ美術館』など

B. 『東洋見聞録』

東洋文庫の活動をご支援いただいている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員OBほか関係者をつなぐニュースレターとして、第30号～第32号を発行・頒布した。

C. メールニュース

東洋文庫ミュージアムのメールニュースをメール会員向けに毎月発信した。

D. 中学・高校・大学とのミュージアム・フリーパス連携

- ・東京都立小石川中等教育学校とのスクールパートナーシップを引き続き締結した。
- ・青山学院大学文学部史学科・大学院文学研究科史学専攻、東洋大学文学部・大学院文学研究科、昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科および日本語日本文学科とのキャンパスパートナーシップを引き続き締結した。
- ・今年度より、広尾学園小石川中学校・高等学校と新たにスクールパートナーシップを締結した。

E. 学習支援事業

- ①東京藝術大学との協力協定により、同学彫刻科の卒業作品から1作品を選出して「東洋文庫賞」を授与し、東洋文庫敷地内のシーボルト・ガルテンにて作品を展示した。
- ②昭和女子大学との「東洋文庫 Student Internship Program」により、9月20日～9月28日の期間で、同学の学生4名をインターンとして受け入れた。
- ③キャンパスパートナーシップを結んでいる大学の学生を学芸員実習生として受け入れた。参加者は、8月26日～9月3日に昭和女子大学から3名、12月1日～12月9日に東洋大学から2名、12月14日～12月22日に青山学院大学から3名。
- ④筑波大学附属視覚特別支援学校の中学3年生2名に「図書部の仕事」の職場体験を実施した（12月3日）。
- ⑤広尾学園小石川中学校・高等学校の学生に、展示解説ビデオでの事前学習後、ミュージアム見学を実施した。参加者は、12月8日に中学生40名、12月17日に高校生11名、1月11日（休館日）に中学生80名。

F. 成蹊大学との連携講座

成蹊大学との連携講座として、2021年度後期に文学部総合講義を担当した（オンライン授業）。ミュージアムの展示やデータベース・出版物を通じた研究成果の発信などの活動を紹介し、学生が東洋文庫の諸活動の意義について理解を深め、アジアの歴史・文化への関心を高める機会を設けた。2022年度も引き続き東洋文庫の諸活動を紹介する講座を担当する。

G. 文京区向けの普及活動

加盟している「文の京ミュージアムネットワーク（文京区主催）」による文京ミュージックフェスタ（各施設による展示、PRポスター・パネル等の掲示）に参加した。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、チラシの配架のみとなった（12月16日～12月18日、於：文京シビックセンター1階）。

H. 東洋文庫アカデミア

東洋文庫研究員をはじめとする各分野の専門家が講師となり、所蔵資料やこれまでの研究成果などの専門知識をわかりやすく教授する市民向け講座を、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで実施した。

講座名	講師（所属・職名）	期間	回数	人数
「盛世滋生図」から読み解く清代都市の暮らしと経済	相原 佳之 （東洋文庫研究員）	2021年4月28日・ 5月12日	2	6
大清帝国の終焉と“中国のモリソン”	濱下 武志 （東洋文庫研究員）	2021年5月1日・ 5月8日	2	15
大清帝国と感染症：天花とその傷痕	多々良 圭介 （東洋文庫奨励研究員）	2021年8月18日・ 8月25日	2	10
中国医学史散策：黄帝の〈治療世界〉	角屋 明彦 （明治大学非常勤講師）	2021年9月4日 ～9月18日	3	39
モンゴル帝国から大清帝国へ	宮脇 淳子 （東洋文庫研究員）	2021年9月18日 ～12月4日	6	50
聖獣グリフィンの誕生と伝播	林 俊雄 （東洋文庫研究員）	2021年9月22日 ～10月27日	5	13
歴史から神仙と妖怪の物語へ：『封神演義』の成立と展開	中塚 亮 （東洋文庫奨励研究員）	2021年10月9日・ 10月23日	2	13

V 業 務 報 告

1. 総務報告

A. 会議事項

(1) 理事会

2021年度第1回通常理事会 開催日 2021年6月2日(水曜日)

出席者 杉浦康之、斯波義信、濱下武志、平野健一郎、高田時雄、
L. グローブ、畔柳信雄、福澤 武、森安孝夫、柳井秀朗

2021年度第1回臨時理事会 開催日 2021年6月18日(金曜日)

出席者 畔柳信雄、杉浦康之、斯波義信、濱下武志、平野健一郎、
高田時雄、L. グローブ、佐々木幹夫、宮永俊一、森安孝夫、
柳井秀朗

2021年度第2回通常理事会(書面決議) 開催日 2022年2月2日(水曜日)

書面承認者 畔柳信雄、杉浦康之、斯波義信、濱下武志、平野健一郎、
高田時雄、L. グローブ、佐々木幹夫、榎屋友子、宮永俊一、
森安孝夫、柳井秀朗

(2) 評議員会

2021年度定時評議員会 開催日 2021年6月18日(金曜日)

出席者 荒蒔康一郎、梅村 坦、草原克豪、高見澤磨、東條和彦、
羽田 正、山家浩樹、吉永元信

(3) 東洋学連絡委員会

前期(オンライン会議) 開催日 2021年5月14日(金曜日)

出席者 斯波義信、中見立夫、間野英二、御牧克己、森安孝夫
議 題 1. 2020年度公益財団法人東洋文庫事業報告書について

後期（オンライン会議） 開催日 2022年1月13日（木曜日）

出席者 畔柳信雄、斯波義信、中見立夫、森本公誠、森安孝夫、
吉田順一

議 題 1. 東洋学連絡委員会「監査担当委員」の新設について

議 題 2. 2022年度公益財団法人東洋文庫事業計画について

議 題 3. 東洋文庫の運営体制全般に関する提言・意見交換

B. 総務・広報事項

「三菱デジタルライブラリー」（三菱広報委員会）への収藏品映像展示、「マンスリーみつびし」への収藏品掲載、文京区関係広報誌等への掲載協力を行ったほか、各種メディアを通じて広報普及活動を図った。

C. 設備・営繕事項

2011年の新館竣工時より保管していた、旧館の電気系統廃材（PCB廃棄物）の処理が完了した。また、7階研究室書架の耐震対策を実施した。このほか、老朽化した設備（空調・電動書架・水回りなど）の修繕を順次行った。

2. 人事報告

A. 役員等異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2021. 6.18	理事長	畔柳 信雄	就任	
〃	理事	福澤 武	退任	
〃	〃	佐々木 幹夫	委嘱	
〃	〃	榭屋 友子	〃	
〃	〃	宮永 俊一	〃	
〃	評議員	久保 正彰	退任	
〃	〃	瀬谷 博	〃	
〃	〃	高見澤 磨	〃	
〃	〃	東條 和彦	〃	
〃	〃	増田 信行	〃	
〃	〃	山家 浩樹	〃	
〃	〃	稲葉 穰	委嘱	
〃	〃	大宮 英明	〃	
〃	〃	木村 惠司	〃	
〃	〃	島村 琢哉	〃	
〃	〃	高橋 昭雄	〃	
〃	〃	林 佳世子	〃	
〃	〃	本郷 恵子	〃	
2021.10.12	理事	中根 千枝	逝去	

B. 職員・研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2021. 4. 1	研究員	伊藤 博	委嘱	
〃	〃	金沢 陽	〃	
〃	〃	金 鳳 珍	〃	
〃	〃	黒田 卓	〃	
〃	〃	早乙女 雅博	〃	

年月日	役 職 名	氏 名	区分	備 考
2021. 4. 1	研 究 員	関 尾 史 郎	委嘱	
〃	〃	田 中 仁	〃	
〃	〃	鶴 間 和 幸	〃	
〃	〃	萩 田 博	〃	
〃	〃	堀 川 徹	〃	
〃	〃	三 浦 徹	〃	
〃	〃	三 谷 博	〃	
〃	〃	山 内 弘 一	〃	
〃	〃	吉 村 慎太郎	〃	
〃	研究員(兼任)	久 保 亨	〃	
〃	研究員(嘱託)	片 倉 鎮 郎	〃	
2021. 4. 3	研 究 員	武 内 紹 人	逝去	
2021. 4.30	嘱 託 職 員	丹 藤 真 子	退職	
2021. 5.18	研究員(兼任)	林 佳世子	退任	
2021. 5.19	研 究 員	山 口 瑞 鳳	〃	
2021. 5.24	研究員(奨励)	衛 藤 安 奈	委嘱	
〃	〃	魏 郁 欣	〃	
〃	〃	蓮 沼 直 應	〃	
〃	〃	速 水 大 夫	〃	
2021. 6.23	研 究 員	細 谷 良 夫	逝去	
2021. 6.30	図書部課長・ 研究員(職員)	瀧 下 彩 子	退職	
2021. 7. 1	図書部課長	會 谷 佳 光	兼務	
〃	研究部課長	相 原 佳 之	就任	
〃	研究員(嘱託)	瀧 下 彩 子	委嘱	
2021. 8. 4	研 究 員	武 田 幸 男	逝去	
2021. 9. 1	研究員(嘱託)	清 水 信 子	委嘱	
2021. 9.22	研 究 員	松 村 潤	逝去	
2021. 9.30	参 事	橘 伸 子	退職	
2021. 9.	研 究 員	北 村 文 夫	逝去	
2021.11. 1	〃	原 實	〃	
2022. 1.31	研究員(嘱託)	清 水 信 子	退任	

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2022. 2. 1	研究員(職員)	清水 信子	就職	次年度より客員
2022. 3. 3	研究員	後藤 明	逝去	
2022. 3.31	〃	本庄 比佐子	退任	
〃	研究員(嘱託)	瀧下 彩子	〃	
〃	研究員(奨励)	衛藤 安奈	〃	

C. 客員研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2021. 4. 1	研究員(客員)	小澤 一郎	委嘱	次年度より専任
〃	〃	加島 潤	〃	
〃	〃	木越 義則	〃	
〃	〃	河野 正	〃	
〃	〃	町田 隆吉	〃	
〃	〃	松村 史穂	〃	
2021. 5. 19	〃	林 佳世子	〃	
2021.11. 2	〃	家永 真幸	〃	
〃	〃	岩尾 一史	〃	
〃	〃	古泉 達矢	〃	
〃	〃	宮 紀子	〃	
2022. 3. 31	〃	飯島 明子	退任	
〃	〃	佐藤 宏	〃	
〃	〃	片山 章雄	〃	

3. 会計報告

貸 借 対 照 表

2022年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	62,978,439	42,374,065	20,604,374
定期預金	80,000,000	70,900,000	9,100,000
未収収益	4,715,983	4,757,052	△ 41,069
未収金	798,469	696,551	101,918
商品	7,541,973	11,745,202	△ 4,203,229
前払費用	1,216,510	1,216,520	△ 10
流動資産合計	157,251,374	131,689,390	25,561,984
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
図書資料	3,583,541	3,583,541	0
基本財産合計	3,583,541	3,583,541	0
(2) 特定資産			
土地	110,494	110,494	0
建物	1,746,008,184	1,837,788,350	△ 91,780,166
構築物	53,135,942	64,918,312	△ 11,782,370
什器備品	94,822,357	116,202,292	△ 21,379,935
図書資料	1,524,975,997	1,495,323,662	29,652,335
ソフトウェア	72,000	115,200	△ 43,200
事業運営積立資産	2,871,699,093	2,815,905,733	55,793,360
退職給付引当資産	60,117,806	73,142,063	△ 13,024,257
建物設備修繕引当資産	315,960,688	303,315,117	12,645,571
PCB引当資産	0	1,100,000	△ 1,100,000
斯波研究奨励金	25,501,415	27,503,051	△ 2,001,636
横原研究奨励金	20,000,000	0	20,000,000
特定資産合計	6,712,403,976	6,735,424,274	△ 23,020,298
(3) その他固定資産			
構築物	76,212	83,037	△ 6,825
什器備品	5,029,401	4,733,933	295,468
ソフトウェア	1,544,586	1,379,250	165,336
電話加入権	364,000	364,000	0
その他固定資産合計	7,014,199	6,560,220	453,979
固定資産合計	6,723,001,716	6,745,568,035	△ 22,566,319
資産合計	6,880,253,090	6,877,257,425	2,995,665

II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	7,618,875	7,895,034	△ 276,159
預り金	6,037,525	10,364,867	△ 4,327,342
賞与引当金	8,466,338	9,406,426	△ 940,088
流動負債合計	22,122,738	27,666,327	△ 5,543,589
2. 固定負債			
退職給付引当金	60,117,806	73,142,063	△ 13,024,257
PCB引当金	0	1,100,000	△ 1,100,000
固定負債合計	60,117,806	74,242,063	△ 14,124,257
負債合計	82,240,544	101,908,390	△ 19,667,846
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	2,159,916,456	2,268,117,010	△ 108,200,554
補助金	427,142,202	397,442,155	29,700,047
分担金	40,520,413	40,520,413	0
固定資産受贈額	26,800,538	25,541,577	1,258,961
指定正味財産合計	2,654,379,609	2,731,621,155	△ 77,241,546
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(2,654,379,609)	(2,731,621,155)	(△77,241,546)
2. 一般正味財産	4,143,632,937	4,043,727,880	99,905,057
(うち基本財産への充当額)	(3,583,541)	(3,583,541)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(3,997,906,561)	(3,929,561,056)	(68,345,505)
正味財産合計	6,798,012,546	6,775,349,035	22,663,511
負債及び正味財産合計	6,880,253,090	6,877,257,425	2,995,665

正 味 財 産 増 減 計 算 書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	34,994,727	34,052,119	942,608
受取寄付金	309,777,380	307,652,507	2,124,873
受取寄付金	181,576,826	180,400,000	1,176,826
受取寄付金振替額	128,200,554	127,252,507	948,047
受取会費	167,000	216,000	△ 49,000
事業収益	58,745,547	26,080,039	32,665,508
受取補助金等	82,193,472	81,812,476	380,996
受取補助金等振替額	79,299,953	77,295,396	2,004,557
受取助成金	2,893,519	4,517,080	△ 1,623,561
雑収益	10,302,932	5,255,686	5,047,246
経常収益計	496,181,058	455,068,827	41,112,231
(2) 経常費用			
事業費	425,829,872	427,227,920	△ 1,398,048
アジア基礎資料研究費	21,215,496	22,216,720	△ 1,001,224
資料収集・整理費	13,810,870	16,259,321	△ 2,448,451
資料研究成果発信費	14,980,722	13,511,571	1,469,151
普及活動費	27,561,792	23,201,687	4,360,105
研究奨励費	2,000,000	1,000,000	1,000,000
唐奨研究費	2,558,693	1,276,803	1,281,890
学術情報提供費	30,527,162	23,421,728	7,105,434
人件費	129,525,737	138,753,946	△ 9,228,209
役員報酬	19,032,000	18,657,000	375,000
給料手当	83,718,857	89,262,185	△ 5,543,328
賞与引当金繰入	7,102,880	8,016,667	△ 913,787
退職給付費用	4,754,517	6,447,235	△ 1,692,718
福利厚生費	14,917,483	16,370,859	△ 1,453,376
事務費	183,649,400	187,586,144	△ 3,936,744
設備保守修繕費	15,404,516	6,836,437	8,568,079
水道光熱費	12,946,519	11,088,011	1,858,508
業務委託費	10,388,923	23,972,576	△ 13,583,653
減価償却費	130,803,444	130,593,761	209,683
諸雑費	14,105,998	15,095,359	△ 989,361
管理費	27,047,871	25,699,503	1,348,368
人件費	19,546,447	18,829,511	716,936
役員報酬	4,468,000	4,318,000	150,000
給料手当	10,393,371	9,829,044	564,327
賞与引当金繰入	1,363,458	1,389,759	△ 26,301
退職給付費用	898,326	904,086	△ 5,760
福利厚生費	2,423,292	2,388,622	34,670
事務費	7,501,424	6,869,992	631,432
設備保守修繕費	155,601	69,055	86,546
水道光熱費	130,773	112,000	18,773
謝金	5,193,120	4,645,364	547,756
減価償却費	1,262,031	1,300,720	△ 38,689
諸雑費	759,899	742,853	17,046
経常費用計	452,877,743	452,927,423	△ 49,680
評価損益等調整前当期経常増減額	43,303,315	2,141,404	41,161,911

特定資産評価損益等	55,793,360	69,969,500	△ 14,176,140
評価損益等計	55,793,360	69,969,500	△ 14,176,140
当期経常増減額	99,096,675	72,110,904	26,985,771
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
PCB引当金戻入額	53,350	21,305,000	△ 21,251,650
固定資産受贈額振替額	849,963	670,401	179,562
経常外収益計	903,313	21,975,401	△ 21,072,088
(2) 経常外費用			
固定資産評価損等	94,931	14,806	80,125
経常外費用計	94,931	14,806	80,125
当期経常外増減額	808,382	21,960,595	△ 21,152,213
当期一般正味財産増減額	99,905,057	94,071,499	5,833,558
一般正味財産期首残高	4,043,727,880	3,949,656,381	94,071,499
一般正味財産期末残高	4,143,632,937	4,043,727,880	99,905,057
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	20,000,000	5,000,000	15,000,000
受取補助金等	109,000,000	109,000,000	0
固定資産受贈額	2,108,924	1,576,373	532,551
一般正味財産への振替額	△ 208,350,470	△ 205,218,304	△ 3,132,166
当期指定正味財産増減額	△ 77,241,546	△ 89,641,931	12,400,385
指定正味財産期首残高	2,731,621,155	2,821,263,086	△ 89,641,931
指定正味財産期末残高	2,654,379,609	2,731,621,155	△ 77,241,546
III 正味財産期末残高	6,798,012,546	6,775,349,035	22,663,511

正 味 財 産 増 減 計 算 書 内 訳 表

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	29,593,947	5,400,780	0	34,994,727
受取寄付金	274,667,840	35,109,540	0	309,777,380
受取寄付金	147,516,826	34,060,000	0	181,576,826
受取寄付金振替額	127,151,014	1,049,540	0	128,200,554
受取会費	167,000	0	0	167,000
事業収益	58,745,547	0	0	58,745,547
受取補助金等	82,193,472	0	0	82,193,472
受取補助金等振替額	79,299,953	0	0	79,299,953
受取助成金	2,893,519	0	0	2,893,519
雑収益	9,272,639	1,030,293	0	10,302,932
経常収益計	454,640,445	41,540,613	0	496,181,058
(2) 経常費用				
事業費	425,829,872	0	0	425,829,872
アジア基礎資料研究費	21,215,496	0	0	21,215,496
資料収集・整理費	13,810,870	0	0	13,810,870
資料研究成果発信費	14,980,722	0	0	14,980,722
普及活動費	27,561,792	0	0	27,561,792
研究奨励費	2,000,000	0	0	2,000,000
唐奨研究費	2,558,693	0	0	2,558,693
学術情報提供費	30,527,162	0	0	30,527,162
人件費	129,525,737	0	0	129,525,737
役員報酬	19,032,000	0	0	19,032,000
給料手当	83,718,857	0	0	83,718,857
賞与引当金繰入	7,102,880	0	0	7,102,880
退職給付費用	4,754,517	0	0	4,754,517
福利厚生費	14,917,483	0	0	14,917,483
事務費	183,649,400	0	0	183,649,400
設備保守修繕費	15,404,516	0	0	15,404,516
水道光熱費	12,946,519	0	0	12,946,519
業務委託費	10,388,923	0	0	10,388,923
減価償却費	130,803,444	0	0	130,803,444
諸雑費	14,105,998	0	0	14,105,998
管理費	0	27,047,871	0	27,047,871
人件費	0	19,546,447	0	19,546,447
役員報酬	0	4,468,000	0	4,468,000
給料手当	0	10,393,371	0	10,393,371
賞与引当金繰入	0	1,363,458	0	1,363,458
退職給付費用	0	898,326	0	898,326
福利厚生費	0	2,423,292	0	2,423,292
事務費	0	7,501,424	0	7,501,424
設備保守修繕費	0	155,601	0	155,601
水道光熱費	0	130,773	0	130,773
謝金	0	5,193,120	0	5,193,120
減価償却費	0	1,262,031	0	1,262,031
諸雑費	0	759,899	0	759,899
経常費用計	425,829,872	27,047,871	0	452,877,743
評価損益等調整前当期経常増減額	28,810,573	14,492,742	0	43,303,315

特定資産評価損益等	55,793,360	0	0	55,793,360
評価損益等計	55,793,360	0	0	55,793,360
当期経常増減額	84,603,933	14,492,742	0	99,096,675
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
PCB引当金戻入額	48,015	5,335	0	53,350
固定資産受贈額振替額	849,963	0	0	849,963
経常外収益計	897,978	5,335	0	903,313
(2) 経常外費用				
固定資産評価損等	94,931	0	0	94,931
経常外費用計	94,931	0	0	94,931
当期経常外増減額	803,047	5,335	0	808,382
当期一般正味財産増減額	85,406,980	14,498,077	0	99,905,057
一般正味財産期首残高				4,043,727,880
一般正味財産期末残高				4,143,632,937
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	20,000,000	0	0	20,000,000
受取補助金等	109,000,000	0	0	109,000,000
固定資産受贈額	2,108,924	0	0	2,108,924
一般正味財産への振替額	△ 207,300,930	△ 1,049,540	0	△ 208,350,470
当期指定正味財産増減額	△ 76,192,006	△ 1,049,540	0	△ 77,241,546
指定正味財産期首残高				2,731,621,155
指定正味財産期末残高				2,654,379,609
III 正味財産期末残高				6,798,012,546

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

②その他有価証券

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用し、評価損益は特定資産評価損益等で処理しております。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

(3) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 30～50年

構築物 15～20年

什器備品 3～15年

②無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 5年

(4) 引当金の計上基準

①賞与引当金

役員及び職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

②退職給付引当金

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする小規模企業等における簡便法を適用しています。

③役員退職慰労引当金

常勤役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当期末退職

慰労金の要支給額を退職給付引当金に含めて計上しております。

④PCB引当金

PCB（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出に備えるため、今後発生すると見込まれる額を計上しております。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式を採用しております。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
図書資料	3,583,541	0	0	3,583,541
小 計	3,583,541	0	0	3,583,541
特定資産				
土地	110,494	0	0	110,494
建物	1,837,788,350	0	91,780,166	1,746,008,184
構築物	64,918,312	0	11,782,370	53,135,942
什器備品	116,202,292	3,888,043	25,267,978	94,822,357
図書資料	1,495,323,662	29,652,335	0	1,524,975,997
ソフトウェア	115,200	0	43,200	72,000
事業運営積立資産	2,815,905,733	69,804,500	14,011,140	2,871,699,093
退職給付引当資産	73,142,063	5,652,843	18,677,100	60,117,806
建物設備修繕引当資産	303,315,117	21,705,776	9,060,205	315,960,688
PCB引当資産	1,100,000	0	1,100,000	0
斯波研究奨励金	27,503,051	564	2,002,200	25,501,415
榎原研究奨励金	0	20,000,000	0	20,000,000
小 計	6,735,424,274	150,704,061	173,724,359	6,712,403,976
合 計	6,739,007,815	150,704,061	173,724,359	6,715,987,517

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
図書資料	3,583,541	0	(3,583,541)	0
小 計	3,583,541	0	(3,583,541)	0
特定資産				
土地	110,494	(110,494)	0	0
建物	1,746,008,184	(1,741,676,088)	(4,332,096)	0
構築物	53,135,942	(53,135,942)	0	0
什器備品	94,822,357	(94,822,357)	0	0
図書資料	1,524,975,997	(486,851,526)	(1,038,124,471)	0
ソフトウェア	72,000	(72,000)	0	0
事業運営積立資産	2,871,699,093	(202,000,000)	(2,669,699,093)	0
退職給付引当資産	60,117,806	0	0	(60,117,806)
建物設備修繕引当資産	315,960,688	(30,211,202)	(285,749,486)	0
PCB引当資産	0	0	0	0
ス波研究奨励金	25,501,415	(25,500,000)	(1,415)	0
榎原研究奨励金	20,000,000	(20,000,000)	0	0
小 計	6,712,403,976	(2,654,379,609)	(3,997,906,561)	(60,117,806)
合 計	6,715,987,517	(2,654,379,609)	(4,001,490,102)	(60,117,806)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
建物	2,798,122,186	△ 1,052,114,002	1,746,008,184
構築物	179,828,553	△ 126,692,611	53,135,942
什器備品	432,739,625	△ 337,917,268	94,822,357
ソフトウェア	15,514,304	△ 15,442,304	72,000
小 計	3,426,204,668	△ 1,532,166,185	1,894,038,483
その他固定資産			
構築物	136,500	△ 60,288	76,212
什器備品	43,750,806	△ 38,721,405	5,029,401
ソフトウェア	14,625,330	△ 13,080,744	1,544,586
小 計	58,512,636	△ 51,862,437	6,650,199
合 計	3,484,717,304	△ 1,584,028,622	1,900,688,682

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
債券（事業運営積立資産）			
三菱UFJ証券ホールディングスクレジットリンク債	300,000,000	300,948,000	948,000
三菱UFJ証券ホールディングスクレジットリンク債	1,000,000,000	1,001,190,000	1,190,000
明治安田生命保険相互会社第1回B号利払繰延条項・期限前償還条項付無担保社債	500,000,000	500,715,000	715,000
第16回三菱UFJフィナンシャルグループ期限前劣後免除特約付	270,000,000	269,840,700	△ 159,300
第6回三菱UFJフィナンシャルグループ永久社債劣後免除特約	300,000,000	300,813,000	813,000
第1回相模原市公募債	40,325,275	40,129,920	△ 195,355
合 計	2,410,325,275	2,413,636,620	3,311,345

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
科学研究費補助金（特定奨励費）	文部科学省	397,442,155	109,000,000	79,299,953	427,142,202	指定正味財産*
助成金						
唐奨教育基金会助成金	唐 奨	0	2,893,519	2,893,519	0	-
合 計		397,442,155	111,893,519	82,193,472	427,142,202	-

*当期末残高は、特定資産に計上されている図書資料及び固定資産に対応する指定正味財産相当額です。

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除額	79,568,546
減価償却費計上による指定解除額	127,931,961
経常外収益への振替額	
減価償却費計上による指定解除額	849,963
合 計	208,350,470

8. 退職給付に係る注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度を採用しています。

退職一時金制度では、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しています。

また、退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

(2) 確定給付制度

①簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	73,142,063円
退職給付費用	5,652,843円
退職給付の支払額	18,677,100円
期末における退職給付引当金	<u>60,117,806円</u>

②退職給付に関連する損益

簡便法で計算した退職給付費用	5,652,843円
----------------	------------

(3) 役員退職慰労引当金に関する事項

役員退職慰労引当金5,728,500円を退職給付引当金に含めて計上しています。また、役員退職慰労引当金繰入額1,206,000円を退職給付費用に含めて計上しています。

9. 金融商品関係

(1) 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の一部を運用益によって賄うため、債券、株式、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品（仕組債）のみであり、一定の金額を限度としている。

なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は債券、株式、デリバティブ取引を組み込んだ債券（仕組債）であり、発行体及び参照組織の信用リスク、市場リスク（金利の変動リスク及び市場価格の変動リスク）にさらされている。

(3) 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用規定に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用規定に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体及び参照組織の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

③市場リスクの管理

株式については、時価を定期的に把握し、理事会に報告する。

財 産 目 録

2022年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金	現金 手元保管	運転資金として	390,743
		普通預金 三菱UFJ銀行駒込支店	運転資金として	62,479,604
	定期預金	振替口座 ゆうちょ銀行	運転資金として	108,092
		定期預金 三菱UFJ銀行駒込支店	運転資金として	80,000,000
			(現金・預金計)	142,978,439
	未収収益	有価証券利息	公益目的事業及び管理目的の財源として使用する資産の利息	4,715,983
			(未収収益計)	4,715,983
	未収金	三菱重工業(株)他	公益目的事業の事業収益分である。	798,469
			(未収金計)	798,469
	商品	「岩崎文庫の名品」他 計17,008冊 浮世絵複製他 計26,263点	公益目的事業の在庫である。	4,427,673
		(商品計)	7,541,973	
前払費用	エムエステイ保険サービス(株)	役員賠償責任保険料 火災賠償責任保険料	209,370 1,007,140	
		(前払費用計)	1,216,510	
流動資産合計				157,251,374
(固定資産)				
基本財産	図書資料	国宝・重要文化財・浮世絵他 計52,366件 和漢書 80,064冊 洋書 20,018冊	公益目的保有財産であり、公益目的の事業に供している不可欠特定財産である。	3,583,541
			(基本財産計)	3,583,541
特定資産	土地	所在 東京都文京区本駒込2丁目 28番21号 地番 東京都文京区本駒込2丁目 147番1号 地目 宅地 面積 3,687.63平方米	(共用財産) うち公益目的保有財産99% うち管理目的保有財産1%	110,494
	建物	所在 東京都文京区本駒込2丁目 147、157-2 建物(本館) 構造 鉄骨鉄筋コン クリート造 建築面積 1,351.67平方米 延床面積 6,698.12平方米 空調衛生、昇降機、電気給 排水等諸設備	(共用財産) うち公益目的保有財産99% うち管理目的保有財産1%	1,631,551,871
	構築物	建物(付属棟) 構造 鉄骨造 建築面積 216.45平方米 延床面積 408.14平方米 空調衛生、昇降機、電気給 排水等諸設備		114,456,313
	什器備品	PC一式他事務用機器及び 事務所付帯設備 227点	(共用財産) うち公益目的保有財産99% うち管理目的保有財産1%	94,822,357
	図書資料	和漢書 473,260冊	公益目的保有財産	1,524,975,997

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
ソフトウェア事業運営積立資産	ソフトウェア事業運営積立資産	洋書 379,284冊 複写資料 29,800点 マイクロフィルム等 1,195冊	公益目的保有財産	72,000
		図書館システム他 計21点	公益目的保有財産。運用益を公益目的事業の財源に使用している。	2,371,681,275
		投資有価証券 三菱UFJ証券クレジットリンク債他 6銘柄	運用益を管理目的の財源として使用している。	500,000,000
	退職給付引当資産	普通預金 明治安田生命保険相互会社 第1回B号利払繰延・期限前償還付劣後	(共用財産)	17,818
		三菱UFJ銀行駒込支店	うち公益目的保有財産18% うち管理目的の財源として使用する財産82%	
	建物設備修繕引当資産	普通・定期預金 三菱UFJ銀行駒込支店	役員退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	60,117,806
		普通・定期預金 三菱UFJ銀行駒込支店	長期修繕計画により、建物・設備の修繕に限定して使用する引当資産であり特定費用準備資金として管理している。	315,960,688
	ス波研究奨励金	普通・定期預金 三菱UFJ銀行駒込支店	若手研究者育成の為の給付型奨学金として使用する財産	25,501,415
		普通・定期預金 三菱UFJ銀行駒込支店	若手研究者育成の為の給付型奨学金として使用する財産	20,000,000
	その他固定資産	構築物	(特定資産計)	6,712,403,976
		什器備品	(共用財産) うち公益目的保有財産99% うち管理目的保有財産1%	76,212
		ソフトウェア	(共用財産) うち公益目的保有財産78% うち管理目的保有財産22%	5,029,401
		電話加入権	管理目的保有財産 (共用財産) うち公益目的保有財産80% うち管理目的保有財産20%	1,544,586 364,000
固定資産合計				6,723,001,716
資産合計				6,880,253,090
(流動負債)	未払金	丸善雄松堂(株) 計2件	公益目的事業に於ける業務委託である。	463,585
		東京海上日動ファシリティーズ(株) 他 計9件	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する事務所の設備管理等である。	6,043,575
		文京年金事務所	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の健康・厚生年金保険料4月納付金である。	978,148
		職員	職員の3月勤務分時間外手当等である。	133,567
	預り金	役員 科学研究費補助金	(未払金計) 源泉所得税 地方税(住民税)	7,618,875 851,510 625,100

V 業 務 報 告

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
			雇用保険料	10,421
			公益目的事業に於ける研究補助事業に要する経費	4,550,494
	賞与引当金	役職員	〈預り金計〉	6,037,525
			公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の賞与の引当金である。	8,466,338
			〈賞与引当金計〉	8,466,338
流動負債合計				22,122,738
(固定負債)	退職給付引当金	役職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の退職給付金の引当金である。	60,117,806
			〈退職給付引当金計〉	60,117,806
固定負債合計				60,117,806
負債合計				82,240,544
正味財産				6,798,012,546

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記の「2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」において開示しているため、附属明細での記載を省略します。

2. 引当金の明細

賞与引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	9,406,426	8,466,338	9,406,426	0	8,466,338

退職給付引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	73,142,063	5,267,043	18,291,300	0	60,117,806

PCB引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
PCB引当金	1,100,000	0	1,046,650	53,350	0

*当期減少額の「その他」は、PCB廃棄物に係る処理費用見積り額の減少による取り崩しである。

VI 役 職 員 名 簿

2022年3月31日現在の公益財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役員

役 職 名	氏 名	現 職 等
理 事 長	畔 柳 信 雄	東洋文庫理事長 株式会社三菱UFJ銀行特別顧問
専 務 理 事	杉 浦 康 之	東洋文庫専務理事 ハーバード大学アジアセンター国際諮問 委員
常 務 理 事	斯 波 義 信	東洋文庫文庫長、図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授 大阪大学名誉教授
〃	濱 下 武 志	東洋文庫研究部長 静岡県立大学グローバル地域センター センター長、特任教授 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究セン ター研究フェロー
〃	平 野 健 一 郎	東京大学名誉教授 東洋文庫普及展示部長 東京大学名誉教授 早稲田大学名誉教授
〃	高 田 時 雄	東洋文庫顧問 関西大学東西学術研究所委嘱研究員 京都大学名誉教授
理 事	L. グ ロ ー プ	米国社会科学研究会議コンサルティング ディレクター 上智大学名誉教授

役 職 名	氏 名	現 職 等
理 事	佐々木 幹 夫	静嘉堂理事長 三菱商事株式会社元会長
〃	榊 屋 友 子	東京大学東洋文化研究所教授
〃	宮 永 俊 一	三菱重工業株式会社取締役会長
監 事	森 安 孝 夫	大阪大学名誉教授
〃	柳 井 秀 朗	三菱金曜会事務局長

2. 評議員

役 職 名	氏 名	現 職 等
評 議 員	荒 蒔 康一郎	農林水産・食品産業技術振興協会会長 キリンホールディングス株式会社元会長
〃	稲 葉 穰	京都大学人文科学研究所長、教授
〃	梅 村 坦	中央大学名誉教授
〃	大 宮 英 明	三菱重工業株式会社相談役
〃	木 村 恵 司	三菱一号館美術館館長 日本ビルヂング協会連合会代表理事会長 三菱地所株式会社特別顧問
〃	草 原 克 豪	日本空手協会会長 拓殖大学名誉教授
〃	島 村 琢 哉	AGC株式会社取締役兼会長
〃	高 橋 昭 雄	東京大学東洋文化研究所長、教授
〃	羽 田 正	東京大学国際高等研究所東京カレッジ カレッジ長、特任教授 東京大学名誉教授
〃	林 佳世子	東京外国語大学長、大学院教授
〃	本 郷 恵 子	東京大学史料編纂所長、教授
〃	吉 永 元 信	国立国会図書館長

3. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職等
委員長	畔柳 信雄	東洋文庫理事長 株式会社三菱UFJ銀行特別顧問
委員	斯波 義信	東洋文庫文庫長、図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授 大阪大学名誉教授
〃	中見 立夫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化 研究所シニア・フェロー 東京外国語大学名誉教授
〃	三浦 徹	お茶の水女子大学名誉教授
〃	御牧 克己	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	森本 公誠	東大寺長老
〃	森安 孝夫	大阪大学名誉教授
〃	吉田 順一	早稲田大学名誉教授

4. ミュージアム諮問委員会委員

役職名	氏名	現職等
委員長	福田 康夫	元内閣総理大臣
委員	彬子女王	京都産業大学日本文化研究所特別教授
〃	青柳 正規	多摩美術大学理事長 奈良県立橿原考古学研究所長 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	亀山 郁夫	名古屋外国語大学長 東京外国語大学名誉教授
〃	姜 尚中	熊本県立劇場館長兼理事長 東京大学名誉教授
〃	西本 智実	指揮者

役 職 名	氏 名	現 職 等
委 員	元 良 信 彦	建築デザイナー

5. 名誉研究員

氏 名	所 属 機 関
BLUSSÉ, Leonard	Universiteit Leiden (Prof. Emeritus)
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof. Emeritus)
HUMPHREYS, R. Stephen	University of California (Prof. Emeritus)
KADIVAR, Mohsen	Department of Religious Studies, Duke University
韓 永 愚	Seoul 大学校 (Prof. Emeritus)
黄 寛 重	長庚大学
	中央研究院歴史語言研究所
李 伯 重	北京大学
McDERMOTT, Joseph P.	St. John's College, University of Cambridge
PERRY, Elizabeth J.	Harvard-Yenching Institute, Harvard University
RAFEQ, Abdul-Karim	Department of History, the College of William and Mary
ŞAHİN, İlhan	İstanbul 29 Mayıs Üniversitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore
ZIEME, Peter	Freie Universität Berlin (Prof. Emeritus)

6. 職員・研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
総 務 部 〃	理 事 長	畔 柳 信 雄	図書部長、研究員を兼務 総務部長を兼務 専務理事を兼務
	文 庫 長	斯 波 義 信	
	専 務 理 事	杉 浦 康 之	
	部 長	杉 浦 康 之	
	課 長	柴 代 淳 子	

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
総務部	参事	堀井亮	研究員を兼務
普及展示部	部長	平野健一郎	
運営課	課長	池山洋二	研究員を兼務
学芸課	参事	牧 祐紀子	
学芸課	課長	岡崎礼奈	研究員を兼務
学芸課	研究員(職員)	篠木由喜	
図書部	部長	斯波義信	文庫長、研究員を兼務
学芸課	課長	會谷佳光	研究部長代理、研究員を兼務
学芸課	研究員(職員)	櫻井徹子	
学芸課	〃	篠崎陽子	
学芸課	〃	清水信子	
学芸課	〃	原山隆広	
学芸課	〃	山村義照	
学芸課	研究員(嘱託)	瀧下彩子	
学芸課	研究員(奨励)	中塚亮	
研究部	部長	濱下武志	研究員を兼務
学芸課	部長代理	會谷佳光	図書部課長、研究員を兼務
学芸課	課長	相原佳之	研究員を兼務
学芸課	研究員(嘱託)	太田啓子	
学芸課	〃	片倉鎮郎	
学芸課	〃	中村威也	
学芸課	研究員(奨励)	衛藤安奈	
学芸課	〃	魏 郁欣	
学芸課	〃	多々良圭介	
学芸課	〃	蓮沼直應	
学芸課	〃	速水大	
学芸課	研究員	新井政美	東京外国語大学名誉教授
学芸課	〃	荒川正晴	大阪大学名誉教授
学芸課	〃	飯島武次	駒澤大学名誉教授
学芸課	〃	池田雄一	中央大学名誉教授
学芸課	〃	石川重雄	
学芸課	〃	石塚晴通	北海道大学名誉教授
学芸課	〃	石橋崇雄	元国士館大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研 究 員	伊 藤 博	
〃	〃	今 西 祐一郎	国文学研究資料館名誉教授
〃	〃	内 山 雅 生	宇都宮大学名誉教授
〃	〃	江 南 和 幸	龍谷大学名誉教授
〃	〃	大 里 浩 秋	神奈川大学名誉教授
〃	〃	大 澤 正 昭	上智大学名誉教授
〃	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学名誉教授
〃	〃	尾 形 洋 一	
〃	〃	岡 野 誠	明治大学名誉教授
〃	〃	奥 村 哲	首都大学東京名誉教授
〃	〃	奥 山 憲 夫	元国士舘大学教授
〃	〃	尾 崎 文 昭	東京大学名誉教授
〃	〃	小 田 壽 典	豊橋創造大学名誉教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学名誉教授
〃	〃	糟 谷 憲 一	一橋大学名誉教授
〃	〃	片 桐 一 男	青山学院大学名誉教授
〃	〃	片 山 剛	大阪大学名誉教授
〃	〃	金 沢 陽	
〃	〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	金 鳳 珍	北九州市立大学名誉教授
〃	〃	窪 添 慶 文	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	久保田 淳	日本学士院会員
〃	〃		東京大学名誉教授
〃	〃	熊 本 裕	東京大学名誉教授
〃	〃	L. グ ロ ー プ	米国社会科学研究会議コンサルティングディレクター
〃	〃		上智大学名誉教授
〃	〃	黒 田 卓	東北大学名誉教授
〃	〃	小 松 久 男	東京大学名誉教授
〃	〃	早乙女 雅 博	東京大学名誉教授
〃	〃	佐 藤 慎 一	東京大学名誉教授
〃	〃	設 樂 國 廣	立教大学名誉教授
〃	〃	蒨 勇 造	東京大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研 究 員	清 水 宏 祐	九州大学名誉教授
〃	〃	清 水 信 行	青山学院大学名誉教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	
〃	〃	徐 小 潔	
〃	〃	邵 迎 建	元徳島大学教授
〃	〃	末 成 道 男	
〃	〃	鈴 木 董	東京大学名誉教授
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学名誉教授
〃	〃	関 尾 史 郎	新潟大学名誉教授
〃	〃	曾 田 三 郎	広島大学名誉教授
〃	〃	高 橋 公 明	名古屋大学名誉教授
〃	〃	田 島 俊 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	多 田 狷 介	日本女子大学名誉教授
〃	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館名誉教授
〃	〃	田 仲 一 成	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田 中 仁	大阪大学名誉教授
〃	〃	P. ツ イ ー メ	ベルリン自由大学名誉教授
〃	〃	鶴 間 和 幸	学習院大学名誉教授
〃	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学名誉教授
〃	〃		山梨県立大学名誉教授
〃	〃	寺 田 浩 明	京都産業大学非常勤講師 京都大学名誉教授
〃	〃	戸 倉 英 美	元東京大学教授
〃	〃	土 肥 祐 子	楡林学院大学客座教授
〃	〃	中 兼 和 津 次	東京大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	元明治大学教授
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所シニア・ フェロー 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	新 村 容 子	岡山大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研 究 員	延 廣 眞 治	東京大学名誉教授
〃	〃	萩 田 博	元東京外国語大学准教授
〃	〃	馬 場 英 子	新潟大学名誉教授
〃	〃	濱 島 敦 俊	大阪大学名誉教授
〃	〃	林 俊 雄	創価大学名誉教授
〃	〃	平 勢 隆 郎	東京大学名誉教授
〃	〃	弘 末 雅 士	立教大学名誉教授
〃	〃	深 沢 眞 二	元和光大学教授
〃	〃	藤 井 昇 三	電気通信大学名誉教授
〃	〃	藤 田 忠	国士館大学名誉教授
〃	〃	古 田 和 子	慶應義塾大学名誉教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学名誉教授
〃	〃	堀 川 徹	京都外国語大学名誉教授
〃	〃	本 庄 比佐子	
〃	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	三 谷 博	東京大学名誉教授
〃	〃	御 牧 克 己	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	〃	宮 脇 淳 子	
〃	〃	村 井 章 介	東京大学名誉教授
〃	〃	毛 里 和 子	早稲田大学名誉教授
〃	〃	糶 山 明	元埼玉大学教授
〃	〃	柳 田 征 司	元奈良女子大学教授
〃	〃	矢 吹 晋	横浜市立大学名誉教授
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学名誉教授
〃	〃	山 本 英 史	慶應義塾大学名誉教授
〃	〃	山 本 毅 雄	図書館情報大学名誉教授 国立情報学研究所名誉教授
〃	〃	吉 田 光 男	東京大学名誉教授 放送大学名誉教授
〃	〃	吉 水 清 孝	元東北大学教授
〃	〃	吉 村 慎太郎	広島大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研 究 員	渡 辺 紘 良	獨協医科大学名誉教授
〃	研究員(兼任)	青 木 敦	青山学院大学教授
〃	〃	太 田 信 宏	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	粕 谷 元	日本大学教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学理事長、学長 日本大学名誉教授
〃	〃	金 子 修 一	國學院大學客員教授 國學院大學名誉教授
〃	〃	久 保 亨	信州大学特任教授
〃	〃	氣賀澤 保 規	明治大学東アジア石刻文物研究所客員研究員
〃	〃	高 野 太 輔	大東文化大学准教授
〃	〃	小 浜 正 子	日本大学教授
〃	〃	嶋 尾 稔	慶應義塾大学言語文化研究所教授
〃	〃	新 免 康	中央大学教授
〃	〃	杉 山 清 彦	東京大学大学院准教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授
〃	〃	高 久 健 二	専修大学教授
〃	〃	高 村 武 幸	明治大学教授
〃	〃	武 内 房 司	学習院大学教授
〃	〃	竹 越 孝	神戸市外国語大学教授
〃	〃	田 中 比呂志	東京学芸大学教職大学院教授
〃	〃	牧 野 元 紀	東洋文庫文庫長特別補佐 昭和女子大学准教授
〃	〃	水 野 善 文	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	村 田 雄二郎	同志社大学大学院教授 東京大学名誉教授
〃	〃	柳 澤 明	早稲田大学教授
〃	〃	吉 水 千鶴子	筑波大学教授
〃	〃	六反田 豊	東京大学大学院教授

7. 客員研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研究員(客員)	青 山 亨	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	青 山 治 世	亜細亜大学准教授
〃	〃	青 山 瑠 妙	早稲田大学教授
〃	〃	秋 葉 淳	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	浅 田 進 史	駒澤大学教授
〃	〃	浅 野 秀 剛	大和文華館館長 あべのハルカス美術館館長
〃	〃	阿 部 尚 史	お茶の水女子大学助教
〃	〃	天 児 慧	早稲田大学教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学教授
〃	〃	飯 島 明 子	大阪大学非常勤講師
〃	〃	飯 島 涉	青山学院大学教授
〃	〃	家 永 真 幸	東京女子大学准教授
〃	〃	池 田 美 佐 子	名古屋商科大学教授
〃	〃	石 川 寛	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	磯 貝 健 一	京都大学大学院教授
〃	〃	井 上 和 枝	鹿児島国際大学教授
〃	〃	井 上 和 人	桃山学院大学非常勤講師 奈良文化財研究所名誉研究員
〃	〃	林 戴 桓	青山学院大学教授
〃	〃	岩 尾 一 史	龍谷大学准教授
〃	〃	上 田 望	金沢大学教授
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学名誉教授
〃	〃	宇 山 智 彦	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授
〃	〃	江 川 ひかり	明治大学教授
〃	〃	遠 藤 光 暁	青山学院大学教授
〃	〃	大 川 謙 作	日本大学教授
〃	〃	大 川 裕 子	上智大学准教授
〃	〃	大河原 知 樹	東北大学大学院教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研究員(客員)	大 澤 顯 浩	学習院大学外国語教育研究センター教授
〃	〃	大 澤 肇	中部大学准教授
〃	〃	大 谷 俊 太	京都女子大学教授
〃	〃	岡 本 隆 司	京都府立大学教授
〃	〃	小 川 快 之	国士舘大学教授
〃	〃	小 澤 一 郎	立命館大学准教授
〃	〃	小 沼 孝 博	東北学院大学教授
〃	〃	小野寺 史 郎	京都大学大学院准教授
〃	〃	加 島 潤	慶應義塾大学教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学教授
〃	〃	金 丸 裕 一	立命館大学教授
〃	〃	亀 谷 学	弘前大学准教授
〃	〃	川 井 伸 一	愛知大学長、教授
〃	〃	川 合 安	東北大学大学院教授
〃	〃	川 崎 信 定	東京大学東洋文化研究所客員 研究員
〃	〃		中村元東方研究所理事
〃	〃		筑波大学名誉教授
〃	〃	川 島 真	東京大学大学院教授
〃	〃	神 田 豊 隆	新潟大学教授
〃	〃	菅 頭 明日香	青山学院大学准教授
〃	〃	木 越 義 則	名古屋大学大学院教授
〃	〃	貴 志 俊 彦	京都大学東南アジア地域研究 研究所教授
〃	〃	北 川 香 子	学習院女子大学教授
〃	〃	北 本 朝 展	国立情報学研究所准教授
〃	〃	橋 堂 晃 一	龍谷大学仏教文化研究所客員 研究員
〃	〃	楠 木 賢 道	吉林師範大学大学院教授
〃	〃	工 藤 裕 子	立教大学アジア地域研究所特 任研究員
〃	〃	栗 山 保 之	大東文化大学東洋研究所教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研究員(客員)	巖 善 平	同志社大学大学院教授
〃	〃	古 泉 達 矢	金沢大学准教授
〃	〃	河 野 正	東京大学社会科学研究所助教
〃	〃	小 嶋 茂 稔	東京学芸大学教授
〃	〃	小 嶋 芳 孝	金沢学院大学教授
〃	〃	小 杉 泰	立命館大学アジア・日本研究 所長、教授
〃	〃	〃	京都大学名誉教授
〃	〃	小 寺 敦	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	小長谷 有 紀	国立民族学博物館客員教授
〃	〃	小 南 一 郎	泉屋博古館名誉館長
〃	〃	〃	京都大学名誉教授
〃	〃	近 藤 信 彰	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所教授
〃	〃	齋 藤 真麻理	国文学研究資料館教授
〃	〃	佐々木 紳	成蹊大学教授
〃	〃	佐 藤 健太郎	北海道大学大学院教授
〃	〃	佐 藤 宏	一橋大学大学院特任教授
〃	〃	〃	一橋大学名誉教授
〃	〃	佐 藤 仁 史	一橋大学大学院教授
〃	〃	澤 江 史 子	上智大学教授
〃	〃	塩 沢 裕 仁	法政大学教授
〃	〃	塩 谷 哲 史	筑波大学准教授
〃	〃	島 田 竜 登	東京大学大学院准教授
〃	〃	徐 顕 芬	広島市立大学平和研究所准教授
〃	〃	城 山 智 子	東京大学大学院教授
〃	〃	須 川 英 徳	放送大学教授
〃	〃	杉 本 史 子	東京大学史料編纂所教授
〃	〃	鈴 木 恵 美	福岡女子大学准教授
〃	〃	鈴 木 均	アジア経済研究所新領域研究 センター上席主任研究員
〃	〃	鈴 木 博 之	山形県立米沢女子短期大学講師
〃	〃	砂 山 幸 雄	愛知大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研究員(客員)	関 智 英	津田塾大学准教授
〃	〃	高 田 時 雄	東洋文庫顧問 関西大学東西学術研究所委嘱 研究員 京都大学名誉教授
〃	〃	高 田 幸 男	明治大学教授
〃	〃	高 遠 拓 児	中京大学准教授
〃	〃	高 橋 英 海	東京大学大学院教授
〃	〃	高 松 洋 一	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所教授
〃	〃	高 山 博	東京大学大学院教授
〃	〃	C. A. ダニエルス	香港科技大学教授 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	地 田 徹 朗	名古屋外国語大学准教授
〃	〃	R. チャード	東京大学東洋文化研究所客員 教授
〃	〃	塚 原 東 吾	神戸大学大学院教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学教授
〃	〃	土 田 哲 夫	中央大学教授
〃	〃	坪 井 祐 司	名桜大学上級准教授
〃	〃	唐 成	中央大学教授
〃	〃	唐 亮	早稲田大学教授
〃	〃	徳 永 洋 介	富山大学教授
〃	〃	富 澤 芳 亜	島根大学教授
〃	〃	中 谷 英 明	龍谷大学世界仏教文化研究 センター客員研究員、創立380 周年記念事業特別顧問 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	長 縄 宣 博	北海道大学スラブ・ユーラシ ア研究センター教授
〃	〃	中 村 元 哉	東京大学大学院准教授
〃	〃	西 英 昭	九州大学教授
〃	〃	西 尾 寛 治	防衛大学校教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研究員(客員)	野 田 仁	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
〃	〃	濱 本 真 実	大阪市立大学准教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学長、大学院教授
〃	〃	平 川 幸 子	早稲田大学留学センター准教授
〃	〃	廣 瀬 紳 一	国際大学教授
〃	〃	藤 井 省 三	名古屋外国語大学教授 東京大学名誉教授
〃	〃	藤 本 幸 夫	麗澤大学客員教授 富山大学名誉教授
〃	〃	弁 納 才 一	金沢大学教授
〃	〃	星 泉	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	堀 井 聡 江	桜美林大学教授
〃	〃	堀 内 賢 志	静岡県立大学准教授
〃	〃	町 田 隆 吉	桜美林大学教授
〃	〃	松 井 太 吉	大阪大学大学院教授
〃	〃	松 重 充 浩	日本大学教授
〃	〃	松 永 泰 行	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	松 村 史 穂	北海道大学大学院准教授
〃	〃	松 村 史 紀	宇都宮大学准教授
〃	〃	丸 川 知 雄	東京大学社会科学研究所教授
〃	〃	三 田 昌 彦	名古屋大学大学院助教
〃	〃	峰 毅	東京大学大学院招聘講師
〃	〃	宮 紀 子	京都大学人文科学研究所助教
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学教授
〃	〃	宮 崎 展 昌	鶴見大学仏教文化研究所准教授
〃	〃	村 上 衛 一	京都大学人文科学研究所准教授
〃	〃	本 野 英 一	早稲田大学教授
〃	〃	守 川 知 子	東京大学大学院准教授
〃	〃	森 川 裕 二	長崎大学教授
〃	〃	森 平 雅 彦	九州大学教授
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職 等
研 究 部	研究員(客員)	矢 島 洋 一	奈良女子大学准教授
〃	〃	柳 谷 あゆみ	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	山 内 民 博	新潟大学准教授
〃	〃	山 口 元 樹	京都大学大学院准教授
〃	〃	山 本 真	筑波大学教授
〃	〃	湯 浅 剛	上智大学教授
〃	〃	吉 澤 誠一郎	東京大学大学院教授
〃	〃	吉 田 建一郎	大阪経済大学准教授
〃	〃	吉 田 伸 之	東京大学教授
〃	〃	吉 田 豊	帝京大学文化財研究所客員教授 京都大学名誉教授
〃	〃	吉 村 武 典	大東文化大学講師
〃	〃	和 田 恭 幸	龍谷大学教授

公益財団法人 **東洋文庫年報** 2021年度

2023年3月16日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

公益財団法人 **東洋文庫**

畔柳 信雄

印刷所 富士リプロ株式会社

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

公益財団法人 **東洋文庫**

本書は公益財団法人東洋文庫に対する2022年度文部科学省補助金の一部によって刊行されたものである。